

2023年度 統合報告書

参考和訳

目次

	ルネサスについて 3
	ルネサスについて..... 4
	グローバルネットワーク..... 5
	Renesas Culture..... 6
	2023年度ハイライト 7
	CEOメッセージ..... 8
	2023年度事業業績..... 10
	2023年度スポットライト:製品および開発ツール..... 12
	イノベーションの推進..... 13
	2023年業績ハイライト..... 14
	CFOインタビュー..... 15
	ステークホルダーマネジメント..... 18
	サステナビリティへの取り組み 19
	サステナビリティへの取り組み..... 20
	マテリアリティの評価と結果..... 21
	ESGターゲット:概要..... 22
	2023年度ESGハイライト..... 23
	サステナブルな未来へのイノベーション..... 24
	ESG格付けおよびインデックスの組み入れ..... 25
	イニシアティブへの参画..... 27
	社外表彰..... 28

	環境 (Environment) 30
	リーダーの視点..... 31
	環境に対する取り組み..... 33
	気候変動への取り組み..... 36
	水資源を守る..... 42
	化学物質への対応..... 48
	廃棄物に対する取り組み..... 51
	エコプロダクト活動..... 54
	ルネサス グリーンデバイス..... 57
	生物多様性保全活動..... 64

	社会 (Social) 72
	リーダーの視点..... 73
	ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン..... 75
	人材育成..... 79
	人権保護に対する取り組み..... 82
	安全衛生..... 85
	地域社会との交流と社会貢献活動..... 89
	サプライチェーンおよびパートナー・エンゲージメント..... 93

	ガバナンス (Governance) 96
	ガバナンス体制..... 97
	各取締役のスキルと多様性..... 99
	コンプライアンス・企業倫理..... 100
	リスクマネジメント..... 104
	情報セキュリティのガバナンスとテスト..... 109
	タックス・ポリシー..... 110
	データ集 112
	気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 対照表..... 113
	サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) 対照表..... 115
	グローバル・レポーティング・イニシアチブ (GRI) 対照表..... 118
	環境データ..... 123
	第三者検証:環境データ..... 130
	第三者検証:人材データ..... 131
	本報告書について..... 132
	将来の見通しに関する記述..... 133



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



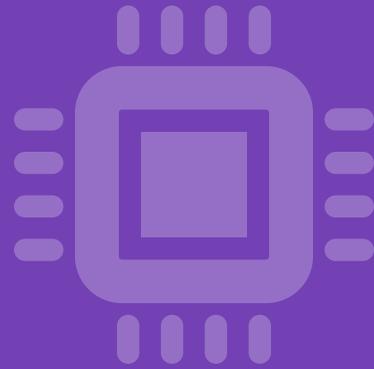
社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



ルネサスについて

ルネサスについて.....	4
グローバルネットワーク.....	5
Renesas Culture.....	6



ルネサスについて

ルネサス エレクトロニクス株式会社 (TSE:6723) は、世界をリードするマイクロコントローラのプロバイダとして、組み込みプロセッシング、アナログ、パワー、コネクティビティの専門知識を結集し、総合的な半導体ソリューションを提供しています。これらのウィニング・コンビネーションは、自動車、産業用機器、インフラ、IoTの開発期間を短縮します。ルネサスは、あらゆるモノとモノをつなぎ、エンドポイントのインテリジェント化を推進するなど、人々の暮らしを楽(ラク)にする技術を通じて、より安全でスマートな、持続可能な未来に貢献します。

自動車



信頼性の高い車載制御、安全で安心な自動運転、環境にやさしい電気自動車

産業



無駄がなく、フレキシブルでスマートなインダストリ

インフラ



安全と豊かさをもたらす堅牢なインフラ

IoT



IoTを活用した安心・健康的で快適なライフスタイル



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



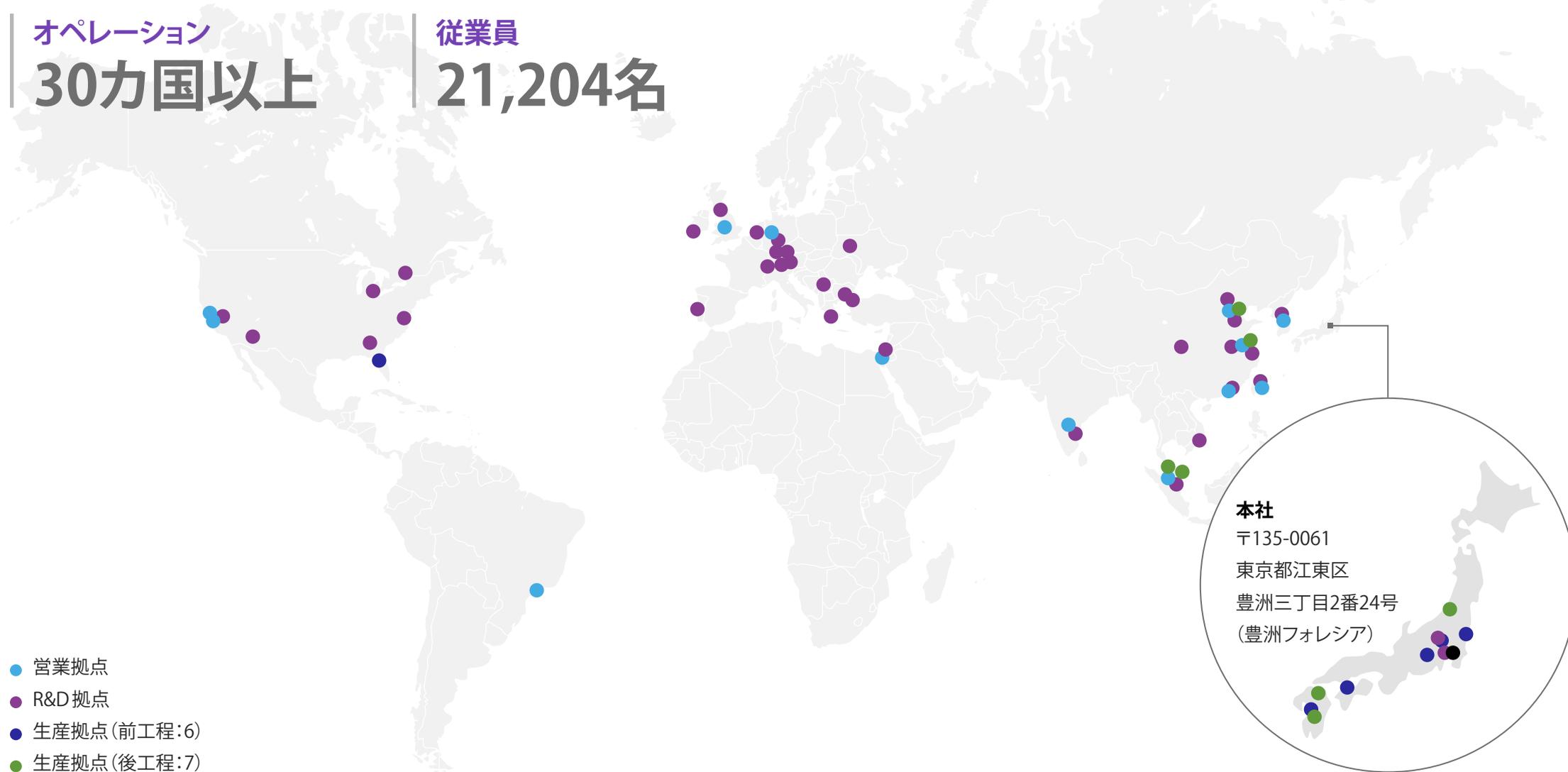
データ集

グローバルネットワーク

ルネサスは現在、東京に本社を置き、世界各地の営業拠点やR&D・生産拠点を通じ、事業を展開しています。各拠点は、それぞれの国の法律および規制に従って組織され、運営されています。

オペレーション
30カ国以上

従業員
21,204名



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

Renesas Culture

ルネサスは、人々の暮らし方を変え、「To Make Our Lives Easier(人々の暮らしを楽(ラク)にする)」というパーパスを達成するための変革の途上にあります。業界の目まぐるしい変化に先駆けイノベーションのスピードを向上するために、ルネサス独自のカルチャーの構築と促進に力を入れています。TAGIEは、社内の協力体制を向上するために欠かせない行動指針です。変化とイノベーションのスピードについていくため、当社は行動指針である「TAGIE」という企業文化の下、日々活動に取り組んでいます。ルネサスでは、従業員が変化に柔軟に適応し、お客様に創造的なソリューションを提供し、会社や社会に貢献することで、TAGIE文化を体現していきたいと考えています。

Transparent



Agile



Global



Innovative



Entrepreneurial



2023年度従業員サーベイの結果

グローバル企業として、ルネサスは常に多様なステークホルダーからのフィードバックを求め、その調整を確実に行うとともに、期待に応えるように努めています。

組織全体においても、カルチャー・バリューの浸透状況を測定する目的で、毎年サーベイを実施しています。経営陣を含め、世界中の従業員からの率直なフィードバックや改善提案に積極的に耳を傾け、それに基づいて行動しています。

回答率

92%

進捗度

69%

の従業員が、過去12ヶ月でTAGIEの改善を実感しました。

コメント

4,448

重点分野

コラボレーション



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



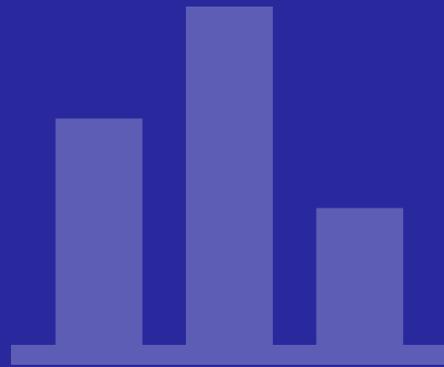
社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



2023年度ハイライト

CEOメッセージ	8
2023年度業績	10
2023年度スポットライト:製品および開発ツール	12
イノベーションの推進	13
2023年業績ハイライト	14
CFOインタビュー	15
ステークホルダーマネジメント	18

CEO メッセージ

2023年12月期は、ウクライナ情勢の長期化、中東情勢の悪化、世界的なインフレーション、金利の上昇等により、世界経済は前期に引き続き低迷するとともに、半導体市場も軟調に推移しました。こうした中、当社は、変化に柔軟に対応し、向かい風にあっても着実に一定の成果を確保するため、様々な施策を積極的に遂行してきました。その結果、当期の売上収益を前期比で微減に押しとどめ、一定の利益水準を確保しました。

当期における施策として、今後の事業成長を加速させるため、近距離無線通信技術に強みを持つ Pantronics 社をグループに迎えるとともに、パワー半導体向け SiC ウエハの安定的な供給確保に向けて、Wolfspeed 社と SiC ウエハの長期供給契約を締結しました。また、新製品としては、業界で初めて高性能の Arm[®] Cortex[®]-M85 コアを搭載した「RA8 シリーズ」マイコン、先進のチップレット技術を用いた R-Car SoC や、次世代車載マイコンから成るロードマップ「第5世代 R-Car ファミリ」、クラウド上でお客様の製品開発を支援するプラットフォーム「クイックコネクスタジオ」等をリリースし、将来の売上収益の源泉となるデザイン・インを数多く獲得しました。

当期は、前期に引き続き、株式市場における当社の存在感が高まった一年となりました。当社株式は日経平均株価を構成する「日経225」に選定され、その時価総額は、年初からの一年間で約2倍に増加しました。ESG の分野においても、国際的に著名な MSCI 社による「MSCI ジャパン ESG セレクト・リーダーズ指数」の構成銘柄に初めて選定されました。また、



ルネサスは、「2023 Aspiration」、さらに当社のパーパスである「To Make Our Lives Easier」を実現すべく、これからも人々の暮らしを楽(ラク)にする製品やソリューションを提供してまいります。そして、同時に、地球社会の一員として環境に配慮し、企業活動を通じて持続可能な社会へ貢献することにより、一層の企業価値向上に努めていきます。

前年度の取り組みが評価されて「CDP サプライヤ・エンゲージメント・リーダー」に認定され、「PRIDE 指標」では2年連続でゴールドを受賞しました。さらに、当社の成長の礎の構築に貢献した(株)INCJが、当社の成長を踏まえ、保有する当社株式の全てを売却しました。

株主還元については、昨年4月に総額約500億円の自己株式の取得を行いました。そして、今般、財務基盤の強化の進捗を踏まえ、配当を再開することとし、株主総会において、1株当たり28円の期末配当を実施する旨の議案を上程しました。今後も、事業環境の変化や長期的な成長のための投資に充てる内部留保金とのバランスを考慮しつつ、可能な限り継続的かつ安定的に株主還元を行っていく所存です。



柴田 英利

代表執行役社長 兼 CEO



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

CEO メッセージの続き

今後に向けた取り組みについて

ルネサスは、今後も、経営目標である「2030 Aspiration」(2030年までに、組み込み半導体ソリューションサプライヤ:トップ3、売上収益:200億ドル以上、2022年1月比時価総額:6倍)の実現に向けて、さまざまな取り組みを継続してまいります。

本年1月には、さらなる成長の加速に向け、組織体制の変更を実施しました。新たな組織体制では、より広範かつお客様のニーズに即したソリューションの提供を強化するため、従来のアプリケーションを軸とした組織から、技術を軸とする事業構造に再編しました。加えて、当社のスケールを最大限に生かすため、業務領域ごとの全社横断的な組織も発足させました。

2030 Aspiration

トップ3

組み込み半導体ソリューションサプライヤ

200億ドル以上

売上収益

6倍

時価総額(2022年対比)

また、当社は、クラウドベースのプラットフォームを提供することで、お客様のソリューション構築を楽(ラク)にするデジタルライゼーション戦略を推進しています。その実現に向け、ソフトウェアとデジタルライゼーションに特化した組織を新設しました。そして、今年2月には、当社のデジタルライゼーション戦略を加速させる重要な施策として、プリント基板(PCB)設計ソフトウェアのリーディング企業であるAltium社の買収に合意しました。

加えて、当社の成長の柱の一つとなるパワー半導体に関して、SiCだけでなくGaNを含めたポートフォリオの強化・拡大のため、今年1月に、GaN技術に強みを持つTransphorm社の買収に合意しました。

さらに、コーポレートガバナンスの強化のため、指名委員会等設置会社への移行を株主総会の議案として上程しております。当社はまた、取締役会の多様性目標を新たに30%に設定しました。

ルネサスは、「2023 Aspiration」、さらに当社のパーパスである「To Make Our Lives Easier」を実現すべく、これからも人々の暮らしを楽(ラク)にする製品やソリューションを提供してまいります。そして、同時に、地球社会の一員として環境に配慮し、企業活動を通じて持続可能な社会へ貢献することにより、一層の企業価値向上に努めていきます。

変化し続けるルネサスにご期待ください。

柴田英利

柴田 英利

代表執行役社長 兼 CEO

2023年度事業業績

ルネサスでは、自動車とIoTの2つのセグメント別に業績を開示しています。

自動車は、次の2つのサブセグメントで構成されます。

車載制御(走る、曲がる、止まるなど)の車両機能を担う半導体やxEV関連製品向けの半導体、および車載情報(IVIおよびAD/ADAS機能用)の半導体。

IoTは、次の3つのサブセグメントで構成されます。

産業用(ファクトリーオートメーションやビルディングオートメーションなどの最終市場向け)半導体、その他(PC、携帯電話、家電製品やウェアラブルデバイスなど)の民生機器向けの半導体、およびインフラ(データセンターおよび基地局用など)向け半導体。

セグメント	売上収益	売上総利益率	営業利益率	主要アップデート
自動車 	6,950億円	52.3%	34.3%	<ul style="list-style-type: none"> 自動車部門全体の売上高は、2022年と比較して7.8%増加しました。これは、顧客の在庫調整によるマイナス影響を、円安、車両価格の上昇、自動車増産台数および車両当たりの半導体含有量の増加が相殺した結果によるものです。 車載制御と車載情報はいずれも前年比で一桁台後半の増加率を示し、特にxEVとADASは、2022年と比較してそれぞれ前年比20%と30%という高い成長を示しました。 当期の自動車部門の売上総利益率は52.3%で、製品ミックスの改善などにより、前年度に比べ2.0%増加しました。 当期の自動車部門の営業利益率は34.3%で、前年度に比べ0.2%上昇しました。R&D強化による原価増加はあったものの、製品ミックスの改善が利益率の増加に貢献しました。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

2023年度業績の続き



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

セグメント	売上収益	売上総利益率	営業利益率	主要アップデート
IIoT 産業 	7,647億円	61.6%	33.9%	<ul style="list-style-type: none"> IIoTセグメント全体の売上高は、2022年と比較して9.6%減少しました。データセンター向け製品の一部で円安効果や値上げ効果、売上増があったものの、IoTおよび産業用機器セグメントにおける顧客の在庫調整の影響が大きかったため、セグメント全体では減収となりました。 産業用機器セグメントの売上高は、ファクトリーオートメーション製品の成長が産業用機器最終市場向けの標準製品および量販製品の減少によって相殺されたため、前年同期比一桁台前半の増加率にとどまりました。IoTセグメントの売上高は、PC、モバイル、その他の消費者向け製品の顧客の在庫調整により、10パーセント台後半の減少となりました。インフラセグメントでは、データセンター向けDDR5対応メモリインターフェース製品の伸長が顕著であったものの、顧客の在庫調整の影響で、ほぼ前年同期並みの売上高となりました。 当期のIIoTセグメントの売上総利益率は61.6%となり、前年度に比べ1.7%減少しました。売上高減少と工場稼働率の低下による利益率の低下が、主な要因です。 当期のIIoTセグメントの営業利益率は33.9%となり、前年度に比べ5.3%ポイント低下しました。売上高の減少による利益率の低下と、将来の成長に向けた研究開発費の増加の両方が影響したものです。
IoT インフラ 				
IoT 				
全社合計	1兆 4,697億円	57.0%	34.1%	

2023年度スポットライト：製品および開発ツール



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



プロトタイプ開発を迅速に実現する「クイックコネクスタジオ」をリリース

プロトタイプのデザインサイクルとオンライン開発を加速するクイックコネクスタジオ

ルネサスが2023年3月に発売するクイックコネクスタジオは、ユーザーがハードウェアとソフトウェアをグラフィカルに構築することで、プロトタイプを迅速に検証して製品開発を加速できる画期的なオンラインのクラウドベースIoTシステム設計プラットフォームです。このプラットフォームはエンジニアにとって常に課題である、プロトタイプ開発を合理化し、開発時間を大幅に短縮します。クイックコネクスタジオを用いることで、ハードウェアとソフトウェアの開発を同時に行うことができます。これは業界における劇的な変化であり、設計者は製品のアイデアを素早く再構成してテストすることで、ソフトウェアを即座に構築できるようになります。これにより、エンジニアはハードウェアのレイアウト決定前に設計を検証できるため、時間を大幅に節約し、リスクを軽減できます。[\(詳細はこちら\)](#)



グラフィックス表示や、ビジョン&音声のAI応用を実現する32ビット高性能RA8D1マイコンを発売

ルネサスの新しい超高性能 MCU は、業界で初めて Arm Cortex®-M85 プロセッサを搭載

2023年10月、当社は、新たに高性能マイコンを発表し、3,000 CoreMarkを超える画期的な性能と、お客様のさまざまなニーズを満たす、低レイテンシのリアルタイム操作を実現しました。新しいRA8シリーズMCUは、業界初となるArm® Cortex®-M85プロセッサを搭載しており、業界最高クラスの6.39 CoreMark/MHzの性能を発揮します。この性能により、システム設計者は、これまでマイクロプロセッサ (MPU) が必要だった用途において、RA MCUを使用できるようになります。この新シリーズは、Arm Cortexプロセッサをベースとしたルネサスの人気の高いMCU RAファミリの一員です。他のRAデバイス用に作られた既存の設計は、新しいRA8 MCUに容易に移行することができます。[\(詳細はこちら\)](#)



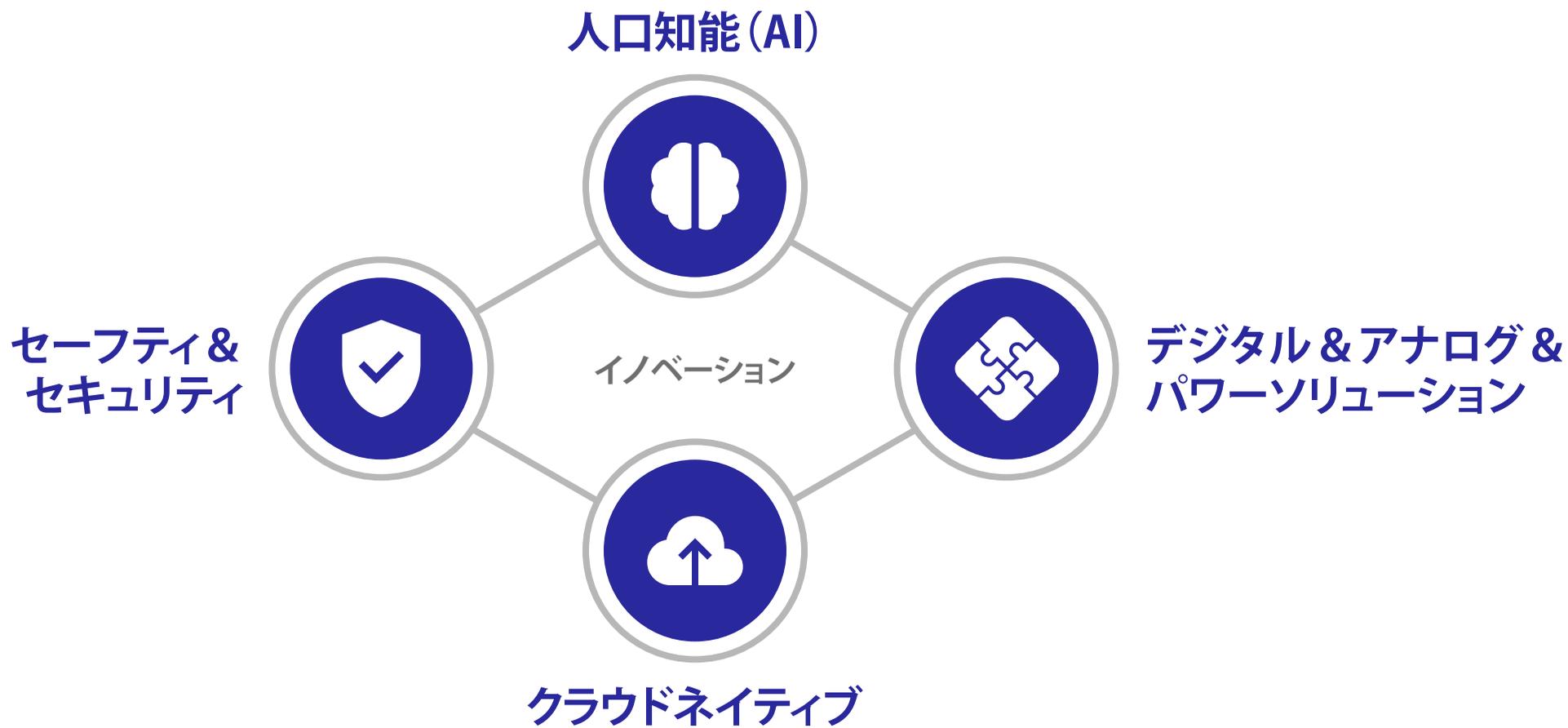
車載AIソフトウェアをクラウドで開発、評価できるルネサスの開発環境「AI Workbench」

新しいAIワークベンチがクラウドベースの自動車設計機能を提供

ルネサスは2023年12月、車載AIエンジニアが車載ソフトウェアの設計、シミュレーション、微調整を、クラウドベースで行える統合仮想開発環境「AI Workbench」の開発を発表しました。PCにツールをインストールしたり、評価ボードを入手したりせずに、オンラインでシミュレーションツールを使用して性能評価、デバッグ、検証などの作業を実行できます。Microsoftとのコラボレーションによるこのアプローチは、実際のハードウェアが利用可能になる前であっても、設計サイクルの早い段階でソフトウェアの作成とテストを可能にする「シフト・レフト」アプローチに沿ったものです。この環境は、製品タイプやアプリケーションに関係なく、ルネサスのスケーラブルな車載用SoCおよびマイクロコントローラ (MCU) を設計・テストするための統合開発プラットフォームとして機能します。[\(詳細はこちら\)](#)

イノベーションの推進

ルネサスは、既定の4つの主要技術分野だけでなく、その他の一般的な基幹技術や実装を含む幅広いテクノロジーや事業をカバーする、約**20,000件の有効な特許**からなる強固なポートフォリオを有しています。また、サステナビリティの観点から選ばれた技術分野にも注力しています。当社のポートフォリオは、回路やシステム関連の発明に戦略的に重点を置くだけでなく、有益で競争力のある技術を持つ企業の合併・買収を通じて強化されています。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

2023年業績ハイライト



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

売上収益

1兆4,697億円

売上総利益率

57.0%

営業利益率

34.1%

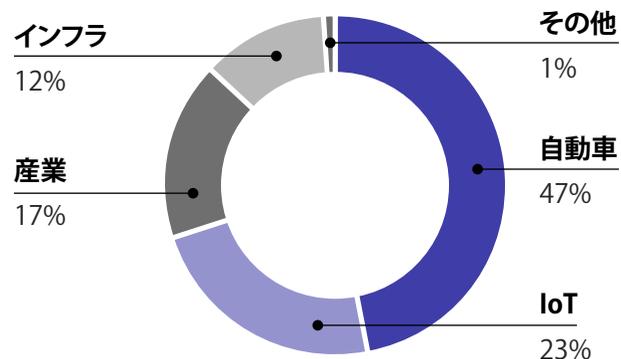
親会社の所有者に帰属する当期利益

4,329億円

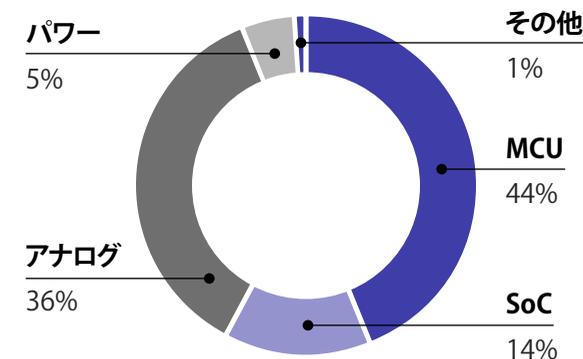
EBITDA

5,819億円

セグメント別売上収益



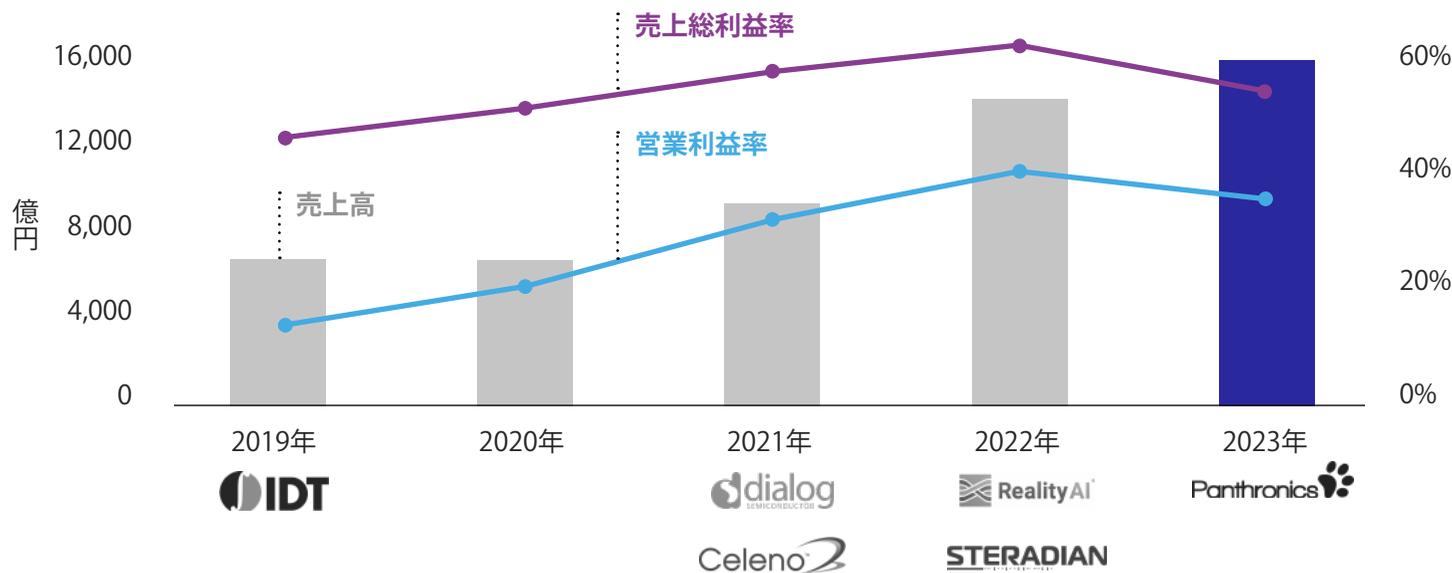
プロダクト別売上収益



成長の軌跡

(売上収益)

(売上総利益率、営業利益率)



CFO インタビュー

2023年の半導体業界は、PCおよびモバイル分野から自動車、産業、マスマーケットに至るまで、さまざまなエンドマーケットで在庫調整によるダウンサイクルに見舞われた一年でした。このような市場環境下において、当社はダウンサイクルでも利益率を維持するために、在庫と費用を可能な限り厳格にコントロールすることを優先事項としてきました。具体的には、お客様の過剰在庫を削減・防止するために、お客様と積極的にコミュニケーションを取り、当社在庫と販売チャネル在庫の状況を注意深くモニタリングしました。

また、在庫増加の兆しを察知した際には、速やかに生産を調整しました。この調整の結果、2023年の工場稼働率は低下しましたが、それにもかかわらず一定の売上総利益率を確保できました。これは、過去5年間、財務パフォーマンスのボラティリティを抑えることに注力し、努力してきた成果によるものです。その一例として、生産の外部委託比率の拡大が挙げられます。ファブライツ戦略の推進により、当社の前工程における外部生産委託比率は60%以上となっています。製品やアプリケーションの多様化も、当社の事業運営のレジリエンスを高めることに貢献しています。また、これまでしっかりと在庫管理や生産管理を行ってきた結果、大幅な過剰在庫や売上の急激な減少はありません。

在庫管理と生産管理に加え、ダウンサイクルにおいても、販売費・一般管理費の節減にも精力的に取り組むとともに、研究開発を活用し、将来の成長機会を加速させました。



**ルネサスは、お客様により良いサービスを提供し、従業員、ビジネスパートナー、そして株主の皆様
の明るい未来に貢献する方法を模索し続けると
ともに、財務基盤の強化に励みます。**

2023年の主な財務ハイライトは以下が挙げられます。

- 売上収益: 1兆4,697億円、売上総利益率: 57.0%、営業利益率: 34.1% (Non-GAAP)、フリーキャッシュフロー: 3,792億円
- 2022年に続き、株主還元として500億円の自社株買いを実施。2023年度の通期業績を踏まえ、1株当たり28円での配当再開を決定。
- 為替市場が不安定で円安が進む環境下において、円高リスクを軽減するため、米ドルに対する為替ヘッジを継続して実行。マルチカレンシー・ノーショナル・プーリングを導入し、関係会社間キャッシュプーリング方法を変更。為替変動に伴う営業外の業績インパクトを最小化する取り組みを実施。

2023年の配当再開について

構造改革、成長投資、M&A を経て強靱な財務体質を構築し、ルネサスは、2004年度以来となる配当再開を果たしました。競合他社の配当利回りなどのさまざまな要素を考慮した上で、



新開 崇平
執行役員 兼 CFO



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

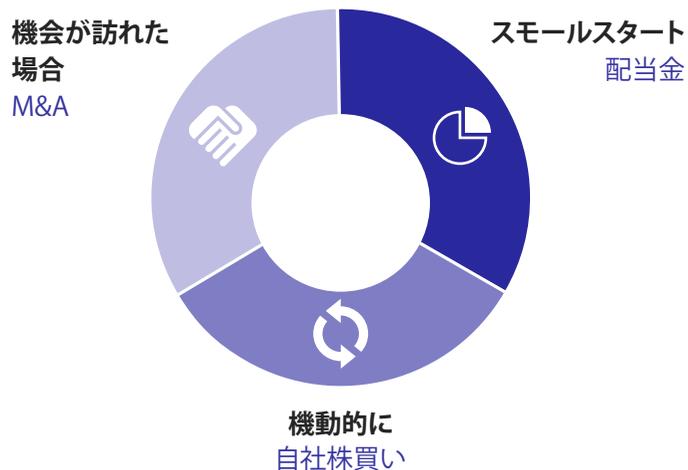
CFO インタビューの続き

慎重に開始することにしました。今後も、可能な限り継続的かつ安定的な配当に努めてまいります。

当社の主なキャピタルアロケーション方針に変更はありません。配当は継続的に行う予定です。また、将来の成長に必要なM&Aも継続して行っていきます。フリーキャッシュフローに余裕がある場合には、株主還元の柔軟かつ機動的な選択肢として、自社株買いも検討していきます。

自己株式については、従業員への株式報酬に必要な金額を保有し、残余分は消却する予定です。発行済株式総数の5%を超えない水準を企図しています。

キャピタルアロケーション



今後の展望

ルネサスは、2022年比で6倍の時価総額と200億ドルを超える売上収益を誇る、トップ3の組み込み半導体ソリューションサプライヤになるという「2030 Aspiration」に向けて取り組んでおり、これらを実現するための戦略を実行しています。投資家との建設的な対話を促進し、中長期的な企業価値向上を図るための方針と体制を整備しています。例として、当社のIR専門家からなる専任チームは、投資家をはじめ、当社CEOや私を含む経営幹部と定期的に意見交換を行い、年間を通じて主要な投資家カンファレンスに積極的に出席しながら、当社の財務パフォーマンス、成長戦略、最新の進捗をグローバルな投資家やアナリストと直接共有しています。

「2030 Aspiration」の達成に向けた施策はさまざまですが、その一例がダウンサイクルマネジメントです。2024年も引き続き、販売チャネルと当社在庫の管理、および経費節減に重点的に取り組んでいきます。また、今後の市況の上昇を見越して、ダイバースな投資家やアナリストと直接共有する予定です。

2021年以降、将来の事業成長を確実なものとするため、当社の技術や製品を補完するTuck-in型買収やマイノリティ出資に積極的に取り組んできました。2024年も、これまでに買収した企業とのシナジーを発揮し続けるために、ポスト・マージャー・インテグレーション (PMI) をさらに推し進めていきます。そのようにして、今後の成長のための基盤を築いていくことができると考えています。当社が最近発表したTransphorm社(2024

年1月) およびAltium社(2024年2月)の買収は、それぞれ規制要件を満たし、買収手続きを確実に完了する予定です。

さらに、より効率的かつ効果的に財務戦略を策定し、実行するために、人工知能(AI)やその他のテクノロジーを慎重に取り入れていきます。これによって、効率性を高めることができ、テクノロジーを活用して事業を拡大します。

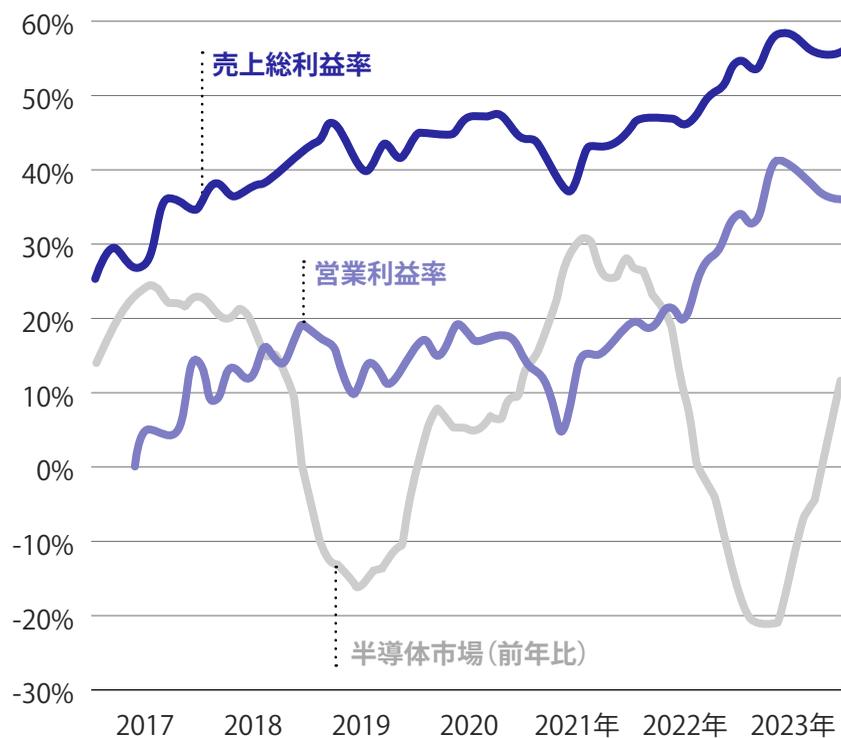
ルネサスは、お客様により良いサービスを提供し、従業員、ビジネスパートナー、そして株主の皆様の明るい未来に貢献する方法を模索し続けるとともに、財務基盤の強化に励みます。

CFO インタビューの続き

オペレーショナル・レジリエンス

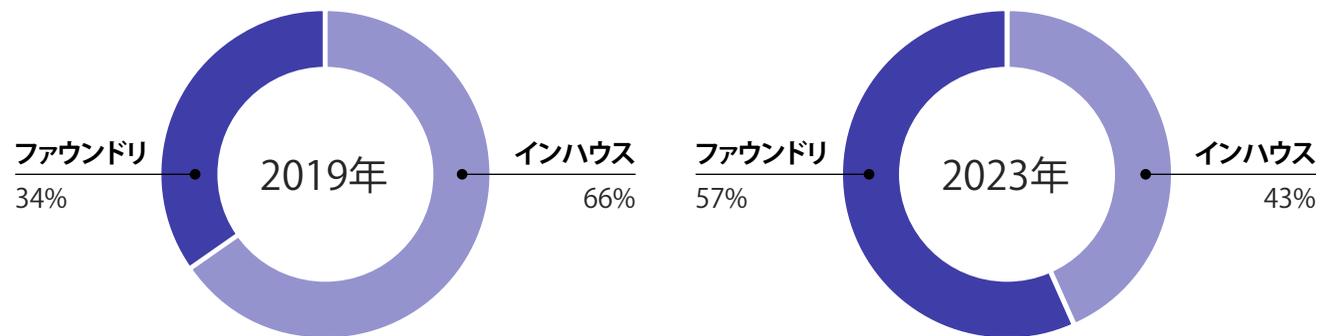
利益率の推移

利益率¹ / 半導体市場²

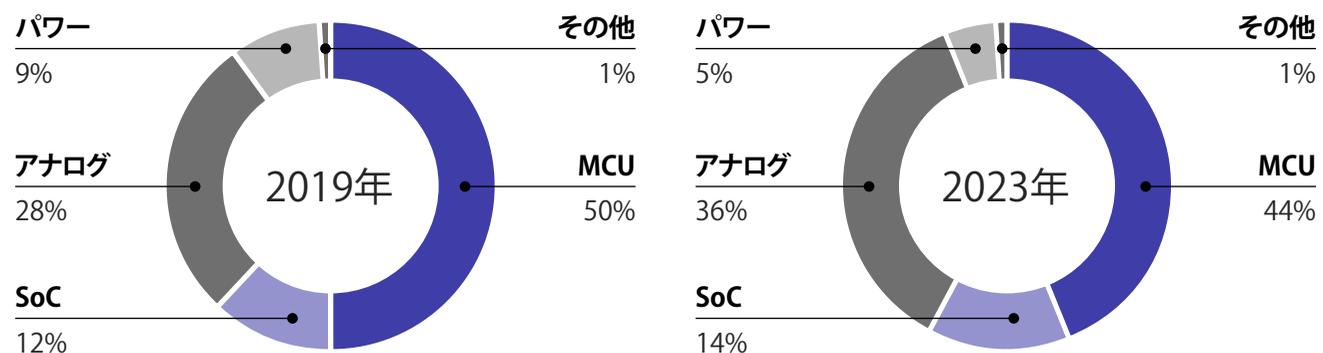


1 社内データ、Non-GAAP。四半期ベース
2 米国半導体工業会 (SIA) 発表、世界半導体売上高

前工程の生産

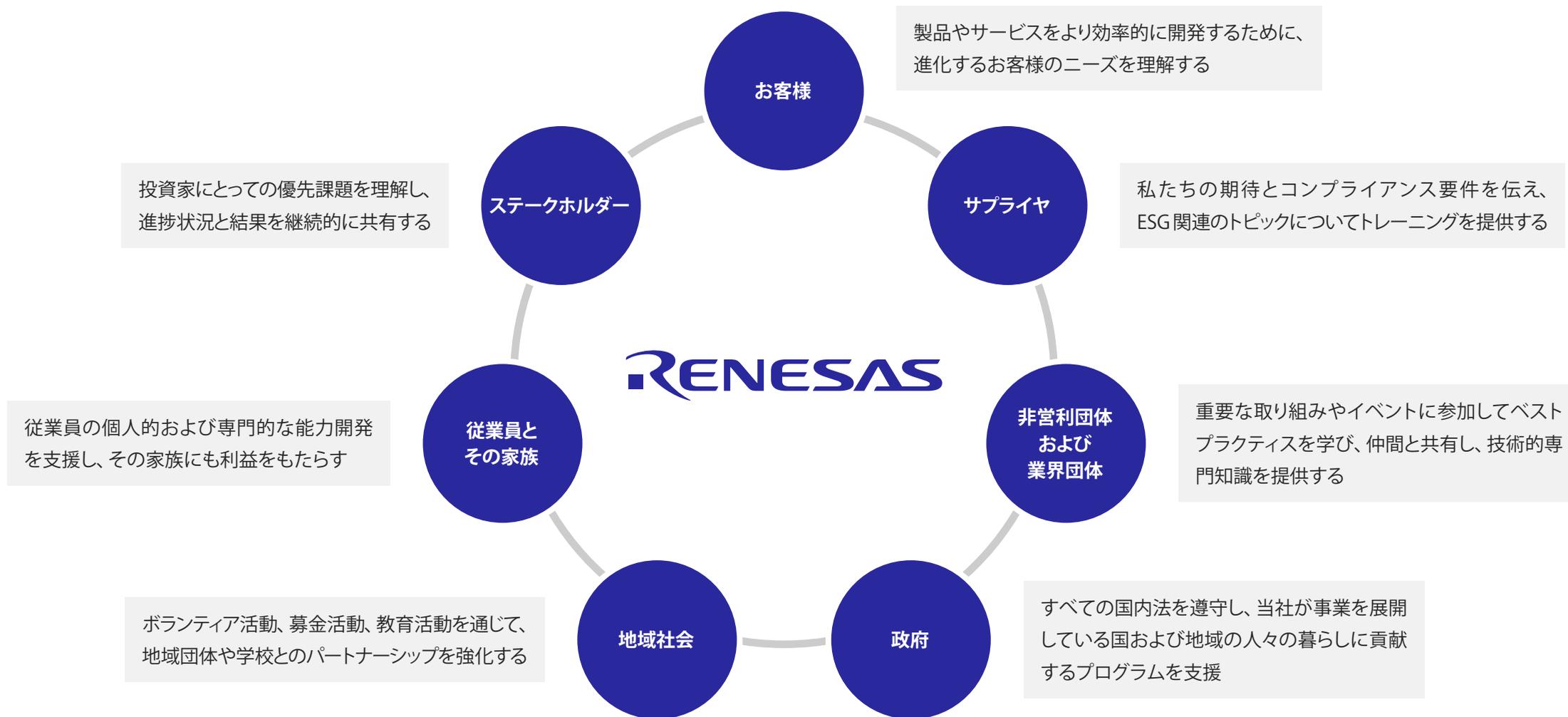


製品構成



ステークホルダーマネジメント

私たちは、ルネサスの事業運営とサステナビリティへの取り組みが当社の主要なステークホルダーと世界中のコミュニティに与える影響を認識しています。そのため、当社のESG戦略は、さまざまなステークホルダーの優先事項と懸念事項との整合性を確保し、下記の目標に基づいて取り組んでいます。





目次



ESGについて



2023年度ハイライト



ESGへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



サステナビリティへの 取り組み

サステナビリティへの取り組み	20
マテリアリティの評価と結果	21
ESGターゲット:概要	22
2023年度 ESG ハイライト	23
持続可能な未来へのイノベーション	24
ESG 格付けおよびインデックス	25
イニシアティブへの参画	27
社外表彰	28



サステナビリティへの取り組み



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



世界中に21,000名以上のプロフェッショナルを擁するルネサスのチームは、ひとつのパーパスのもとに団結しています：

To Make Our Lives Easier

当社の製品とソリューションは、お客様、従業員、パートナー、投資家にとってより持続可能な未来を構築するという当社の長期的なコミットメントを反映しています。

私たちは、高度なテクノロジーと専門知識の組み合わせを駆使し、独自の環境、社会、ガバナンス (ESG) 目標を達成し、国連の13の持続可能な開発目標 (SDGs) の支援に努めています。

2023年度は、下記の主要分野での取り組みを強化しました。詳細は各セクションにてご覧ください。

- グローバルなデータ開示
- 温室効果ガス排出量の削減
- サプライヤ・エンゲージメント
- ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン
- 従業員の健康、安全と幸福
- 取締役会の新たな構成

マテリアリティの評価と結果

当社では、変化し続けるステークホルダーの優先事項に確実に対応するために、包括的な重要性評価を毎年実施しています。社内外のステークホルダーからの意見に基づき、重要課題に対処し、ESGリスクを最小化するための即時および複数年の行動計画を策定しています。

相互に重要な ESG 課題を特定し優先順位をつけるために、評価の過程で CEO や経営幹部、機能別および ESG 分野の専門家（人事、環境、事業部門長、リスク管理、調達など）を含むルネサスの多様なリーダーやチームと協力しています。サステナビリティ推進室は、毎年策定する KPI の達成に向けて主要部門と連携し、進捗状況を経営層に報告するとともに社外にも公表しています。

人材マネジメント

- 健康、安全、幸福
- 人材獲得、従業員エンゲージメント、維持
- ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン



環境

- 気候変動、エネルギー、排出量
- 水資源の適正利用
- 廃棄物、化学物質、製品のライフサイクル管理



社会

- 価値の創造と分配
- 戦略的調達



事業のサステナビリティ

- イノベーションマネジメント
- バリューチェーンのレジリエンス
- 顧客エンゲージメントと品質基準
- 財務のレジリエンス



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

ESGターゲット:概要



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

環境



地球温暖化ガス (GHG) 排出量

- 2030年までに38%削減
- 2050年までにカーボンニュートラルを達成

水資源を守る

- 2030年までに水使用量を33%削減
- 2030年までに水リサイクル率35%を実現

廃棄物に対する取り組み

- 廃棄物のリサイクル率90%以上を達成

社会



サプライヤリスク評価

- すべての主要サプライヤがRBA行動規範で自己評価「ミドルリスク」以下であることを確認

サプライヤのオンサイト監査

- すべての主要サプライヤを3年以内に監査

紛争鉱物

- 100%コンフリクトフリーの3TG (タングステン、 tantalum、 tin) を達成

労働安全衛生

- すべての主要生産拠点でISO 45001を取得

ガバナンス



取締役会のジェンダーダイバーシティ

- 取締役会の少なくとも30%を女性が占めることでジェンダー平等を推進

独立役員

- 独立役員50%以上を目指す

2023年度 ESG ハイライト



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

環境

17.9%

達成された GHG 排出量の削減
(2023年と2022年の合計と、2021年の実績の比較)

約80%

持続可能性を重視した、新リリース製品

- 当社の売上収益の**70%**は、持続可能性を重視したエコ製品の販売によるもの
- エネルギー消費量を**2.6%**削減
- 水使用量を**36%**改善
- 水リサイクル率**33%**を達成
- 廃棄物リサイクル率**90%**を達成

社会

100%

ISO450001認証を取得済みの主要生産拠点

96%

ルネサスのサプライヤ行動規範への同意と支持を確認したグローバルサプライヤ

- 2年連続で **CDP サプライヤ・エンゲージメント・リーダー**に認定され、**プライド・インデックス・ジャパン**からも最高位の「ゴールド」評価を再度獲得
- 従業員が最長30日間外国で働くことができる新しい**海外リモート勤務プログラム**に400件の申請を受付
- **PRIDE**および **Renesas International Support and Empowerment (RISE)** 従業員グループを発足
- **Inspiring Girls International**、**High-Tech High Heels**、**UK Electronics Skills Foundation** との連携を拡大
- 社会貢献活動の一環として**3,800万円**を寄付、**300万円**相当の従業員ボランティア活動時間を通じて貢献

ガバナンス

30%

取締役会のダイバーシティに関する目標設定
(2024年第1四半期に達成)

98.8%

コンプライアンス文化について
前向きに考えている従業員

- **社外取締役比率80%**以上を達成(目標50%)
- 毎年実施される行動規範従業員トレーニングの**修了率91%**を達成
- 贈収賄防止および**汚職防止ポリシー**、**内部告発ポリシー**、**コンプライアンス調査ポリシー**など、いくつかの新しい独立したグローバルポリシーをリリース
- IATF16949やISO9001と連携する自動車セキュリティ規格「**TISAX**」認証を取得
- **年中無休のセキュリティオペレーションセンター**など、ビジネスに対する潜在的な攻撃を特定し防止するためのセキュリティ機能を強化

持続可能な未来へのイノベーション

2023年も、ルネサスは4つのキーテクノロジーとして掲げる「人工知能(AI)」、「セーフティ&セキュリティ」、「デジタル&アナログ&パワーソリューション」、「クラウドネイティブ」でイノベーションを加速し続けました。ルネサスでは、お客様や人々の暮らしを向上させ、環境に優しく安全性を重視した製品を開発しています。

2023年にリリースした製品とソリューションには以下のものがあります。

エネルギー効率

- EV充電スタンド／車両クラスター制御向けソリューション
- DDR5メモリモジュール用IC
- ビームフォーミングIC
- IGBT
- RZ/T2L

セーフティ&セキュリティ

- 空気質測定
- 次世代車載用 SoC およびマイコンのロードマップ
- ISO/SAE 21434ソリューション
- 高セキュアマイコン RA8 シリーズ

ISSCC 2023で注目されたルネサスのテクノロジー

自動車市場およびIoT市場におけるルネサスの革新的な技術を紹介する技術論文が、ソリッドステート回路とSoCの進歩を発表する世界有数のフォーラムであるISSCC (国際固体素子回路会議) 2023で発表されました。



自動車

“A 33kDMIPS 6.4W Vehicle Communication Gateway Processor Achieving 10Gbps/W Network Routing, 40ms CAN Bus Start Up and 1.4mW Standby Power”

IoT

“Single Chip, Qi Compliant, 40W Wireless Power Transmission Controller using RMS Coil Current Sensing and Adaptive ZVS for 4dB EMI and up to 1.7% Efficiency Improvements”



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

ESG 格付けおよびインデックス

当社は、ESG方針と実践に関する世界的・地域的な評価と、データ開示の改善に誇りを持っています。今後も、お客様やビジネスパートナー、投資家に対して、当社のESGコミットメントをさらに証明するべく、取り組みを続けてまいります。

	インデックス／格付けの名称	2023年の格付け／スコア	スケール
	FTSE ESG	4.5	1-5
	FTSE4Good Index	インデックス構成銘柄	—
	FTSE Blossom Japan Index	インデックス構成銘柄	—
	FTSE Blossom Japan Sector Relative Index	インデックス構成銘柄	—
	MSCI ESG 格付け	AA	CCC - AAA
	MSCI 日本株女性活躍指数	インデックス構成銘柄	
	CSA (コーポレートサステナビリティ評価)	65	1-100
	Company ESG Risk Ratings	19.4 (低リスク)	50 - 1 (高リスク - 低リスク)
	気候変動	B	D- - A
	水セキュリティ	B	D- - A
	サプライチェーン	A	D- - A
	Gender Diversity Tilt Index	インデックス構成銘柄	—



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

ESG 格付けおよびインデックスの組み入れの続き

	インデックス／格付けの名称	2023年の格付け／スコア	スケール
	カーボン・エフィシエント指数	インデックス構成銘柄	—
	PRIDE 指数	ゴールド	ブロンズ、シルバー、ゴールド
	サステナビリティ指数	インデックス構成銘柄	—



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

イニシアティブへの参画

グローバルな業界リーダーとして、当社は戦略的パートナーシップを形成し、持続可能性と多様性を重視したさまざまなイニシアティブに取り組んでいます。



社外表彰

ルネサスは、2023年に以下の賞を受賞しました。



MSCI ESGレーティングにおいて「AA」獲得

ルネサスは、モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社 (MSCI社) のMSCI ESGレーティングにおいて「AA」評価を初めて獲得しました。「AA」評価は、MSCI ESGリサーチから付与される最上位から2番目の評価です。MSCI ESGリサーチは、環境・社会・ガバナンス (ESG) に関連した企業の取り組みについて、詳細な調査、格付け、分析をグローバルで実施しています。[\(2023年1月27日発表\)](#)。



CDP 2023サプライヤ・エンゲージメント・リーダー認定

2024年3月、ルネサスはCDP 2023 サプライヤ・エンゲージメント評価 (SER) において2年連続で最高評価を獲得しました。SERは、企業が気候変動課題に対してサプライヤとどのように効果的に協働しているかを評価するためのものです。この評価は、CDPによる気候変動アンケートのうち4つのカテゴリ (ガバナンス、目標、スコア3排出量、バリューチェーンエンゲージメント) において高いスコアを獲得した上位8%の企業に与えられました。



PRIDE指標2023にて最高評価の「ゴールド」を2年連続で受賞

ルネサスは、PRIDE指標2023にて最高評価の「ゴールド」を2年連続で受賞しました。この指標は、日本のwork with Prideが策定した、企業・団体等におけるLGBTQ+などの性的マイノリティに関する取り組みを評価するためのものです。[\(2023年11月21日発表\)](#)。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

社外表彰の続き



2023年、SNAM サステナビリティ・インデックス構成銘柄に選定

ルネサスは、2019年以来、損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社 (SNAM) が設定する「SNAM サステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に選定されています。「SNAM サステナビリティ・インデックス」とは、ESGの評価が高い企業に幅広く投資する年金基金・機関投資家向けに、長期的な観点で運用されているインデックスです。毎年、ESGの評価に優れた約300銘柄が選定されます。



半導体オブ・ザ・イヤー2023にて「優秀賞」を受賞

ルネサスの「xEV向けインバータ用次世代パワー半導体 Si-IGBT」が、産業タイムズ社が主催する「半導体オブ・ザ・イヤー2023」の半導体デバイス部門において「優秀賞」を受賞しました。IGBTの性能だけでなく、安定供給体制の確立、インバータソリューションの提供などが高く評価されました。



Electronics Industry Award

ルネサスは、Electronics Industry Awards を2つ受賞しました。高解像度レーダートランシーバー「RAA270205」が「Automotive Product of the Year」を受賞し、モータ制御用 MPU「RZ/T2M」が「Semiconductor Product of the Year」を受賞しました。



EE Awards Asia

ルネサスは、年間最優秀MCU／ドライバIC製品に選ばれた Arm Cortex[®]-M85コアで使用される RA8プロセッサを含む、先進的な製品とソリューションで2つの賞を受賞しました。また、Reality AIテクノロジーが「AI product of the year」最優秀賞を受賞しました。EE Awards Asia は、半導体およびエレクトロニクス業界のトップメーカーや専門家が集まり、それぞれの分野で大きな功績を残した貢献者に授与される名誉ある賞です。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



環境 (Environment)

リーダーの視点.....	31
環境に対する取り組み.....	33
気候変動への取り組み.....	36
水資源を守る.....	42
化学物質への対応.....	48
廃棄物に対する取り組み.....	51
エコプロダクト活動.....	54
ルネサス グリーンデバイス.....	57
生物多様性保全活動.....	64



リーダーの視点

統合的経営への注力

過去数年間にわたる取り組みの結果、ルネサスはサステナビリティ目標達成に向けて、社内、ファウンドリ、社外などの各オペレーションを一体化できるようになりました。これは、当社の調達部門とすべてのサプライヤーとが一つのチームとして緊密に連携し、実現したものです。

こうしたチームワークは、私たちが暮らし、働いているコミュニティやその他の地域の環境に改善に貢献するとともに、組織全体の業務効率の向上にもつながります。

ルネサスは、次の3つの環境保護目標の達成に向けた取り組みをこれからも続けてまいります。

- 温室効果ガスの排出量削減
- 水資源の適正利用
- 廃棄物のリサイクル推進

サプライチェーンパートナーとの取り組み

上記の取り組みは、当社の直接的な組織にとどまらず、サプライチェーンパートナーも対象にしたものです。生産チームは環境推進部門と連携し、生産プロセス全体を通じてグローバルな目標達成に努めています。しかし、目標達成のためには、



こうしたチームワークは、私たちが暮らし、働いているコミュニティやその他の地域の環境に改善に貢献するとともに、組織全体の業務効率の向上にもつながります。

サプライチェーンメンバーとの緊密な連携が不可欠であることも認識しています。

当社では、省エネルギー、グリーンエネルギーの活用、パーフルオロ化合物 (PFC) ガス削減装置などの技術への投資により、自社の排出量 (スコープ1および2) を削減してきました。

排出量の約3分の2がスコープ3 (サプライヤー) からのものであるため、サプライチェーンメンバーとの緊密な協力は、この分野における進捗に大きな影響を与える可能性があります。

こうしたコラボレーションの重要な要素として、年一回のサプライヤー監査が挙げられます。本年度は調査への参加率80%を目指し、人権に重点を置きます。さらに、2024年半ばにサプライヤーフォーラムを開催し、ルネサスの環境目標、取り組み、計画を共有する予定です。



Sailesh Chittipeddi, Ph.D.

執行役員常務
兼 オペレーションヘッド



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

リーダーの視点の続き

このフォーラムは、業界内の最善例をはじめ、サプライヤとの協働や教育の機会を増やすことを目的として構成されます。

私たちは、パートナーによる環境および業務パフォーマンスを向上させるための自主的な取り組みをサポートするために、サプライチェーン全体を通じたトレーニングの強化に力を入れています。全体としての影響は、全体的な改善・向上の結果は、ルネサスのサプライチェーンに関与するすべての参加者にとって有益なものとなるでしょう。

人工知能 (AI) による業務効率の向上

ビジネスや生活のさまざまな状況で人工知能 (AI) が活用される中、ルネサスは、環境への影響や事業効率にプラスの影響を与える機会を実感しています。AI機能をもっと活用していけば、世界各地の工場におけるリスクとコストを最小限に抑えつつ、従来よりも適切な製品開発が可能で、設計とテストの双方でAIを活用していくことは、機器のモニタリング精度が向上することになるので、生産性の向上につながります。例として、機器内のごくわずかなガス漏れを検知し、メンテナ

ンスを通知します。これにより、機器の寿命を延ばし、チームの健康と安全を守ることができます。

AIをルネサス製品に直接組み込むことは、消費者の生活の向上に貢献することにもなります。「エッジ」またはエンドポイント向けの当社製品のAI機能は、事業の中核をなすものであり、これによって当社は、より「インテリジェント」な技術を自社の製品に統合し、より高い電力効率とユーザーエクスペリエンスの向上を実現することで、顧客により良いサービスを提供することができます。

統合的経営、インテリジェントテクノロジーの活用、世界各地のサプライヤとのより緊密なパートナーシップを通じて、今年度以降もさらに多くの成果を達成できると確信しています。

環境に対する取り組み

ルネサスは、CEO承認のもと制定した環境基本理念および環境行動指針に従い、生産活動における環境負荷の低減を推進すると共に、お客様の環境性能向上を担う環境配慮型製品を開発しています。

環境行動指針

私たちは、研究開発・設計・調達・生産・販売・流通・使用・廃棄にいたる全ライフサイクルで環境に配慮した半導体製品やソリューションを提供し、長期的で持続可能な社会に貢献します。

事業のあらゆる分野において、環境負荷の低減を図るとともに環境汚染の防止に努めます。また、環境関連法規を順守し、グローバルな環境管理システムを継続的に改善します。

- **気候変動への対応:**バリューチェーン全体でエネルギーを削減し、効率的に使用するとともに、温室効果ガスの排出量削減に努め、カーボンニュートラルを目指します。
- **資源の有効活用:**事業活動に必要となるすべての資源を効率的に活用します。特に、水資源の適正利用に努め、事業活動で発生する廃棄物を最小化するとともに、リサイクルを推進します。
- **生物多様性の保護:**豊かで健全な社会を支える大切な概念であることを常に意識し、事業活動を通じて生物多様性の保全に貢献する活動を推進します。

私たちは、ステークホルダーへの環境情報開示を図り、相互理解のためにコミュニケーションを進め、より良い社会の実現に貢献します。

環境マネジメントシステム

ルネサスは、環境基本理念、環境管理基本規則を経営基本規則に定めています。関連会社を含めた拠点ごとに環境マネジメントシステムを構築して、環境活動を推進しています。拠点の環境活動のとりまとめは、環境推進部が担当しています。環境活動における各種実績、課題、問題については、環境推進部から経営者が任命する環境統括責任者への報告・提案を行います。



関連会社を含めた各拠点で環境マネジメントシステムを確立し、PDCAサイクルを推進しています。

ルネサスは、国内外の全生産拠点で環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しています。

特に、温室効果ガスの削減と水資源の保全については、目標に対する進捗状況を定期的にモニタリングし、最新状況を確認しています。なお、2023年度は法令・条例違反、苦情ともありませんでした。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

環境に対する取り組みの続き

環境活動3本柱

環境活動において大切な課題には、①法令の順守 ②環境負荷の低減 ③環境に優しい製品の開発 ④ステークホルダーとの良好な関係維持などが挙げられます。



環境に対する取り組みの続き

2023年度の環境活動実績

項目	2023年度活動	2023年度実績
エコマネジメント活動	環境パフォーマンス向上施策の推進とISO14001認証の維持	ISO 認証機関による直接審査を受審、認証更新完了
エコファクトリー活動	5年間平均エネルギー消費の原単位1%以上低減(省エネ法努力目標の達成、行政年度)	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー原単位(5年平均)実績:ルネサス エレクトロニクス(国内対象拠点):1%低減、ルネサス セミコンダクタ マニュファクチュアリング:1.2%低減 省エネ法事業者クラス分け評価:Sランク取得見込み
	PFC 排出量を2015年度水準以下の維持(ウエハ面積原単位)	PFC 排出量2015年比0.021ポイント低減(ウエハ面積原単位)
エコプロダクト活動	グローバルの各種規制、および顧客要求に適宜対応	環境法令・条例違反なし
	新規量産開始製品における、グリーンデバイス比率90%以上維持	2023年度 グリーンデバイス比率:96%
エココミュニケーション活動	ステークホルダーへの環境情報の発信強化	環境データの第三者検証取得
	階層別教育や環境eラーニングなどの各種教育資料の刷新と実施	<ul style="list-style-type: none"> 新入社員教育、新任管理職教育等でのeラーニングの実施 定期的な環境関連情報の社内発信実施
	生物多様性保全活動の積極的な推進	<ul style="list-style-type: none"> グローバルの生産拠点および事業所において120件の生物多様性活動を実施 活動自主評価指標をグローバル展開



気候変動への取り組み



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

カーボンニュートラル実現に向けて

ルネサスは地球温暖化の防止に向け2050年にカーボンニュートラルの実現を目指します。カーボンニュートラルの実現に向けた中間目標として、2030年に温室効果ガスの排出量(スコープ1、2)を2021年比で38%削減する目標を設定しました。これは、1.5°C目標(世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて1.5°Cに抑える努力)に沿ったものです。

また、カテゴリ1における排出量(スコープ3)の70%に相当するサプライヤ(生産委託含む)に、科学的根拠のある削減目標を2026年までに設定してもらいます。日本国内の電機・電子業界目標および省エネ法におけるエネルギー単位の削減目標の達成、温室効果ガスの中でも特に環境負荷の高いPFCガスの排出削減によって、目標を達成する予定です。また、生産拠点における再生可能エネルギーの使用拡大など、さまざまな活動を継続的に推進しています。

2022年8月、[Science-Based Target initiative \(SBTi\)](#) によって当社の中間目標が認定されました ([2022年8月25日発表](#))。

SBTi 認定を取得したルネサスの温室効果ガス削減目標

温室効果ガス排出カテゴリ	基準	目標
スコープ1+スコープ2	1.5°C	2030年までに38%削減(2021年比)
スコープ3	WB2.0°C	スコープ3のカテゴリ1における温室効果ガス排出量の70%に相当するサプライヤ(生産委託含む)が、科学的根拠のある温室効果ガス削減目標を2026年までに設定

スコープ1: 自社での燃料の使用や工業プロセスによる直接排出

スコープ2: 自社が購入した電気・熱の使用に伴う間接排出

スコープ3: スコープ1、スコープ2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

スコープ3 カテゴリ1: 購入した製品・サービス

WB2.0°C (well-below 2.0°C): 世界の気温上昇を産業革命前より2°Cを十分に下回る水準に抑える温室効果ガス削減目標



気候変動への取り組みの続き

TCFD 提言への対応

2021年4月、ルネサスは、**気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) に賛同し、日本を拠点とするTCFDコンソーシアム**にも加盟しました。TCFDのフレームワークに基づき、「ガバナンス」、「戦略」、「リスクマネジメント」、「指標と目標」の4つの視点から、気候変動が事業にもたらすリスクと機会に関する情報開示に努めています。また、気候変動をより一層意識した経営戦略の策定と、気候変動のリスクを軽減、機会を最大化する経営判断を行っています ([詳細はこちらをご参照ください](#))。

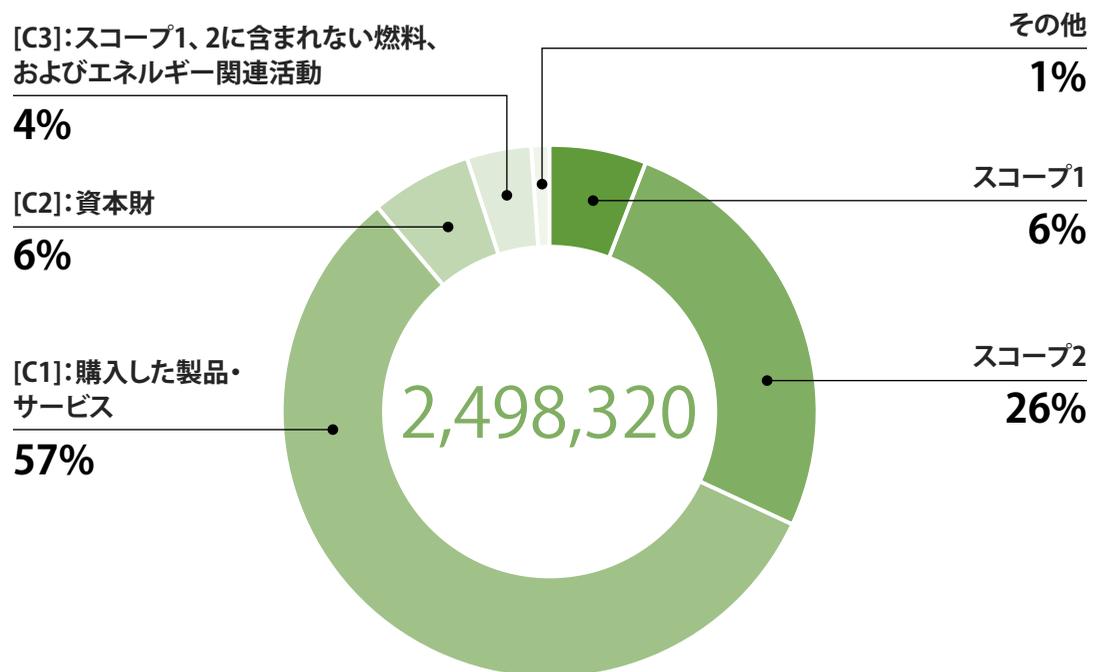


バリューチェーン全体の環境負荷

バリューチェーンを含む事業活動全体の環境負荷を把握するために、GHGプロトコルに基づき、温室効果ガス (GHG) 排出量のスコープ1、2、3をそれぞれ算出しています。

2023年度ルネサスグループのGHG排出量 (スコープ別)

(t-CO₂)



詳細は付属資料 ([環境データ](#)) をご参照ください。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

気候変動への取り組みの続き

温室効果ガスの排出量削減

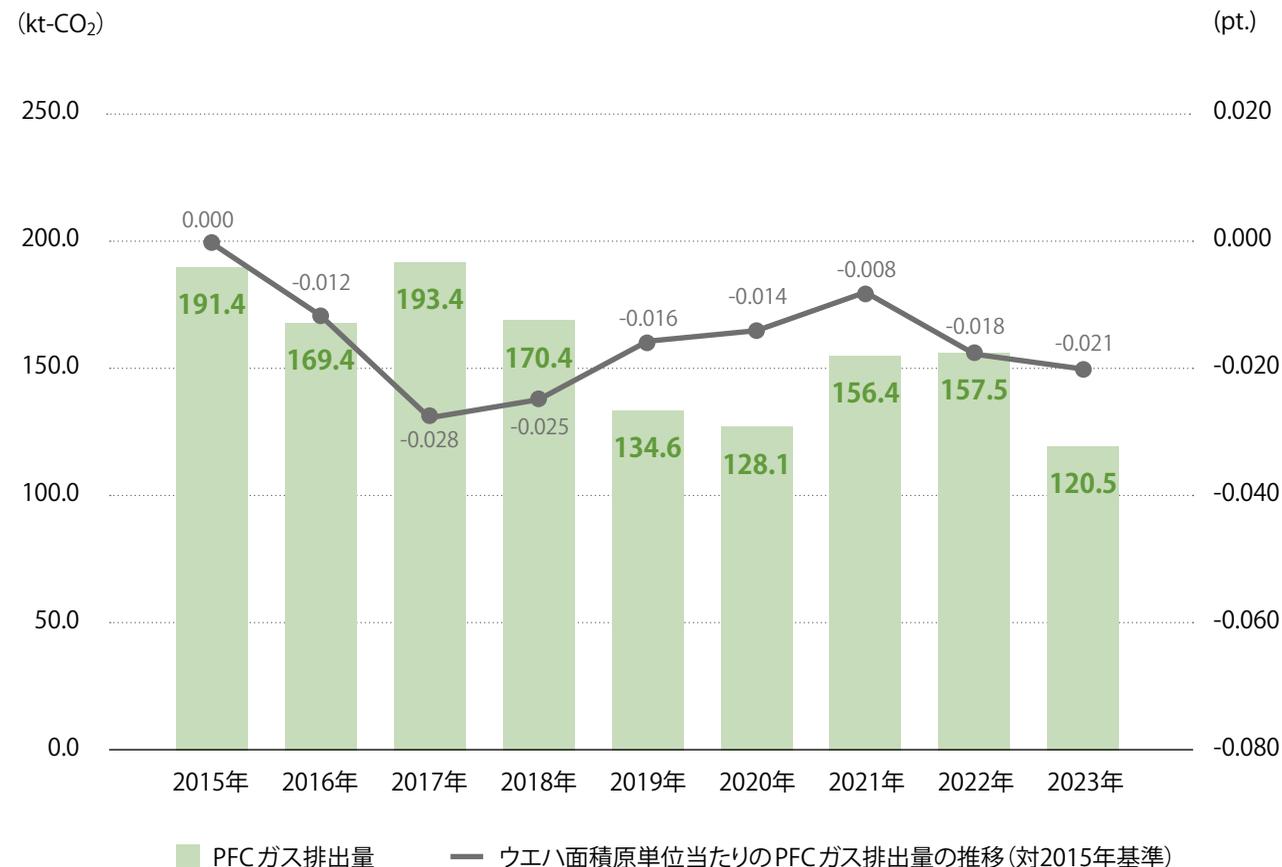
ルネサスは、主に半導体製造工程で、プラズマエッチングやウエハクリーニングのプロセスガスや反応チャンバーのクリーニングガスとして温室効果ガスの一つであるPFC※1ガスを使用しています。このようなガスは分解されにくく、地球温暖化係数 (GWP※2) は約7千から2万以上と高くなっています。その排出量削減を重要な課題とし、PFCガスの排出削減目標を設定して地球温暖化防止に積極的に取り組んでいます。PFCガスによる温室効果を削減する方法として、①GWPの小さいガスへの変更、②工程を最適化することによるPFCガスの使用量削減、③PFCガスを分解するための除害装置の設置などがあります。当社はこれら3つの手法を組み合わせることで、排出量の目標を2010年までに1995年実績の90%以下にするための技術開発を行ってきました。その後、構造対策を進めながらも、2010年以降も継続して削減活動を実施し、2015年の排出量は1995年比で約20%と大幅に減少しました。

構造対策を終了し、成長フェーズに入った現在、2023年は2015年度比でウエハ面積原単位は0.021ポイント減少、排出量は約37%減少と更なる削減を実現しました。2024年以降も、さらなる排出量削減に取り組めます。

※1 PFC: Perfluoro Compounds: パーフルオロ化合物 (半導体業界では CHF3、CF4、C2F6、C3F8、C4F8、SF6、NF3を指定しています)

※2 GWP: Global Warming Potential: 地球温暖化係数 (CO₂を1としたときの係数)

PFCガス排出量とウエハ面積原単位当たりのPFCガス排出量の推移





目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

気候変動への取り組みの続き

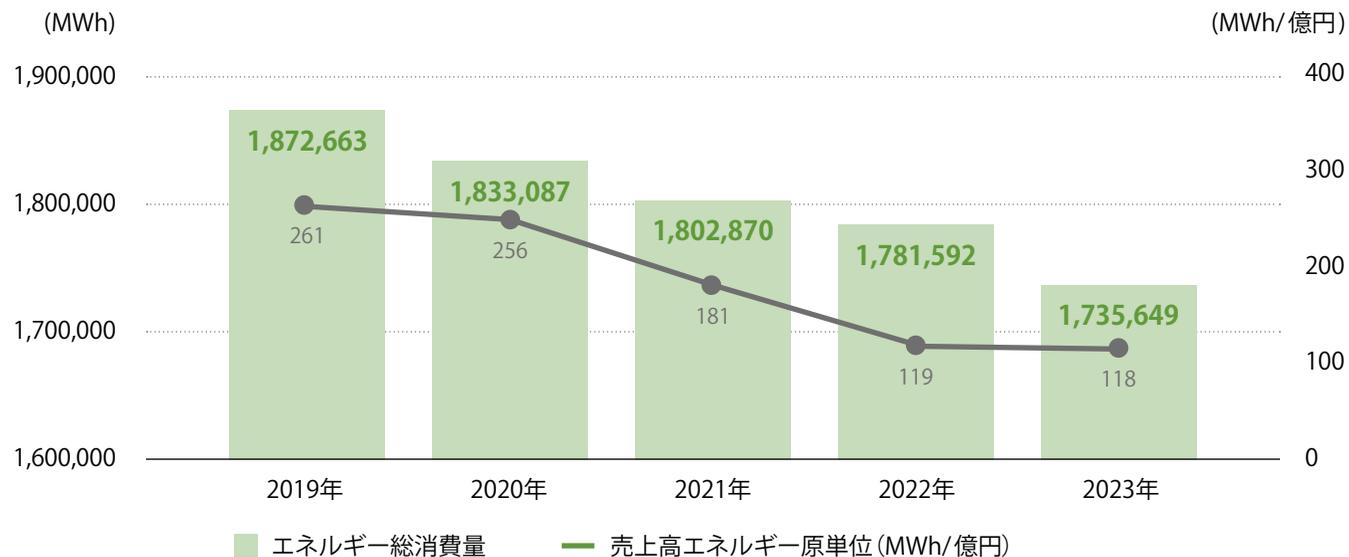
省エネルギー

2023年度エネルギー総消費量実績は、2022年度比で2.6%減少しました。売上高エネルギー消費原単位は、半導体市場の軟化による需要減の中、各工場で実施した省エネ施策の効果およびこまめなエネルギー管理などにより、前年比横ばいとなりました。

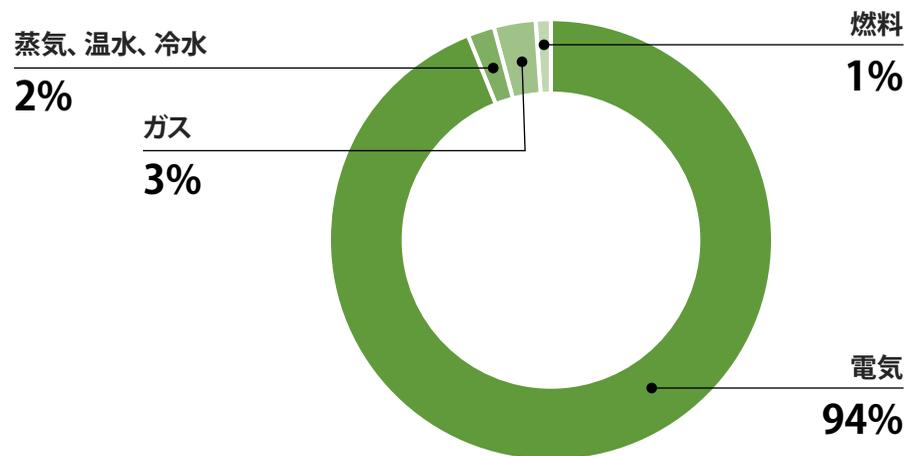
2024年度も引き続き省エネ施策を推進するとともに、事業活動に見合ったエネルギーの効率的な使用に努め、エネルギー消費の削減・地球温暖化防止に取り組んでまいります。

また、ルネサスは毎年、省エネ法の努力目標に沿って、ルネサス全体のエネルギー消費の約8割を占める日本国内のエネルギー消費について、原単位(5年間平均)1%以上の削減を目標としています。目標達成に向けたエネルギー削減活動の一環として、2013年度から日本の電機・電子業界で取り組んでいる「低炭素社会実行計画」に参加しています。「低炭素社会実行計画」は、地球温暖化防止に貢献する革新的技術の開発、技術移転などの国際貢献の推進、サプライチェーン間の連携強化、などを進めています。

エネルギー総消費量 vs 売上高消費エネルギー原単位の推移



2023年度エネルギー使用構成

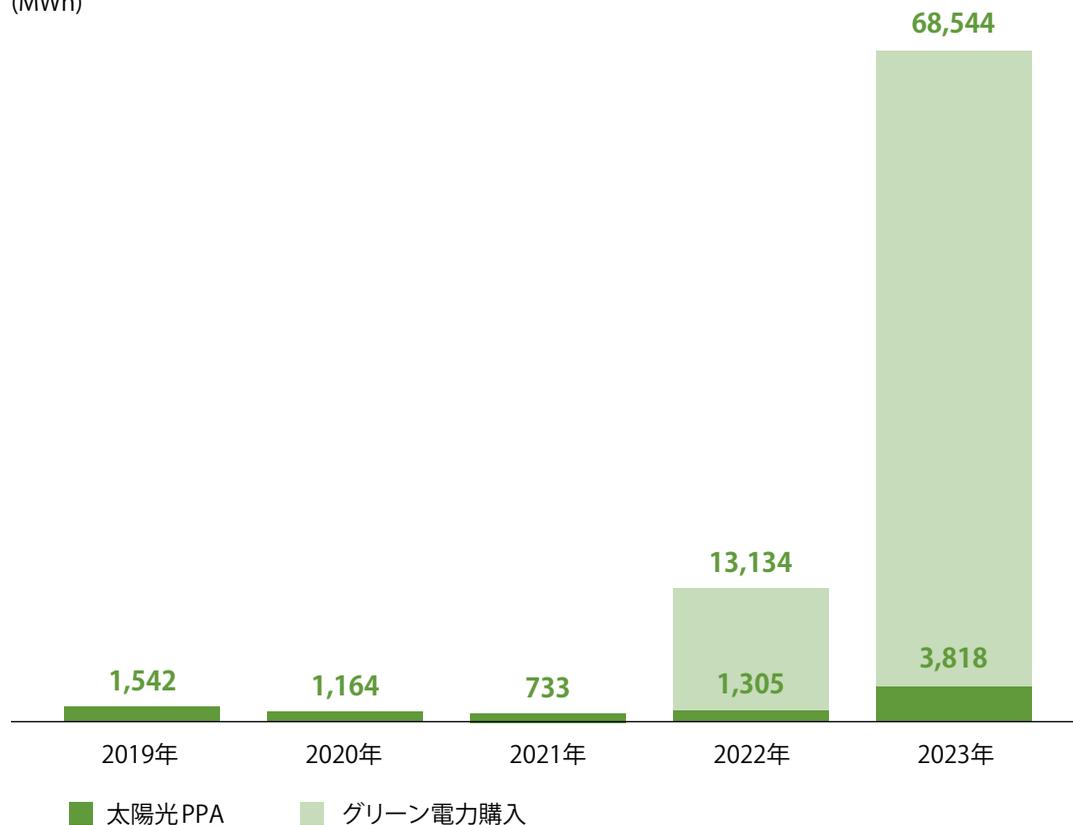


気候変動への取り組みの続き

再生可能エネルギー

ルネサスは温室効果ガス削減目標の達成に向けて、主に生産拠点において再生可能エネルギーの導入拡大を進めています。日本国内においては2022年度からグリーン電力の購入を開始しました。また、日本以外では太陽光発電 (PPA) の導入を進めており、2022年後半には、新たに中国とマレーシアの生産拠点で稼働を開始しました。

再生可能エネルギー発電量推移 (MWh)



太陽光発電 (PPA) 導入拠点の概要



生産拠点名

Renesas Semiconductor (Beijing) Co., Ltd.

所在国

中国

方式

太陽光発電 PPA

創出電力量

283kwh/h

開始時期

2013年10月



生産拠点名

Renesas Semiconductor (Suzhou) Co., Ltd.

所在国

中国

方式

太陽光発電 PPA

創出電力量

178kwh/h

開始時期

2022年10月

気候変動への取り組みの続き

太陽光発電 (PPA) 導入拠点の概要



生産拠点名

Renesas Semiconductor KL Sdn. Bhd.

所在国

マレーシア

方式

太陽光発電 PPA

創出電力量

137kwh/h

開始時期

2022年12月

SDGs への貢献

ルネサスグループの気候変動への取り組みは、以下の持続可能な開発目標に貢献しています。



7.2

2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。



9.4

2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術および環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。



13.3

気候変動の緩和、適応、影響軽減および早期警戒に関する教育、啓発、人的能力および制度機能を改善する。

水資源を守る

ルネサスは、水資源保全是世界的な課題であるとともに半導体業界における盤石な事業運営に不可欠であると認識しています。半導体の製造工程では大量の水を必要としており、水資源の枯渇が起これば、生産の停滞を招くことに加え、原材料の調達にも影響を与える可能性があります。こうした運営リスクを最小にするため、ルネサスでは、特に生産拠点において、工業用水などから精製した超純水を半導体ウエハの洗浄や装置の冷却など、さまざまな用途に使用しています。

また、全生産拠点において水源別の取水や使用量、排出先別の排水量などの情報の定期的なモニタリングや、地域や行政の法令や条例を遵守した排水の水質管理を行っています。さらに、リサイクル率を積極的に向上させ水の効率的な使用に努め、当社グループ全体で水総使用量の売上高原単位の改善を進めています。

水リスクがあると想定されている地域に位置する生産拠点においては、水使用の生産売上高原単位での改善目標を設定し履行することで、当該地域の生態系に与える影響を最小限にする努力を続けています。また、水資源を育み、生物多様性の保全につながる森林の保護活動として、植樹も行い、水資源を守る森林づくりにも貢献しています。

水資源保全の方針と目標

- グローバルな水資源保全として水の利用効率を改善する
- 効率的な水の使用としてリサイクル率を拡大する
- 水リスク地域(近隣等で水の十分な供給が危ぶまれる地域)における水資源保全を推進する



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

水資源を守るの続き

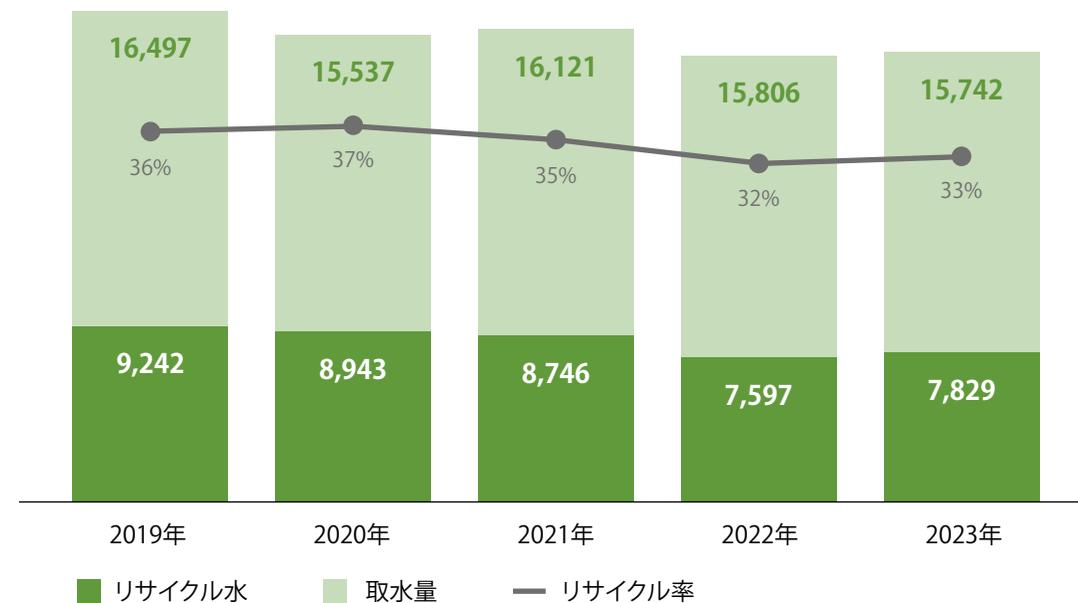
水資源の効率的な使用

ルネサスは、生産効率化や節水による使用量の削減を図っています。同時に、積極的に水をリサイクルして活用することで、グループ全体における総使用量の売上高原単位での改善を推進しています。

2023年度は、効率的な水使用に向けた改善活動により取水量は15,742千 m³と前年から約0.4%減少しました。リサイクル率は約1%増加しました。水総使用量は23,571千 m³と前年から約0.7%減少しました。さらに、2023年度の水総使用量の売上高原単位は2021年度比で36%改善しました。

総使用量推移

(総使用量 = 取水量 + リサイクル水)
(千 m³/年)





目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

水資源を守るの続き

水リスクへの対応

ルネサスグループの生産拠点における水リスク評価は、世界資源研究所 (WRI: World Resources Institute) が提供している世界地図・情報ツール「WRI AQUEDUCT」を使用し、拠点毎に地理的に渇水などの水リスクの高い地域を特定しています。

評価の結果、当社の生産拠点のうち中国の2工場 (北京、蘇州) が水リスクの高い地域に該当しており、今後、対策の必要性を含めた検討を進めます。尚、水ストレス (水需給の逼迫度) の高い地域に該当している中国の2工場 (北京、蘇州) の2023年度の使用量は計362,108m³であり、当社グループ全体の使用量の約2%です。

当社では、水使用の生産売上高原単位の改善目標 (出荷金額を分母とした原単位) を設定し、継続的に改善することで水リスク地域の水資源の保全に努めています。

- Renesas Semiconductor (Beijing) Co., Ltd. の2023年度における累計水使用の生産売上高原単位数は、2021年度比33%の改善。2024年度は2021年度を基準年として20%の改善を目指す。
- Renesas Semiconductor (Suzhou) Co., Ltd. の同期間における累計水使用の生産売上高原単位数は2021年度比30%の改善。2024年度は2021年度を基準年として30.5%の改善を目指す。

中国拠点における取水量および排水量の推移

原単位 (水使用 / 出荷金額) 改善率	2023年度目標	2023年度実績	2024年度目標
Renesas Semiconductor (Beijing) Co., Ltd.	10%	33%	20%
Renesas Semiconductor (Suzhou) Co., Ltd.	22%	30%	30.5%

実績および目標改善率は、2021年度の原単位を基準として算出および設定しています。

水資源を守るの続き

水使用の生産売上高原単位の改善施策

	Renesas Semiconductor (Beijing) Co., Ltd.	Renesas Semiconductor (Suzhou) Co., Ltd.
水使用削減施策	<ul style="list-style-type: none"> 増産により水の原単位(水総使用量／売上高)使用効率を向上 生活用水および緑化用水の節水活動を引き続き実施 	<ul style="list-style-type: none"> 増産により水の原単位(水総使用量／売上高)使用効率を向上 生活用水を適切な圧力に調整し、水使用量を低減 冷却水パイプの交換(冷却塔で低圧にする)により、冷却水使用量を低減 テスト設備冷却方式変更(風冷⇒水冷)により、水使用量を低減 生活用水および緑化用水の節水活動を引き続き実施
効率化施策	<ul style="list-style-type: none"> BG 廃水を回収して冷却塔の補給水に再利用 給湯器残り水を回収して、5S 活動用に再利用 加湿器の透湿膜洗浄水を回収して、冷却塔の補給水に再利用 	<ul style="list-style-type: none"> BG 研磨廃水、ダイシング冷却水、真空ポンプ冷却水のリサイクルにより水使用量を低減 冷却塔用の水効率アップ(冷却水処理機1台導入) 純水のRO活用により水使用量を低減



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境(Environment)



社会(Social)



ガバナンス(Governance)



データ集

水資源を守るの続き

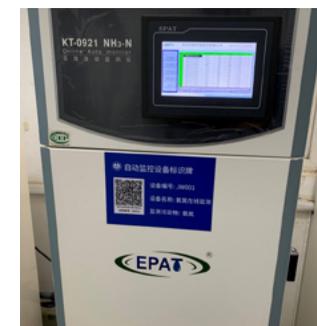
グローバルサプライヤとの協働

ルネサスは2021年に [Responsible Business Alliance \(RBA\)](#) に加盟すると共に、「[ルネサスサプライヤ行動規範](#)」を改定しました。本行動規範に定めた項目のうち、水の管理として以下を定め、これらへの賛同をサプライヤにお願いしています。本行動規範について、すべての重要取引先(64社)からの同意、賛同をいただくと共に、多くのサプライヤからも同意、賛同をいただいています。

- 水源および水の使用と排出を文書化、特性化、監視。節水機会を発掘。汚染経路を制御する水の管理プログラムを実施
- あらゆる廃水についてはその特性を把握、監視、制御し、排出または廃棄する前に必要な処理を実施
- 最適な動作と規制遵守のために、廃水処理システムと水槽・タンクを定期的に監視

地域社会との協働

ルネサスは水資源の保全に向けて、当社の生産拠点の流域関係者との協働を通じて、当該地域の水課題解決に努めています。特に、Renesas Semiconductor (Suzhou) Co., Ltd. では、地域における水資源の保全および排水における安全対策として、廃水排出に関する流量やpHなどの情報をオンラインモニターで当社から環境保護局に毎時報告し、共同管理しています。



污水实时数据				
	累计流量(吨)	瞬时流量(L/s)	监测时间	
	67382	4.08	2021-11-17 11:14:59	
污染物实时数据				
因子名称	实测值	数据单位	设备状态	监测时间
化学需氧量	32.700000	mg/l	待机	2021-11-17 10:00:00
PH	6.43		正常	2021-11-17 11:14:59
水温	25.0	°C	正常	2021-11-17 11:14:59
氨氮	0.024000	mg/l	正常	2021-11-17 10:00:00

事例: 廃水排出をオンラインモニター管理(環境保護局へネットデータ発信、1時間に1回)



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

水資源を守るの続き

政府機関との協働

ルネサスは水資源保全の取り組みの一環として、2022年2月に「ウォータープロジェクト」に参加しました。「ウォータープロジェクト」



は、2014年に施行された水循環基本法に基づき、健全な水循環の維持または回復を目的とした取り組みの促進等を推進するため、日本の環境省が官民連携の活動として創設したものです。

ルネサスは、本イニシアティブを通して当社の水資源保全への取り組みを紹介すると共に、水資源の重要性や保全に向けた当社の貢献について情報発信していきます。

排水管理について

ルネサスは、排水時における周辺環境への影響を最小化するため、排水の水質に配慮しています。ルネサスグループのすべての生産拠点において各国および地域の法律、規制などを遵守するとともに、規制レベル以上の排水自主基準を設定し、管理しています。

2023年度に、排水関連法令に対する違反、環境事故、苦情はありませんでした。

SDGs への貢献

ルネサスグループの水資源を守るうえでの取り組みは、以下の持続可能な開発目標に貢献しています。



6.3

2030年までに、汚染の減少、投棄廃絶と有害な化学物や物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減および再生利用と安全な再利用の世界的規模での大幅な増加により、水質を改善する。



6.4

2030年までに、全セクターにおいて水の利用効率を大幅に改善し、淡水の持続可能な採取および供給を確保し水不足に対処するとともに、水不足に悩む人々の数を大幅に減少させる。



6.6

2020年までに、山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼などの水に関連する生態系の保護・回復を行う。



6.B

水と衛生に関わる分野の管理向上における地域コミュニティの参加を支援・強化する。

化学物質への対応

化学物質への対応のマネジメントおよびシステム開発

ルネサスは、半導体製造に関わる環境リスクの軽減に取り組んでいます。半導体製造プロセスでは、健康・安全・環境リスクをもたらす物質や材料を使用しているため、法規制や顧客要求事項を遵守しつつ、使用量の削減、代替化、適正な処理に注力しています。そのため、ルネサスは、グリーン調達や該当する法規制情報も考慮した化学物質データベースを活用して各種アセスメントを実施しています。ルネサスでは、使用している化学物質の総量を正確に把握するとともに、そうした物質の使用の削減と、それがもたらす危険有害性の最小化に努めています。こうした取り組みを促進するべく、グリーンデバイスやエコファクトリーにつながる研究・開発を継続して行っています。

PRTR※1法やVOC※2対象物質については、少量部分の取扱量まで正確な収支管理を行っています。収支結果は行政へ報告するだけでなく、解析し、化学物質の代替化や排出量削減に向けた活動にフィードバックしています。

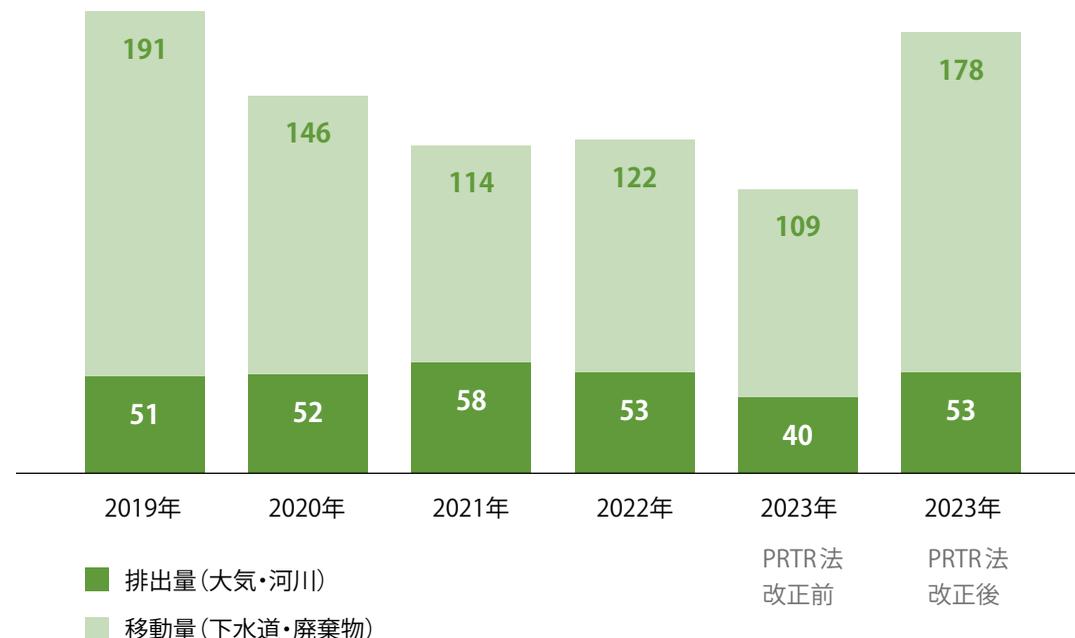
ルネサスは、2023年4月に施行されたPRTR法の一部改正に伴い、改正の対象となる物質を特定するとともに、部材サプライヤと協業してSDS※3の整備を進めています。2023年3月末には改正PRTR法に対応した管理体制を整え、管理を開始しています。

※1 Pollutant Release and Transfer Register: 特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律 (化学物質排出量把握管理促進法)

※2 Volatile Organic Compounds: 揮発性有機化合物

※3 Safety Data Sheet: 危険性や有害性のおそれがある化学物質を含む製品を他の事業者に譲渡または提供する際に、対象化学物質等の性状や取り扱いに関する情報を記載した文書

化学物質の移動量・排出量 (PRTR法) 推移 (トン)



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

化学物質への対応の続き

使用量・排出量の把握と管理区分の導入

ルネサスでは、グリーン調達や法規制情報に基づく化学物質データベースを基盤とした各種アセスメントを実施しています。危険有害性のある廃棄物を最小限にとどめる取り組みとして、使用化学物質の総量を把握することで、使用量と排出量を管理し、削減しています。

また、グローバルの環境負荷物質に関する法規制動向やお客様の要求等を考慮して、化学物質を次の4区分に分類しています。

化学物質の定義		管理区分
ルネサス管理化学物質	1. 製品への含有、および製造工程での使用を禁止する物質	禁止物質
	2. 製品含有量、および製造工程での使用量、環境への排出量の自主目標をたて、削減を推進する物質	削減物質
	3. 使用、在庫、排出、移動の量の管理を行うべき物質	管理物質
	4. 構成材として把握しておく必要がある物質	構成物質

部品材料の選定・購入段階※



部品や材料の化学物質については、全社購買情報と連携した「化学物質管理システム」により、少量部分の取扱量まで正確な収支管理を行っています。また、お客様からの製品の環境負荷に関するお問い合わせへの迅速な対応に活用しています。

※容器、梱包材、付属品を含む

製造工程



化学物質に係る環境関連法令、当社規則の遵守および環境事故の防止、そして各拠点・事業所の化学物質管理の強化を目的としてガイドラインを設定しています。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

化学物質への対応の続き

主要な日本以外の環境関連法規とルネサスの対応状況

ルネサスは、製品に係る環境関連法規を遵守すべく主要国の法規制の情報を入手し、当社グループ製品に反映させるとともに、お客様へタイムリーに化学物質の含有情報などを展開しています。

国際的に準拠が求められている POPs 条約[※]の付属書に掲載されている物質については、日本では「化学物質の審査および製造等の規制に関する法律」(化審法)等の法律に反映され、POPs 条約が担保されています。

当社では、POPs 条約で付属書 A (廃絶) に指定された物質が化審法の第 1 種特定化学物質として反映された段階で、ルネサス化学物質管理区分「禁止」に指定し、グローバルに共有するとともに遵守を徹底しています。

※POPs条約:Stockholm Convention on Persistent Organic Pollutants (残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約)

欧州の RoHS 指令^{※5}や ELV 指令^{※6}では、含有禁止物質の閾値 (しきいち:規格値または限界値) が定められています。このため、半導体製品を構成する部材について、お取引先様から分析データと禁止物質非含有報告書などをいただくとともに、当社グループにおいても製品の分析をすることで閾値以下であることを確認しています。

※5:RoHS指令:電気・電子機器に対する特定有害物質 (鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、臭素系難燃剤 (PBB、PBDE)、フタル酸エステル類 (DEHP、BBP、DBP、DIBP)) の含有を制限するEUの指令

※6:ELV指令:自動車に対する鉛、水銀、カドミウム、六価クロムの含有を制限するEUの指令

当社の法規制への対応状況

- [欧州 RoHS](#)
- [中国 RoHS](#)
- [REACH\(SVHC\)](#)
- [鉛フリー関連](#)
 - [鉛フリー化の部位](#)
 - [パッケージ別端子部の仕様](#)
 - [包装ラベルでの識別](#)
- [ハロゲンフリー](#)
- [ツール製品の RoHS 対応](#)
- [その他環境規制・化学物質情報](#)

SDGs への貢献

ルネサスグループの化学物質の使用削減における取り組みは、以下の持続可能な開発目標に貢献しています。



12.4

2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。



12.5

2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用および再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

廃棄物に対する取り組み



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

3Rの活動概要

当社グループは、グローバル拠点で廃棄物のリサイクル率* 90%以上の維持を指標に、**再利用、使用抑制、再資源化の「3R」**に取り組んでいます。モノづくりにおける「3R」を徹底し、中期的には事業活動に起因して発生した廃棄物のすべてを資源として再利用することを目指しています。

*リサイクル率(%)=100-(最終処分量÷廃棄物&有価排出物の総量)×100。サーマルリサイクルや中和処理等の適正処理も含めています。

Reuse (再利用)

ルネサスでは、製品出荷時にプラスチック包装材(トレイ・マガジン)を使用しています。当社グループの生産拠点でリユース基盤(回収-洗浄-検査システム)を整備し、効率のよいリユースを実践しています。また、キャリアテープ、段ボール、ウエハケースなども用途を限定したリユースを進めています。

Reduce (使用抑制)、Recycle (再資源化)

製造プロセスの開発や工場設計時において、廃棄物を極力発生させない工夫や他分野の企業と連携した廃棄物の再資源化を進めています。例えば、排水の処理過程で発生する汚泥はセメント製造メーカーと連携して路盤材やセメント材料へ利用しています。金属類は金属原料として、紙類は再生紙などの原料として再利用されています。また、生産工程で発生したスクラップウエハや不良品と判定された最終製品についても再資源化を進めています。

再資源化の取り組み

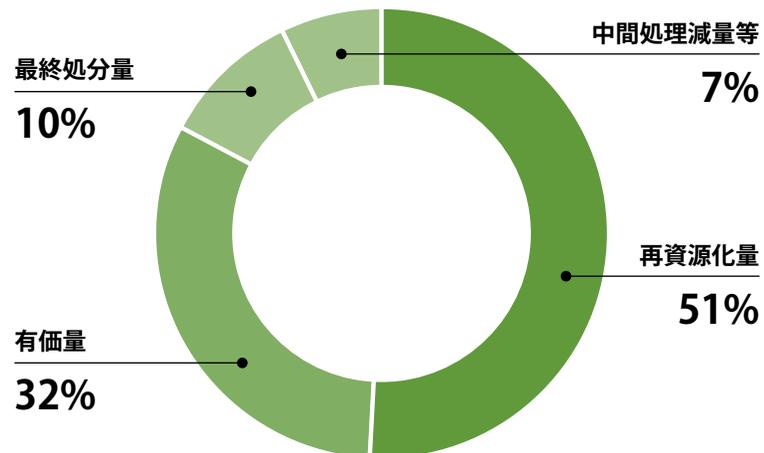
廃棄物	主なリサイクル例
汚泥*	路盤材、セメント原料、再生砂、金属精錬用原料
廃油*	焼却炉助燃材、再生油、セメント原料
廃酸*	再生硫酸、排水処理、燃料化、セメント原料、金属原料
廃アルカリ*	燃料化、セメント原料、金属原料
廃プラ*	焼却炉助燃材、固形燃料、プラスチック原料
金属屑*	金属原料
硝子陶磁器屑*	ガラス原料、セメント原料、タイル、軽量骨材
製品屑*	シリコン原料
貴金属	貴金属原料
紙類*	再生紙原料
木屑*	紙原料、肥料、燃料
発泡スチロール*	塗装剤・モルタル骨材

*生産工程で発生したスクラップウエハや不良と判定された製品を含む

廃棄物に対する取り組みの続き

3Rの実績

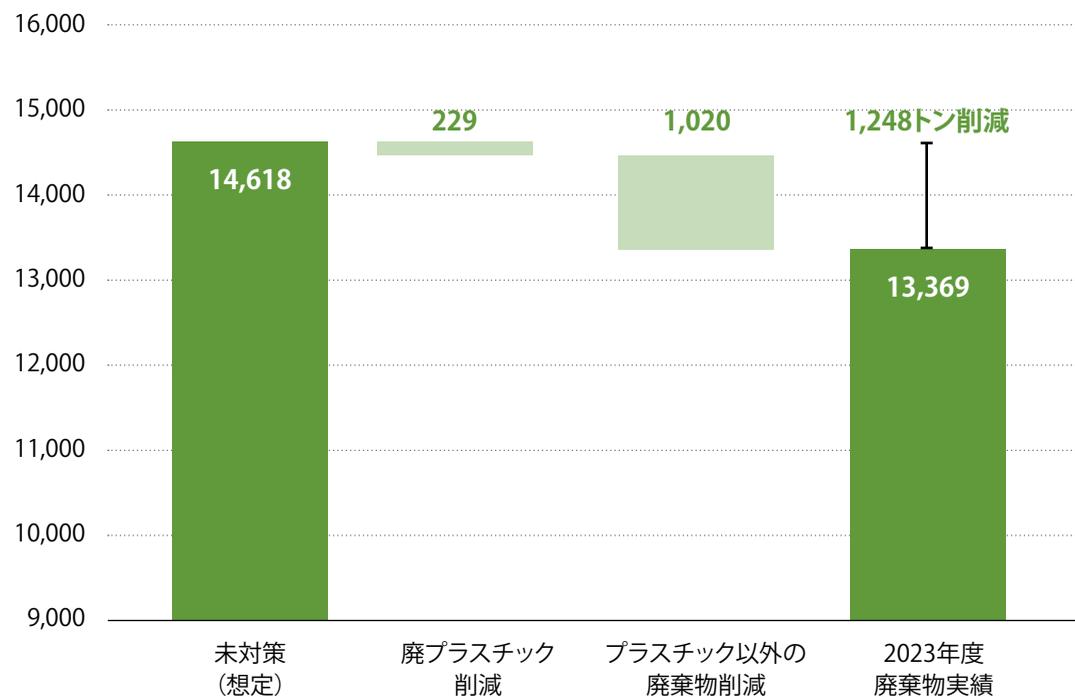
- 2023年度の廃棄物排出量は、前年と比較して17%減少しました。この減少は、産業廃棄物・廃プラの削減活動の計画的な実施に加え、半導体市場の軟化および前年に発生した日本国内の生産拠点閉鎖に伴う一時的な廃棄物排出量の増加が無くなったことなどによるものです。
- 2023年度の廃棄物全体の約78%を占める日本の廃棄物の99%以上が再利用やリサイクル、または適正に中間処理されています。最終的に埋め立て処分(最終処分量)された割合は0.15%でした。日本以外の廃棄物は、日本との比較において埋め立て処分(最終処分量)の割合が多く、44%でした。
- また、グローバル拠点での廃棄物リサイクル率は、リサイクル率の高い日本の廃棄物比率が減少したことによって90%となり、リサイクル率の指標とする90%以上を維持しています。



廃棄物削減の取り組み

2023年度、当社グループは、日本で1,248トンの削減(うち廃プラスチック削減229トン)の廃棄物削減を実現しました。

3R活動による廃棄物削減チャート(国内)
(トン)

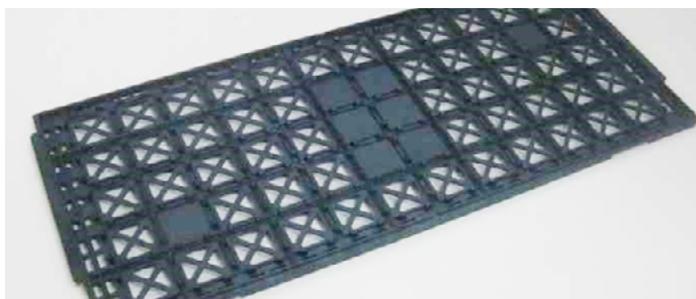


廃棄物に対する取り組みの続き

2023年度の主な取り組み

プラスチック排出の抑制(日本の廃プラ新法への対応)

- プラスチック製包装材(トレイ)やプラスチック製ケース、発泡スチロールのリサイクル、または利材化
- BGAパッケージ大判化による、プラスチック廃棄部分の削減
- CMPスラリー使用後の樹脂製容器を洗浄しリサイクル、または利材化
- 製造工程で出る袋を、工場周辺清掃活動に必要なごみ袋としてリユース(ごみ袋を購入しない)



廃棄物全体にわたる削減活動

- 廃液・廃油の有価化、排水処理汚泥量の削減活動
- 日本国内の全拠点に参加するワーキングチームを中心とした削減活動の推進など

SDGsへの貢献

ルネサスグループの廃棄物削減における取り組みは、以下の持続可能な開発目標に貢献しています。



3.9
2030年までに、有害化学物質、並びに大気、水質および土壌の汚染による死亡および疾病の件数を大幅に減少させる。



11.6
2030年までに、大気、水質および一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。



12.4
2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。



12.5
2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用および再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。



15.3
2030年までに、砂漠化に対処し、砂漠化、干ばつおよび洪水の影響を受けた土地などの劣化した土地と土壌を回復し、土地劣化に荷担しない世界の達成に尽力する。



15.4
2030年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実にを行う。

エコプロダクト活動

ルネサスはエコプロダクト活動として、環境配慮型製品の創出や省エネルギー化に貢献する製品・ソリューションの提供に取り組んでいます。

環境配慮型製品の創出

環境配慮型製品(エコプロダクト)創出の実現には、開発→調達→製造→使用→廃棄といった製品のライフサイクル全ステージで環境負荷を低減することが重要です。ルネサスのエコプロダクトは、製品環境負荷低減策をトータルで評価する製品環境アセスメント※1の実施(プロダクトスチュワードシップ)により実現しています。製品環境アセスメントでは、開発時と量産前の2段階に分けて検証・評価しています。

また、当社は製品環境アセスメントを新製品開発における必須事項として規則化すると共に、新製品の開発に係るプロジェクトリーダーや今後の候補者に対する教育などを通じてプロダクトスチュワードシップの必要性について社内啓蒙を図っています。

※1:本製品環境アセスメントは現在旧ルネサス製品のみに実施していますが、今後、範囲の拡大を検討しています。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

エコプロダクト活動の続き

各段階でのエコプロダクト活動

開発段階

- ・製品環境アセスメントの実施
- ・製品のライフサイクル全体を考慮した環境配慮設計の推進



調達段階

- ・環境負荷の高い資材、副資材を調達しないグリーン調達の推進



製造段階

- ・製造工程の短縮による省エネ化
- ・生産現場での化学物質管理



使用段階

- ・半導体製品自体の省エネ化(待機電力低減など)
- ・お客様の省エネ機器に組み込まれる製品の設計



廃棄段階

- ・特定化学物質排除
- ・製品の小型軽量化で廃棄物自体の量を削減





目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

エコプロダクト活動の続き

製品環境アセスメント

環境に配慮した製品を創出する方法として開発・設計フローに環境負荷改善度を評価する製品環境アセスメントを組み入れています。評価では、減量化・製品の安全性・省エネなど8項目において基準製品^{※2}との比較を行います。

製品環境アセスメントの8項目

安全性評価	省資源・省エネ評価
長寿命評価 (信頼性評価)	減量化評価
安全性評価 (管理化学物資評価、法規制遵守)	省エネ化評価
情報開示評価	梱包材評価
生産工程評価	流通評価

アセスメントの判定はアセスメントを実施する開発製品の設計部門および第三者の判定として本社環境推進部門が行います。判定結果として、以下の3項目に該当する場合は製品化を原則不可としています。

- 製品および生産工程で使用禁止物質を使用している場合
- 製品および生産工程で新規に使用する材料のSDS^{※3}の登録が無い場合
- 生産工程で使用する新規材料の新材料事前審査が実施されていない場合

また、判定結果において、基準製品よりも環境性能が改善されていない製品については、当該設計部門にて改善の検討や開発継続可否の判断をします。

環境アセスメントの確実な推進は、ルネサスの半導体製品への安心・信頼を醸成すると共に、製品自体の環境性能をさらに向上させ、最終的に当社の製品を使用されるお客様の環境負荷も低減できると考えています。

※2: アセスメントを実施する新規開発製品とほぼ同じ用途・機能・性能の世代前の製品。但し一代前の製品が無い場合は、当該製品自体を基準製品とする。

※3: Safety Data Sheet (安全データシート) とは、危険性または有害性のおそれがある化学物質を含む材料について、サプライヤから提供される対象化学物質等の性状や取り扱いに関する情報文書。

ルネサス グリーンデバイス

環境行動指針(全ライフサイクルで環境に配慮した半導体製品を創出)に基づく環境配慮型製品の創出に対応した製品の研究開発・設計を促進するため、環境負荷低減への寄与が大きい製品をグリーンデバイスとして認定しています。

グリーンデバイスの認定は、開発を完了し量産に移行する前の製品を対象として実施します。認定方法として、基本的には、まず製品環境アセスメントの結果を元に当該製品が基準製品よりも資源(質量)、エネルギー(消費エネルギー)、化学物質(ルネサス使用削減物質の含有量)の3つの項目において環境性能が優れているか否かを確認します。そして基準製品よりも優れ

ていると判定された製品は、その改善率が10%以上であれば「ルネサス グリーンデバイス」とし、社内認定をしています。2023年度のルネサスの新製品開発に占めるルネサス グリーンデバイスの割合^{※1}は96%、売上に占める同割合^{※2}は系列製品を含め約60%でした。

評価項目	基準製品と新製品の比較		ルネサス グリーンデバイス
省資源評価	<ul style="list-style-type: none"> 製品容積 製品質量 	10%以上削減	新製品開発に占めるルネサス グリーンデバイスの割合は96% ^{※1}
化学物質含有量評価	<ul style="list-style-type: none"> 駆動時の消費電力 待機時の消費電力 		
	<ul style="list-style-type: none"> 製品含有削減物質(鉛)使用量の改善率 		

※1:旧ルネサス製品の2023年度に開発した品種数に占めるルネサス グリーンデバイスの割合

※2:旧ルネサス製品の2023年度の売上金額に占めるルネサス グリーンデバイス(2023年度に開発し量産開始した旧ルネサス製品とその系列製品)の割合



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境(Environment)



社会(Social)



ガバナンス(Governance)



データ集



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

ルネサス グリーンデバイスの続き

ルネサス グリーンデバイスの鉛フリー製品について

ルネサスの半導体製品は、多くの製品に搭載され、世界各国で使用されます。このため、製品に係る環境関連法規を遵守すべく主要国の法規制の情報を入手し、当社グループ製品に反映させるとともに、お客様へタイムリーに化学物質の含有情報などを展開しています。また、その中でも半導体製品や電子機器に対する要請が高まっている製品の鉛フリー化についても、ルネサスは積極的に使用削減に取り組んでいます。

	鉛フリー製品の開発品種数の割合
ルネサス グリーンデバイス新規開発	90%

環境法規制への対応についての詳細は[こちら](#)

鉛フリーへの対応についての詳細は[こちら](#)

ルネサス グリーンデバイスの続き

ルネサス グリーンデバイス・スーパーグリーンデバイス紹介 (2023年開発完了製品)

公開可能な製品から抜粋

製品名	種別	用途	特徴
R7F102G4E3CNP R7F102G4C3CNP R7F102G4E2DNP R7F102G4C2DNP	低消費電流・静電容量タッチ チャンネルを搭載した MCU	家電、民生機器、 産業機器用 RL78汎用 マイクロコントローラ	業界最小レベルの低消費電流に加え、豊富な静電容量タッチチャンネルを搭載。16-48ピンの多様なパッケージと32KB～64KBのフラッシュ・メモリを揃えることにより、新世代 RL78汎用マイクロコントローラをラインアップ。
R7F123FMG5AFB-C R7F123FLG5AFB-C R7F123FGG5AFB-C R7F123FBG4ANP-C	アクチュエータ／センサ 制御用16ビット MCU	車載用	高い信頼性を必要とする次世代スマートアクチュエータ&センサ、ローエンドボディECUを実現するのに理想的な製品。
R7F124FBJ4ANP-C	アクチュエータ／センサ 制御用16ビット MCU	車載用	高い信頼性を必要とする次世代スマートアクチュエータ&センサ、ローエンドボディECUを実現するのに理想的な製品。
R7FA8M1A*ECFB R7FA8T1A*ECFB R7FA8M1A*ECFC R7FA8D1**ECFC R7FA8T1A*ECFC R7FA8M1A*ECFP R7FA8T1A*ECFP	RA ファミリ Arm® Cortex®-M ベース 32Bit MCU	一般産業・民生用	複数の低消費電力モード、電源ドメインの分離、低電圧動作、高速ウェイクアップ、低い動作電流と待機電流の組み合わせなどにより、システム全体の消費電力を低減。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

ルネサス グリーンデバイスの続き

製品名	種別	用途	特徴
R7FA6E2BB2CBB R7FA6E2BB2CBC R7FA6E2B92CBB R7FA6E2B92CBC	RA ファミリ Arm [®] Cortex [®] -Mベース 32Bit MCU	一般産業・民生用 TrustZone [®] 搭載 汎用マイクロコントローラ	TrustZone を備えた200MHz 動作の Arm [®] Cortex [®] -M33コアをベースに、コストと機能のバランスを追求しており、エントリーラインのマイクロコントローラとしてクラス最高レベルの性能を実現。
R7F101G6G4CSP R7F101G6E4CSP R7F101G6G3CSP R7F101G6E3CSP R7F101G6G2DSP R7F101G6E2DSP	低消費電力8/16ビット MCU	家電・民生機器・産業機器用	最大動作周波数48MHzのCPU動作とフレキシブル・アプリケーション・アクセラレータ (FAA) を搭載した RL78ファミリ MCUの中で最高レベルの処理性能を持つマイクロコントローラ。さらに、強化されたアナログ機能と豊富なタイマを搭載し、モータ制御、電源、照明アプリケーションに適している。FAAは演算専用のコプロセッサであり、CPUとは独立して動作させることが可能なため、より高い処理能力を実現。
R9A09G057H48GBG	ルネサス独自の AIアクセラレータ (DRP-AI3)、 クアッド Arm [®] Cortex [®] -A55 (1.8GHz) Linux プロセッサ、 デュアル Cortex [®] -R8 (800MHz) リアルタイムプロセッサを搭載した MCU	産業用 (自律型ロボット・ファクトリオートメーションなど)	AIアクセラレータ以外にもう1つの動的再構成プロセッサ (DRP) を搭載しており、OpenCVなどの画像処理やロボットの応用に必要なダイナミクス演算の高速化が可能。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

ルネサス グリーンデバイスの続き

ルネサス グリーンデバイスの環境への貢献

ルネサス グリーンデバイスは製品そのものに使用される資源、エネルギー、禁止化学物質の削減のみならず、製品・ソリューションをお客様のシステムに組み込むことで、お客様のシステムのエネルギー消費効率の向上に貢献します。また、当社製品を組み込んだお客様の商品がさまざまな用途に使用されることで、社会における省エネ効率の向上にも寄与しています。

ルネサスは、自動車、ファクトリーオートメーション (FA)、通信インフラ、医療・ヘルスケアなど、社会の根幹をなすミッションクリティカルな事業分野において、持続可能な社会に貢献する製品やソリューションを提供することをコア事業のひとつとしています。具体的には、環境負荷の低い低消費電力製品や人々の生活を安心安全なものとする製品やソリューションの提供のための製品開発、それを支えるイノベーションのための研究開発に注力して取り組みます。

ルネサス グリーンデバイス

ミッションクリティカルな事業分野 (自動車、FA、通信インフラ、医療、ヘルスケアなど)		他事業分野
クリーン輸送	エネルギー効率	他分野対応製品・ソリューション
スマート電気自動車ソリューション	スマート・データセンター・ソリューション	
スマート自動運転ソリューション	スマート・セルラー・ソリューション	
	スマート社会ソリューション	
	グリーンデバイスおよびテクノロジー	

お客様のシステムを通じて持続的な社会の実現に貢献する製品・ソリューションの詳細は[こちら](#)



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)

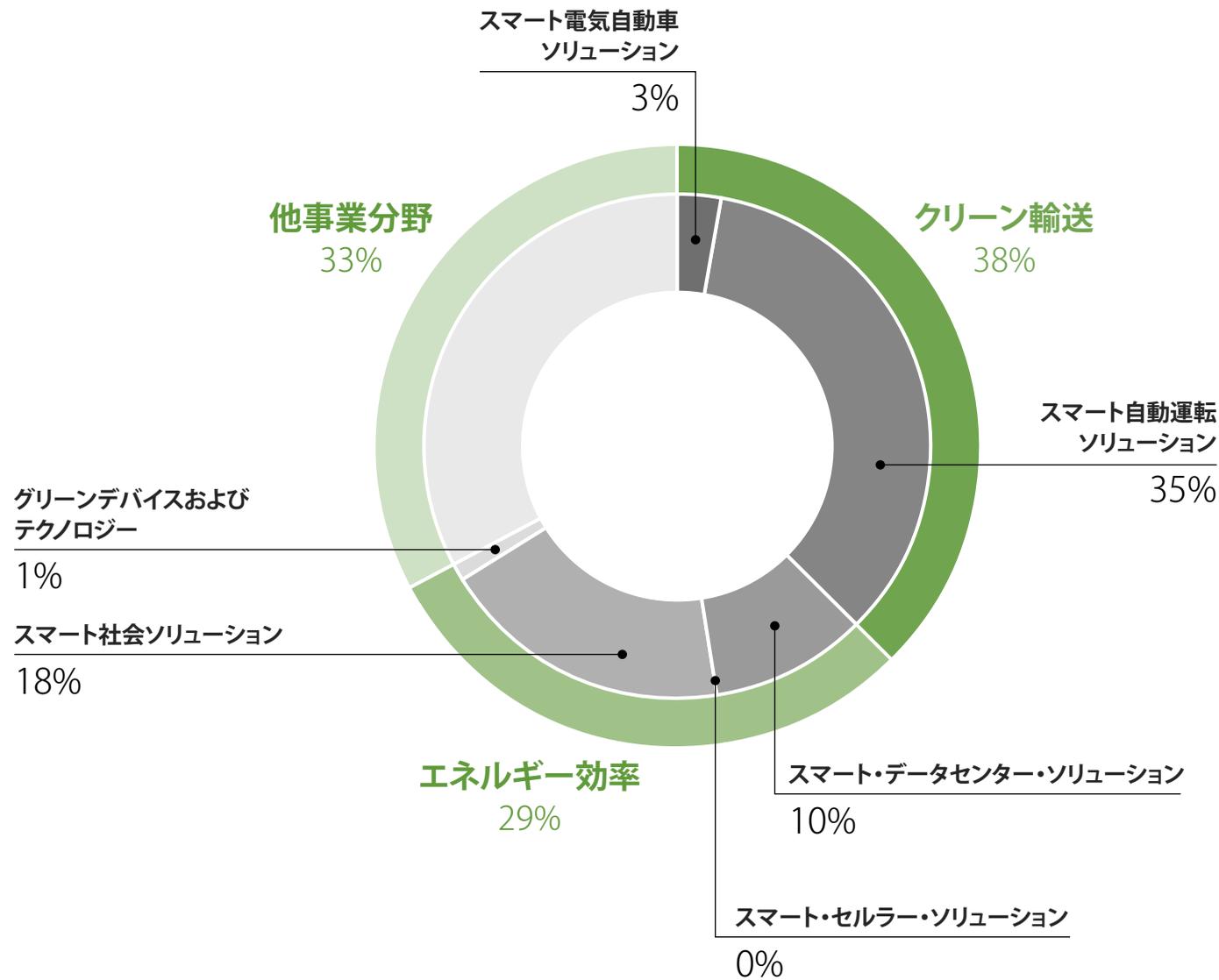


データ集

ルネサス グリーンデバイスの続き

グリーンデバイスのソリューション別売上比率

2023年度のグリーンデバイス売上の内、ミッションクリティカルな事業分野(グリーンボンド適格ソリューション)は67%、内、スマート自動車ソリューションや電気自動車向けが38%、データセンターやセルラーなど社会インフラ向けが29%を占めています。(※3)



※3:ルネサスのグリーンデバイス(2023年度に開発し量産開始した旧ルネサス製品とその系列製品)をグリーンボンド適格ソリューションに分類し、グリーンデバイス製品の売上を分母として各ソリューション別の比率を算出。分類できなかった他事業分野の製品比率は20%です。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

ルネサス グリーンデバイスの続き

サプライチェーンにおける製品環境品質

ルネサスは、開発・設計時の部材選定から製造工程での汚染防止にいたるまで、全工程を通じた製品含有化学物質管理にはサプライチェーン全体で取り組む必要があると考えています。このため、取引先には使用禁止物質に係る非含有保証書や分析データの提出を求めるなど、サプライヤーオーディットによる管理体制の確認をしています。

販売会社および代理店には、使用する包装材の製品含有化学物質管理をお願いしています。一方、お客様に対しては、当社の製品を安心してお使いいただくために製品含有化学物質情報やRoHS指令による禁止物質の分析データなどを必要に応じ提供しています。また、当社の含有化学物質管理の仕組みや実際の活動状況をお客様に確認していただいています。

環境に配慮したサプライチェーンの取り組みについての詳細は[こちら](#)

グリーン調達についての詳細は[こちら](#)

環境コンプライアンスについての詳細は[こちら](#)

原材料メーカー様

部材メーカー様

ルネサス エレクトロニクスグループ

販売会社様・代理店様

セットメーカー様

SDGs への貢献

ルネサスグループのエコプロダクト活動における取り組みは、以下の持続可能な開発目標に貢献しています。



12.4

2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

生物多様性保全活動

生物多様性保全の活動方針

ルネサスの事業分野である半導体は製造において大量の水や資源、エネルギーが必要であり、生物多様性がもたらすさまざまな生態系サービスに大きく依存しています。

当社では、持続可能な社会の実現に向け、地球環境の保全と人々の健やかな暮らしの調和を考えた企業活動を推進するという環境基本理念に基づき、生物多様性の保護を推進しています。生物多様性の保護は、環境行動指針の重要な項目の一つに位置付けられています。

また、生産拠点や事業所における資源の効率的な使用や、サステナブルな製品やソリューションの提供など、事業活動を通じた生物多様性の保全に貢献する活動を積極的に推進することを活動方針としています。お客様のニーズに応えると同時に、生態系サービスから享受した恩恵を地域社会へ還元していきたいと考えています。

生物多様性活動評価

ルネサスでは、各拠点の生物多様性保全活動を自己評価の平均値で評価しています。評価を始めて2年目となる2023年度は、海外の生産拠点を含ま世界15拠点を対象に評価を実施しました。生物多様性保全への取り組みは、国内のみならず海外生産拠点においても積極的に推進され、すべての指標において前年度に比べて評価が改善しました。

高評価となった拠点

- 中でもマレーシアの2拠点は、現地での土壌・自然環境の保全から地方自治体との協働、従業員の意識啓発に至るまで、幅広い活動を実施しました。
- ペナンのFIZ3工場は、地方自治体との協働や従業員の意識啓発といった幅広い取り組みに加え、海岸保護や絶滅危惧種に関する対話活動を中心とした取り組みが最高評価となりました。
- 北京工場と錦工場は、水資源の保全活動や絶滅危惧種の保護など、地域に応じた活動を行っている点で高評価を得ました。
- 米沢工場は、省エネ設備の導入や敷地外の清掃活動を開始したことで、評価は前年より大幅に改善しました。

今後も生物多様性保全活動の継続と品質向上のため、情報共有を推進し、事業活動全体において生物多様性保全への貢献に努めます。

生物多様性保全活動

生物多様性保全活動



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

A. 海洋・水質の保全

10

8

6

4

2

前年度
平均点

2023年度
平均点

最高点
ペナンFIZ3工場

B. 土壌や自然環境の保全

D. 地域行政との連携・本業での活動・
社員意識啓発・職場環境の改善

C. 温暖化抑制と省資源活動による生態系保護

(1) 国内グループ8拠点(本社地区、那珂、高崎、西条、川尻、米沢、大分、錦)の平均点

(2) 上記に下記の海外7工場(北京、蘇州、クアラランガット、ペナンFIZ2、ペナンFIZ3、パームベイ、ドレスデン)を加えた平均点

生物多様性保全活動の続き

2023年度の生物多様性活動実績

2023年度、ルネサスでは生産拠点を中心に120件の生物多様性活動を実施しました。

ルネサス (14生産拠点、1事業所)	A. 海洋・水質の保全	B. 土壌や自然環境の保全	C. 温暖化抑制と 省資源活動による 生態系保護	D. 地域行政との連携・本業での活動・社員意識啓発・ 職場環境の改善
生産拠点	29件	22件	23件	39件
事業所	2件	1件	2件	2件
合計	31件	23件	25件	41件



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

生物多様性保全活動の続き

海洋・水質の保全

大量の水資源を必要とする半導体製造業界にとって、海洋と水質の保全は不可欠です。ルネサスは、工場排水路の定期清掃や地域の清掃ボランティアへの参加を通じて、海洋・水質保全に努めています。



中津干潟の清掃 (大分工場)

海岸に近い工場では、地域住民の方々とともに海岸清掃活動を行いました。



排水路の定期清掃 (マレーシア・ペナンFIZ2工場)

用水路に近い錦工場およびマレーシアの2工場では、排水路の定期清掃活動を実施しました。

生物多様性保全活動の続き

土壌や自然環境の保全

健全な生活環境と持続可能な未来を築くには、豊かな土壌や木々、そしてそこに育まれる多様な生物を保全することが重要です。各地に点在するルネサスの事業所では、それぞれの地域に密着した活動を行っています。



ウミガメの保護活動(マレーシア・ペナンFIZ2工場)

ウミガメは生息地の減少や海洋ゴミの影響により個体数が減少しており、現在では絶滅危惧種に登録されています。



満開のツクシイバラ

熊本県錦町の町花であるツクシイバラは、かつて絶滅危惧種に指定されていましたが、錦工場の従業員による保護活動が奏功し、生息数は準絶滅危惧種に再指定されるまでに回復しました。

生物多様性保全活動の続き

省資源活動による温暖化抑制および生態系保護

ルネサスは、生態系の保護のために温暖化抑制と省資源への取り組みが喫緊の課題であると認識しています。省エネ設備への更新、高効率ラインの導入、グリーン電力の購入、職場での節電など、さまざまな観点から環境問題の解決に取り組んでいます。



LNG焚きボイラー (西条工場)

ボイラー燃料を灯油からLNGに切り替えたことで、年間714t-CO₂のCO₂排出量を削減することができました。



中国水利部への節水対策の報告 (中国・北京工場)

ルネサスでは、社内のみならず、地方自治体や関連企業とも、省エネルギー・省資源に関する議論や意見交換を積極的に行っています。

生物多様性保全活動の続き

地域行政との連携・本業での活動・社員意識啓発・職場環境の改善

ルネサスは、当社の生産拠点が所在する自治体と積極的に協力し、環境問題への取り組みを支援しています。



再利用水のろ過施設 (米国・パームベイ工場)

パームベイ工場は、市と提携し、市に対して1日当たり30m³の再利用水を供給しています。

生物多様性保全活動の取り組みについての詳細は[こちら](#)



地元企業との提携によるオーガニック食品の提供 (ドイツ・ドレスデン工場)

ルネサスでは、社員食堂でも環境への取り組みを重視しています。いくつかの拠点では、環境に配慮した食事の提供を開始しました。

生物多様性保全活動の続き



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

SDGsへの貢献

ルネサスグループの生物多様性保全活動における取り組みは、以下の持続可能な開発目標に貢献しています。



11.6
2030年までに、大気、水、土壌の質および一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。



12.4
2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。



12.5
2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用および再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。



13.3
気候変動の緩和、適応、影響軽減および早期警戒に関する教育、啓発、人的能力および制度機能を改善する。



14.1
2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。



15.3
2030年までに、砂漠化に対処し、砂漠化、干ばつおよび洪水の影響を受けた土地などの劣化した土地と土壌を回復し、土地劣化に荷担しない世界の達成に尽力する。



15.4
2030年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実に行う。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



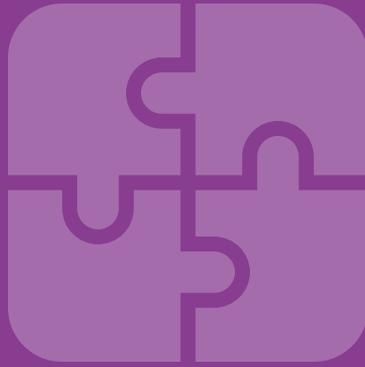
社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



社会 (Social)

リーダーの視点	73
ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン	75
人材育成	79
人権保護に対する取り組み	82
安全衛生	85
地域社会との交流と社会貢献活動	89
サプライチェーンおよびパートナー・エンゲージメント	93



リーダーの視点

インクルーシブな職場の核となる多様性

ルネサスでは、人材をまず第一に考え、活力に満ちた人材の確保と維持に努めています。ここ数年間に行った複数の買収によって、当社はさまざまな企業の従業員のスキルや考え方から恩恵を受けるまたとない機会を得ました。

私は特に、よりインクルーシブな職場の構築に向けて当社が前進したことを誇りに思っています。女性の活躍推進は、引き続き重要な焦点となります。従業員リソースグループの女性たちが協力し、女性が自分のキャリアに主導権を持てるよう支援することを目的としたワークショップを開催しています。Women's Leadership Initiativeとのパートナーシップにより、女性がニッチな技術メンタリングプログラムに参加したり、Women in Semiconductor Hardware (WISH) などの技術カンファレンスに参加したりできるようになりました。2023年には、重点取り組みとして多様な人材の採用に注力しました。こうした2つの取り組みにより、日本ではエントリーレベルの女性エンジニアの採用目標15%を超え、インドでは新規採用者の30%が女性でした。

国際女性デー、国際女性エンジニアデー、プライド月間とダイバーシティ啓発月間などのイベントを通じて、従業員のアンコンシャスバイアス(無意識バイアス)に対する意識を高めていくようにしています。当社のダイバーシティ推進グループと従業員リソースグループ (Women in Technology、Pride、Renesas International Support and Empowerment) は、多



ルネサスの成功は、ユニークで個性的な観点と才能を組織にもたらす人材を惹きつけ、それに報いることから始まり、お客様、株主、そして会社全体に利益をもたらすでしょう。

様な従業員グループがネットワークを広げ、知識を共有するためのコミュニティを世界中に構築する上で極めて重要な役割を果たしてきました。これらのグループはまた、全従業員が参加する教育活動も主導しています。

また、Inspiring Girls International、High-Tech High Heels、UK Electronics Skills Foundationといった将来のエンジニア育成を目的とした組織と協力し、若い学生たちにSTEM教育 (Science: 科学、Technology: 技術、Engineering: 工学、Mathematics: 数学) とキャリア・オプションを推進する取り組みも強化しています。グローバル企業として、当社は就業機会の提供を通じて次世代エンジニアの育成を支援する役割を担っています。



Julie Pope
執行役員 兼 CHRO



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

リーダーの視点の続き

パーパスに基づく人材の採用と定着化

優秀な人材を採用する取り組みは、入念な計画を立てることから始まります。この計画プロセスで重要なのは、大学教授との関係構築にあります。2023年に、ルネサスはさまざまなバックグラウンドを持つより多くの学生に機会を提供するために、対象となる大学の輪を広げ始めました。フルタイムのポジションに直結するインターンシップを提供することで、結果としてより有能で訓練された人材を確保することができます。

私たちが特に優先しているのは、従業員が健康、安全で仕事に満足していること、そして柔軟性を提供することです。この1年の取り組みとして、ルネサスはグローバルモビリティ部門の責任者を新たに任命し、ルネサスの従業員が勤務地以外の国で最大30日リモート勤務できる海外リモートワークプログラムを拡大しました。他社が廃止した後も当社では在宅勤務制度を維持し、従業員がフレキシブルに働きワークライフバランスを確保できるようサポートを継続しています。

成功の文化を育む

当社の従業員がルネサスの企業文化や業績をどのように考えているかを理解することは、非常に有益です。ルネサスでは年に1度、カルチャーサーベイを実施し、全社のチームメンバーの状況把握を行っています。世界中の従業員からの率直なフィードバックや改善提案に積極的に耳を傾け、それに基づいて行動するようにしています。2023年度には92%の回答率が得られ、なかでも重要な発見だったのが、回答者の70%近くが過去12ヶ月間に当社の企業文化が改善されたと感じていると回答したことでした。

ルネサスの文化の主要な部分は、変化をもたらしたいという意欲を持つ従業員を中心に成り立っています。業務で携わっているプロジェクトにワクワクしているとき、人々は自然に自分の役割がより意味があり、影響力のあるものであると考えようになります。

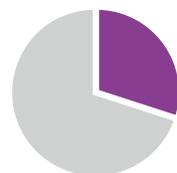
幸いなことに、私たちがサービスを提供する市場は、業界をリードするルネサスの半導体の進歩と相まって、社会にプラスの影響を与える最先端テクノロジーの一部に貢献する機会を提供しています。

2023年度の成果と継続的な取り組みを嬉しく思う一方で、2024年度以降もやるべきことはまだあると自覚しています。私たちは個人として、そして組織としても向上できるよう取り組んでいきます。

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン (DE&I) は、ルネサスの企業文化において重要な存在です。当社従業員の多様なバックグラウンドとユニークな観点はイノベーションを推進し、ルネサスの成長に不可欠です。

ルネサスの経営戦略、方針、福利厚生、従業員重視の取り組みやパートナーシップは、機会均等とすべての人にとってインクルーシブな職場を構築することに対する当社の力強い取り組みを反映しています。以下はその例です。



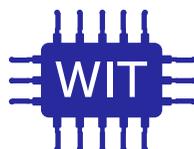
取締役会の**女性比率を30%**とする目標



Global Semiconductor Alliance による
Women Leadership Initiative との
2024年度スポンサー提携

**WOMEN'S
EMPOWERMENT
PRINCIPLES**

国連による
「**女性のエンパワーメント原則 (WEPS)**」への賛同



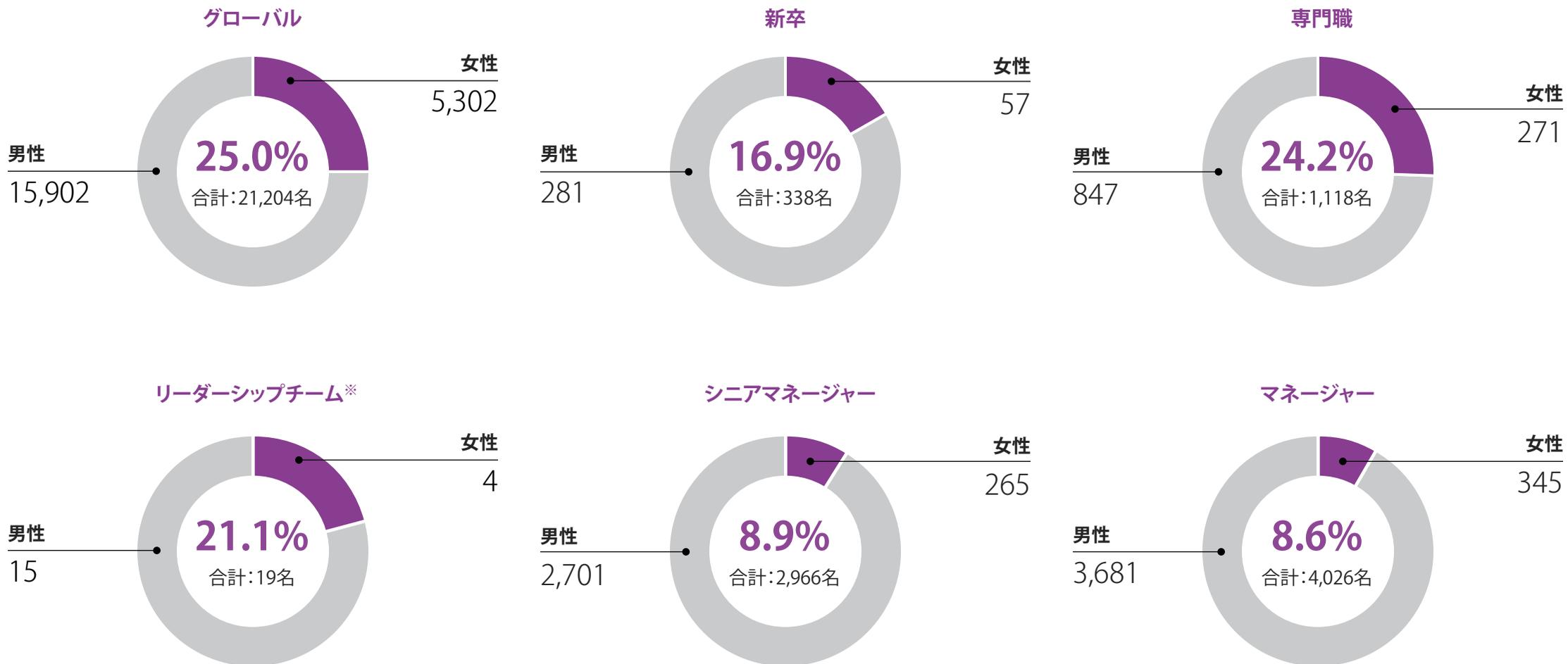
ダイバーシティ推進グループおよび**従業員リソースグループ**による
DE&I 推進とグローバルな従業員支援



Inspiring Girls International および **High-Tech High Heels** との
戦略的パートナーシップを通じた次世代の女性エンジニア教育と
インスピレーションの提供

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの続き

女性従業員の比率(2023年)



* 取締役、監査役、および執行役員

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの続き



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

ルネサスのDE&Iコミュニティ

ルネサスには、ダイバーシティ推進グループ (DPG) や従業員リソースグループ (ERG) など、従業員が従業員のために組織する地域およびグローバル規模のサポートグループが多数あります。世界中に200名を超えるメンバーを擁するルネサスの Women in Technology ERGは、ネットワーキングや教育活動を継続的に主催し、国際女性エンジニアデーなどの重要なイベントに賛同しています。2023年に新たに発足したPrideおよびRenesas International Support and Empowerment (RISE)の従業員グループは、メンバー数が増えてきており、今後の取り組みも企画されています。

国際女性デー

Women In Technology ERGは、2023年度のテーマである #EmbraceEquity をもとに、特別なパネルディスカッションを主催しました。CHROのJulie Popeからは、キャリアアップと多様性の受容に必要なジェンダー平等についての意見がありました。従業員からは、メンターシップにまつわる体験談や、従業員自身やチームの成功に役立ったことについて発表がありました。



プライド月間

プライド月間を記念して、ルネサスはインクルーシブな職場のメリットと重要性に焦点を当てたバーチャルパネルディスカッションを開催しました。さまざまな地域やチームを代表するパネリストが、アンコンシャスバイアスと、それを乗り越えてインクルーシブな環境をさらに促進する方法を議論しました。

ダイバーシティ推進月間

毎年10月には、ルネサスでは世界中の従業員とともに「ダイバーシティ推進月間」を祝福しています。2023年度は3つのイベントを開催し、従業員との交流を図りました。トピックとしては、アンコンシャスバイアス、職場における性別の固定観念、身体的および精神的なウェルビーイングなどが取り上げられました。



Inspiring Girls Internationalと High-Tech High Heels

2023年、ルネサスはInspiring Girls InternationalおよびHigh-Tech High Heelsとパートナーシップを締結しました。同団体との協力の下、キャリアにまつわるキャンペーンを通じて世界中の少女たちにインスピレーションを与え、実験キットやチュートリアルビデオを提供しました。

UK Electronics Skills Foundation (UKESF)



当社は10年以上UKESFと提携し、エレクトロニクス関連の学位習得を目指す女子大学生に対して、有給インターンシップや継続的なサポートを提供しています。2023年度は11人のインターンを迎え、今後数年間はさらにその取り組みを強化する予定です。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの続き

男女賃金格差情報の開示 (ジェンダー・ペイ・ギャップ)

ルネサスでは、平等な職場作りを推進しています。そのため、すべての従業員が、バックグラウンドに関係なく、業務に対して公正な報酬を受けられるよう取り組んでいます。その一環として、従業員の給与データと男女間の平均給与の差を分析しています。

SDGs への貢献

ルネサスグループのダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンに向けた取り組みは、以下の持続可能な開発目標に貢献しています。



5.1

あらゆる場所におけるすべての女性および女子に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。



5.5

政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参加および平等なリーダーシップの機会を確保する。



5.c

ジェンダー平等の促進、並びに全ての女性および女子のあらゆるレベルでの能力強化のための適正な政策および拘束力のある法規を導入・強化する。



10.2

2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の能力強化および社会的、経済的および政治的な包含を促進する。

人材育成

半導体業界では優秀なプロフェッショナルの採用および確保が依然として重要な課題となっているため、引き続き従業員の育成を最優先事項のひとつとしています。従業員とそのキャリア段階全体にわたる専門能力開発への投資の方法として、いつでも、どこからでもアクセスできるデジタル学習プログラムの提供が挙げられます。2023年度に導入された福利厚生と取り組みは、従業員が潜在能力を発揮し、健全なワークライフバランスを保つために必要なサポートを提供するものです。

人材獲得

ルネサスは、学生や経験豊富なプロフェッショナルが、事業や地域の枠を超えてキャリアをスタートさせ、ステップアップできるように支援しています。

- 全世界で約600名の新卒者と1,800名以上の経験豊富なプロフェッショナルを採用。
- 一元的な管理および採用指標のより効果的な報告を目標に、ポリシー、紹介プログラム、プロセス、賞与体系の統合を推進。
- 新たなグローバルリクルーティングシステム (Smart Recruiters) と新キャリアサイトを2024年度第1四半期に展開し、候補者、採用マネージャー、採用担当者のエクスペリエンスを向上。
- 日本のRandstad社と新たに採用アウトソーシングパートナーシップを確立。
- 雇用主価値提案活性化および2024年度採用マーケティングのコンセプトと企画を立案。

従業員のエンゲージメントと確保

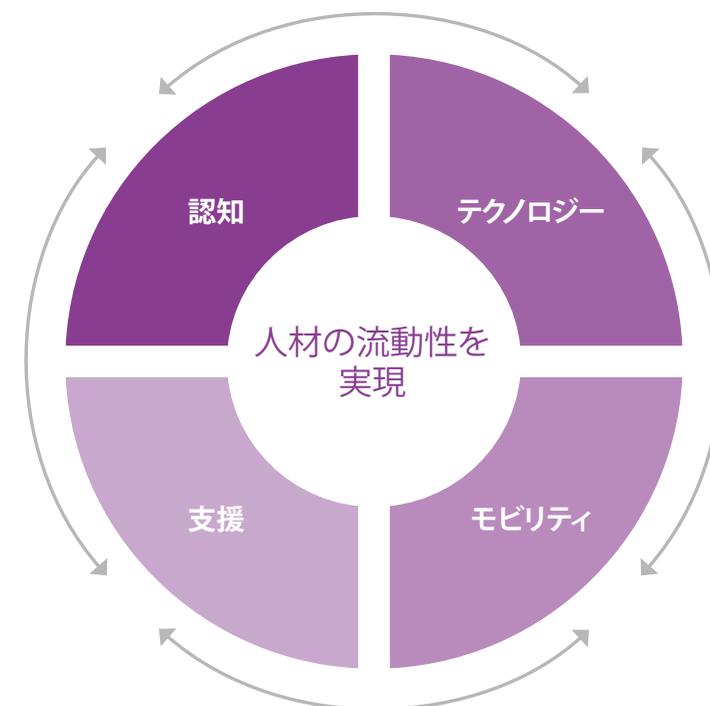
福利厚生からジョブトランスファーに至るまで、社員が成長するための最適なサポートと機会を提供しています。

- Internal Mobilityプログラムへの200件を超える応募を通じ、約30%が異動を実現。
- 従業員が年間最長30日間勤務地以外の国で働くことができる新たな海外リモート勤務プログラムを立上げ、400件を超える申請を受領。
- より多くの国外での就労機会をサポートするために、Global Mobilityプログラムを見直し、刷新するためのリソースを追加。

人材の流動性を実現

ルネサスでは、あらゆるレベルのマネージャーと協力してチームをさまざまな方法でサポートし、従業員に専門的な昇進の機会を提供しています。次のような例があります。

- 社内モビリティの機会拡大。
- 従業員がルネサスで機会を得るのに役立つキャリアオプションの提供。
- 世界中の拠点間の異動を可能にするグローバルモビリティ。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

人材育成の続き

福利厚生および報酬

当社では、半導体業界での競争力を維持し、グローバルレベルで魅力のある雇用主として認識してもらえよう、世界中の従業員に対して十分な報酬と福利厚生パッケージの提供に尽力し、プログラムを継続的にモニターしています。過去1年間の取り組みとして、以下にその一例を挙げます。

- 各国における従業員グループ向け福利厚生プログラムの整合性を継続的にレビューし、福利厚生プログラムの公正かつ一貫した利用を実現。有能な人材を対象に見合った報酬を提供し、人材確保のためのプログラムを強化。
- 上司がより建設的なフィードバックをするのをサポートするべく、パフォーマンス管理システムを刷新し、チームメンバーと年度末のパフォーマンス・報酬についてもっと効果的に議論できるようにするためのガイドを導入。
- グローバルな成果報酬の考えに基づき、職位に応じたグローバルな短期インセンティブ目標を新たに導入し(日本と一部の生産拠点では段階的に導入)、日本では「役職定年制度」(年齢に基づく退職・降格)を廃止。
- 全従業員を対象とした会社主催の休日である第2回「Renesas Day」を主催し、8月にはパフォーマンスとワークライフバランスを向上させるためにミーティングを設定しないことを目的とした「Focus Fridays」を実施。
- ストレスマネジメントに関するe-Learning コースをグローバルに提供し、日本では法律上の義務に従って年一回のストレスチェックを実施。
- 各地域の全従業員向けに、リーダーや従業員がワークライフバランスをどのように保っているかを話し合う、ウェルビーイングをテーマとしたオンラインパネルセッションを主催。

Diversity Awareness Month 2023
Diversity, Equity & Inclusion

Wellbeing Panels

Our leaders shared their experiences on integrating their professional and personal lives, as well as supporting their teams' well-being in today's fast-paced world.



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

人材育成の続き

学習とキャリア成長の機会

ルネサスは、スキルと才能は育成・開発し続ける必要があることを認識しています。これについては、昨今の市場において競争力を維持するために不可欠なものであり、今後も継続的に取り組んでまいります。2023年度の取り組みについては、一例を以下にご紹介します。

- スキルライブラリを備えた能力開発 Web ページを一元化。
- 新たな管理プログラム「Launch into Leadership」をグローバルに展開。年末までに約100名の従業員がプログラムを修了し、220名以上の従業員が継続受講中。
- 200名以上の従業員が、さまざまなレベルのリーダーシップ開発プログラムに登録。
- TAGIE Foundation (Transparent, Agile, Global, Innovative, Entrepreneurial) に関する e-Learning コースを日英両言語で提供。
- LinkedIn Learning のライセンスを91%使用 (当初の目標はプログラム参加率80%)。
- MindTools (個人および職務上の能力開発に関する実用的なインサイトを提供するように設計されたオンデマンドプラットフォーム) をアクティブユーザーの81%が使用し、当初目標の70%を大幅に上回る。
- リーダーシップ開発ツール ExecOnline の使用により、能力に対する自信が、目標であるプラス9ポイントを上回り、40ポイント以上向上。

SDGs への貢献

ルネサスグループの従業員の成長とエンゲージメントに向けた取り組みは、以下の持続可能な開発目標に貢献しています。



4.4

2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事および起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。

人権保護に対する取り組み

ルネサスでは、国連人権理事会による「ビジネスと人権に関する指導原則」に従い、人権を尊重した事業活動を行っています。基本的人権とは、「国際人権章典」と、国際労働機関 (ILO) による「労働における基本的原則および権利に関するILO宣言」に規定されている人権を指す、というのが当社の理解です。こうした考えのもと、ルネサスは人権、労働、環境、腐敗防止に関する国連グローバル・コンパクトの10原則に賛同しています。

近年下記のような進展がありました。

- 2022年に行った人権デューデリジェンスの活動プロセスで特定された人権問題を是正。
- Navex Global, Inc. 主催の全従業員を対象とした、オンラインでのコンプライアンス研修を完了。

人権デューデリジェンスの活動プロセス



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

人権保護に対する取り組みの続き

潜在的な人権リスクの特定

ルネサスでは、事業活動における人権リスクを分類し、なぜそのリスクに対処することが重要なのかを特定し、それらのリスクを軽減するための一連の適切な措置を確立しました。

リスクカテゴリー	課題	対応措置
差別の禁止、機会均等、DE&I	障がい者の法定雇用率の未達	障がい者の法定雇用率を改善
	障がいのある従業員への合理的配慮が不十分	障がいのある従業員への合理的配慮として必要なことを再検討
	差別的な結果につながる可能性のある非必須の健康診断を実施	差別的な結果につながる可能性のある非必須の健康診断項目を削除
	職務内容や昇進基準に関して一部の従業員に明確な説明なし	職務内容や昇進基準に関して全従業員に対して明確に説明
強制労働	母国語が日本語でない従業員の場合、契約書が母国語に翻訳されていない	日本語を母国語としない新入社員に対しては、契約書を英文に翻訳して提供
プライバシーと情報セキュリティ	明確なポリシーや従業員の同意がないまま個人情報を収集	収集する情報／個人情報の条件およびデータ保護ポリシーの見直し
	プライバシーおよび情報セキュリティ規制を監視する体制やプロセスがない	プライバシーおよび情報セキュリティ規制を監視する体制またはプロセスを確立



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

人権保護に対する取り組みの続き

人権に関する潜在的リスク

ルネサスは、以下の6つの主要項目を、社内やサプライチェーンにおいて対処すべき人権問題としてとらえています。こうした重要な課題に対するステークホルダーからの期待に応えるため、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に則り、リスクの特定・予防・軽減のためのさらなる対策を進めています。

- 安全衛生
- 児童労働・強制労働の禁止 (子どもの権利に対する方針)
- 労働時間
- 責任ある鉱物調達
- 結社の自由 (労使関係)
- 人権教育

SDGs への貢献

ルネサスグループの人権に向けた取り組みは、以下の持続可能な開発目標に貢献しています。



8.7

強制労働を根絶し、現代の奴隷制、人身売買を終らせるための緊急かつ効果的な措置の実施、最悪な形態の児童労働の禁止および撲滅を確保する。2025年までに児童兵士の募集と使用を含むあらゆる形態の児童労働を撲滅する。



10.3

差別的な法律、政策および慣行の撤廃、並びに適切な関連法規、政策、行動の促進などを通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正する。



16.b

持続可能な開発のための非差別的な法規および政策を推進し、実施する。

安全衛生

ルネサスは、従業員および契約社員が安全で健康に業務に従事することができる職場づくりに注力し、「休業労働災害ゼロ」をグローバル目標として活動しています。最近の取り組みとしては、以下が挙げられます。



労働安全衛生マネジメントシステム

2023年、ルネサスは主要生産拠点すべてにおいてISO45001認証を取得し、労働安全衛生(OH&S)マネジメントシステムに関する国際規格に準拠していることが確認されました。2024年度第1四半期には、さらに5拠点で認証を取得しました。このうちの2カ所は生産拠点(中国、マレーシア)で、3カ所は非生産拠点(日本、ベトナム、アメリカ)です。

ISO45001認証取得済み拠点

地域	認証取得拠点
日本	8
マレーシア	5
中国	2
米国	1
ベトナム	1

その他の認証取得拠点を含むリストは[こちら](#)



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境(Environment)



社会(Social)



ガバナンス(Governance)



データ集



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

安全衛生の続き



月一回の安全衛生教育活動

月例の安全衛生教育活動の一環として、日本で研修を行いました。この研修は、2023年の秋に実施されたメンタルヘルスに関するe-Learningプログラムと、2024年の春に卒業予定の新入社員を対象とした安全衛生研修という内容でした。



緊急事態の備え

緊急事態発生時の対応手順を策定し、エマージェンシーチームの設置、定期的な避難訓練を行っています。



心身の健康への取り組み

日本では、新型コロナウイルス感染症予防を目的としたマスク着用の国内ルールが工場および工場以外の場所で段階的に緩和されました。また、新型コロナウイルス感染症の陽性従業員に関する報告は、日本以外の全地域では2023年2月に、日本では2023年5月に廃止となりました。



健全なワークライフバランス

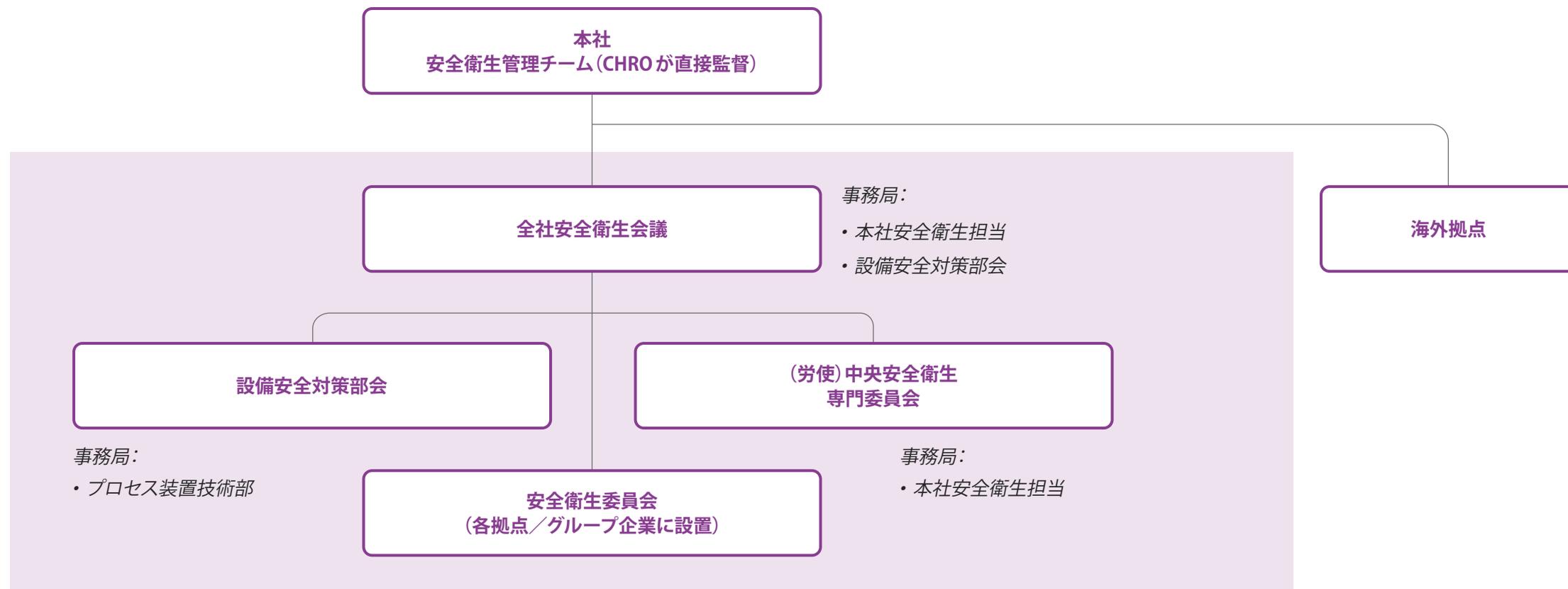
労働時間は適切に管理して、各国の法令で定められた制限を遵守するようにしなければなりません。日本のルネサスの場合、2023年度の標準的な所定労働時間は1日7時間45分、年間休日は130日でした。その結果、労働組合員一人当たりの月平均時間外労働時間は21.4時間、年次有給休暇の平均取得日数は18.4日となりました。

安全衛生の続き

安全は引き続き最優先事項

従業員の安全衛生は、私たちの最優先事項です。日本を拠点とする安全衛生管理チームは、グローバルな人事総務部門内で、最高人事責任者 (Chief Human Resources Officer) の直接の監督下で活動しています。その主な責任は、労働安全衛生における取り組みの監督にあります。国内の各拠点・グループ会社においても、安全衛生管理体制を定め、安全衛生責任者を設置しています。

日本における安全衛生管理体制

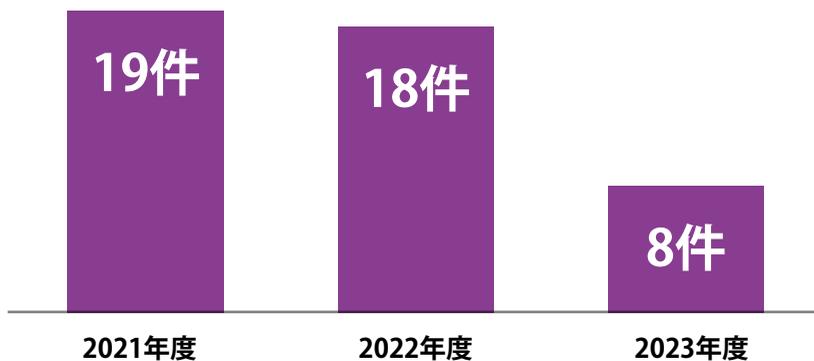


安全衛生の続き

労働災害の発生状況

ルネサスはグローバルで休業労働災害の発生状況を把握し、情報共有等を行うことで災害発生の予防に取り組んでいます。2023年度の同災害の発生件数は8件で、2022年度よりも10件減少しました。労働災害の報告ルールは、海外生産拠点および非生産拠点でも、導入済みです。

年間労働災害発生件数



SDGs への貢献

ルネサスグループの安全衛生に向けた取り組みは、以下の持続可能な開発目標に貢献しています。



8.8

移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。



地域社会との交流と社会貢献活動

私たちが暮らし、働いているコミュニティや地域の方々に対する慈善活動は、社会への還元になると認識しています。

国内においては、ボランティア休暇を含む各種休暇を年次有給休暇の中に取り込み、年次有給休暇日数を増やすことで、従業員がその年次有給休暇を活用して、社会貢献活動を行えるようにしました。加えて、週休3・4日制度を導入し、定期的に行われる地域活動にも参加しやすくなるようにしています。

米国においては、正規のフルタイム従業員なら誰でも、有給労働時間のうち年間最大16時間までを、承認された地域のボランティア活動に充てることできるようにしています。

2023年 社会貢献活動の金額実績 (万円)

寄付金	3,814
協賛金	371
現物寄付	53
従業員のボランティア活動参加 (参加時間を金額換算)	309



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

地域社会との交流と社会貢献活動の続き

注力3領域の社会貢献活動実績

地域社会への支援



兵士へのバイオニックアーム寄付(ウクライナ)

2023年7月、ルネサスのリヴィウ事務所は、Unbroken (戦争で負傷した人々に身体的、心理的、心理社会的リハビリテーションを提供する慈善団体) に30万 UAH (約7,500ユーロ) を寄付しました。この寄付を通じ、対戦車地雷により右腕を失った若い兵士にバイオニックアームが贈られ、Unbrokenの事務所で、現地チームはその兵士と面会することができました。



がん研究のためのチャリティーレース(英国)

がんの根治に向けた研究は、ずっと続いています。どんなときでも、たとえ泥のなかを這いつくばってでも、です。2023年5月、ルネサスの英国スウィンドンのチームは、がんの研究費を募るため、数百人のランナーとともに、ぬかるんだ野原で障害物コースを完走しました。集まった寄付金は2,000ポンドを超えました。



飢餓撲滅のための募金活動とフードボックス(米国)

2023年10月、ルネサスの米国チームは、「Second Harvest of Silicon Valley」が主催する飢餓撲滅を目的とするバーチャルレースに参加しました。当社の寄付は20,000ドルを超え、地元地域の貧困に苦しむ人たちに10万食を提供することができました。11月には、再びSecond Harvestと協力し、3時間間に24,000ポンドの食料の仕分け・梱包を行いました。

地域社会との交流と社会貢献活動の続き

次世代エンジニアの教育



中学生の職業体験(日本)

2023年8月、那珂工場では、近隣の小中一貫校ひたちなか市立美の浜学園から中学2年生2名を迎えて、ルネサスの工場勤務を体験してもらいました。半導体とは何かについて見学や講義を受けた後、実際に仕事を体験し、実社会で働くことの楽しさや難しさを学んでもらうことができました。



ルネサスボードキットの寄贈(ベトナム)

2023年2月、ホーチミン工科大学およびダナン科学技術大学に、CK-RA6M5クラウドキットとDA16200を搭載したSparkfun Wi-Fiシールド (Arduino) 100台を寄贈しました。こうした取り組みを通じて、これらの大学との関係を継続的に強化し、工学部の学生のルネサスに対する理解と関心を高めることができました。



ジャパンマイコンカーラリーの支援(日本)

2023年、日本の工業高等学校191校(1,254名)が参加したジャパンマイコンカーラリーを支援しました。マイコンカーの車体制御には、ルネサスのマイコンが使われており、ルネサスは機材提供や講習会を通じて、学生や指導教員のエンジニアリングスキルの向上に貢献しました。12月27日~28日には、191名が全国大会の決勝戦に挑みました。ルネサスのRAマイコンを搭載した車体も正式採用されることが決まっており、次なるチャレンジに向けて学生たちをサポートしていきます。

地域社会との交流と社会貢献活動の続き

環境保全への取り組み



山林の清掃活動(中国)

2023年5月、北京では40名を超える従業員が社会奉仕活動にボランティアとして参加しました。3つのグループがそれぞれの山道から百望山に登り、途中でゴミを拾ったり、標識やゴミ箱を清掃したりしました。3時間のチャリティーイベント中、従業員は、清掃活動を通じた環境美化に貢献することで、ルネサスのパーパス「人々の暮らしを楽(ラク)にする」を体現しました。



マングローブ林の保護(マレーシア)

2023年12月、ルネサスは2年連続でペナン沿岸漁業者福祉協会と協力し、生物多様性プロジェクトに参加しました。20名を超える従業員がボランティアとしてマングローブの木を植樹し、海岸線の保護、多様な海洋生物の生息地保護、および炭素隔離に貢献しました。全員が協力して約200本のマングローブを植えたことで、沿岸生態系の保護と回復に向けた大きな一歩となりました。

SDGsへの貢献

ルネサスグループの社会貢献活動に対する取り組みは、以下の持続可能な開発目標に貢献しています。



4.3

2030年までに、全ての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育および大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。



4.4

2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事および起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。



5.b

女性の能力強化促進のため、ICTをはじめとする実現技術の活用を強化する。



6.6

2020年までに、山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼などの水に関連する生態系の保護・回復を行う。

サプライチェーンおよびパートナーとのエンゲージメント

責任ある原材料調達と製品開発を行うには、サプライヤやパートナーとの緊密な連携が不可欠です。ルネサスは、世界中のサプライヤ・エンゲージメントを強化するために、双方向セミナーの機会を設け、継続的に開催しています。その結果、サプライヤからのCDP調査回答が2倍となり、2023年には「**CDP 2023 サプライヤ・エンゲージメント・リーダー**」に選定されました。気候変動課題に対するサプライヤとの協働で評価された企業の上位8%を代表するサプライヤ・エンゲージメント・リーダーの1社として認められたことを光栄に思います。



中期目標

ルネサスでは、持続可能なサプライチェーンの実現に向け、中期目標および毎年のKPIを設定し、活動を進めています。中期目標(2021年～2024年)には、1) すべての重要取引先におけるリスク評価※ Medium以下を達成する、2) RMI 認証プロセスで認証された精錬事業者のみからの鉱物調達を実現する、などを設定しています。

※RBA-SAQによるリスク評価



グリーン調達

ルネサスグループでは、環境保全に積極的な企業から、環境に配慮した部品や材料を優先的に調達しています。



RBAの加盟と新たな行動規範

2021年のRBA加盟に伴い、ルネサスでは「サプライチェーンCSR推進ガイドブック」の内容を見直しました。改訂版は「ルネサスサプライヤ行動規範 (CoC)」に改称し、世界の96%のサプライヤから同意いただいています。



自己診断アンケート (SAQ)

2023年度のサプライヤからの自己診断アンケート (SAQ) 回答率は、82%でした。重大なリスクは特定されませんでした。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)

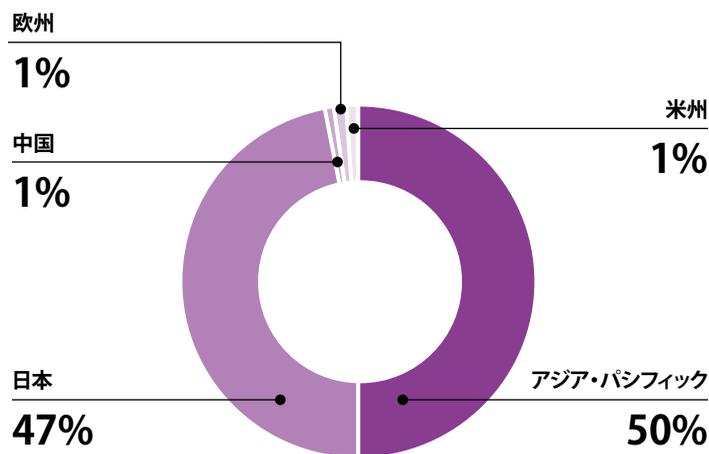


データ集

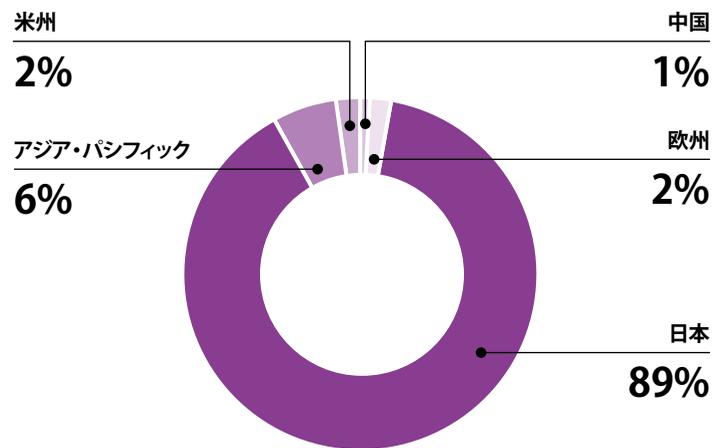
サプライチェーンおよびパートナー・エンゲージメントの続き

サプライチェーン概要データ (地域別)

地域毎の購入金額比率 (2023年)



地域毎の取引先数比率 (2023年)



CDP サプライチェーンプログラム

2023年4月13日、100名を超えるサプライヤ様にご参加いただき、オンラインによる「CDP サプライチェーンプログラム説明会」を実施しました。ルネサスのESGに対する取り組みを共有するとともに、CDPより、サプライチェーンプログラムの概要を説明いただきました。また、自己診断アンケートへの回答方法に関するガイダンスや、GHG排出量の削減施策に関する専門的な質疑応答を行いました。2023年のCDP調査に対するサプライヤからの回答は、40社から81社に倍増しました。



サプライチェーンおよびパートナー・エンゲージメントの続き

責任ある鉱物調達方針

ルネサスは、サプライチェーンにおける人権侵害や環境破壊等に加担しないために、紛争鉱物を含まない責任ある鉱物調達の実現に取り組んでいます。ここで言う紛争鉱物とは、OECD 指針の附属書 II に提示されるリスクにかかわる、コンゴ民主共和国およびその周辺諸国をはじめとする、OECD 紛争地域および高リスク地域からの鉱物を指します。



ルネサスでは、当社の製品に含まれる紛争鉱物 (3TG) を全て特定すること、第三者機関である RMI (Responsible Materials Initiative) が認定するコンフリクトフリーの精錬所にて精錬されていることの確認を目指しています。

3TG 調査結果

	2022年度	2023年度				
	合計	合計	スズ	タンタル	タングステン	金
特定精錬所数	230	210	61	32	31	86
認定精錬所数	230	210	61	32	31	86

Celeno製品を除く。

Japan
Electronics and Information Technology
Industries Association

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 「責任ある鉱物調達検討会」への 加盟

電子情報技術産業協会 (JEITA) の加盟会員として、ルネサスは2022年4月、同協会主催の「責任ある鉱物調達検討会」に加盟しました。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



ガバナンス (Governance)

ガバナンス体制	97
各取締役のスキルと多様性	99
コンプライアンス・企業倫理	100
リスクマネジメント	104
情報セキュリティのガバナンスとテスト	109
タックス・ポリシー	110



ガバナンス体制

実効性あるコーポレートガバナンスを実現し、ステークホルダーにとって持続可能で責任あるパートナーであり続けるために、公正、迅速かつ果敢な意思決定と確固たる説明責任を可能とする透明性の高いコーポレートガバナンス体制の維持に努めています。最終的な目標は、すべてのステークホルダーの利益のために、中長期的にルネサスの持続的な企業価値を高めていくことです。さらに、管理体制の改善や業務効率を高めるための各種施策を継続的に実施していきます。

2024年3月の第22回定時株主総会では、監督機能と執行機能の明確な分離の下、透明性と客観性を高め、より効率的かつ効果的な経営を確保するための新たなコーポレート・ガバナンス体制を決議しました。この体制により、急速に変化し激しい競争に晒される半導体業界において、グローバル企業としてさらなる進化を目指します。

また、会社法に基づく内部統制システムを構築し、役職員の法令および定款の遵守を徹底しています。



SDGs への貢献

ルネサスグループのガバナンスに向けた取り組みは、以下の持続可能な開発目標に貢献しています。



16.5
あらゆる形態の汚職や贈賄を大幅に減少させる。



16.7
あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型および代表的な意思決定を確保する。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)

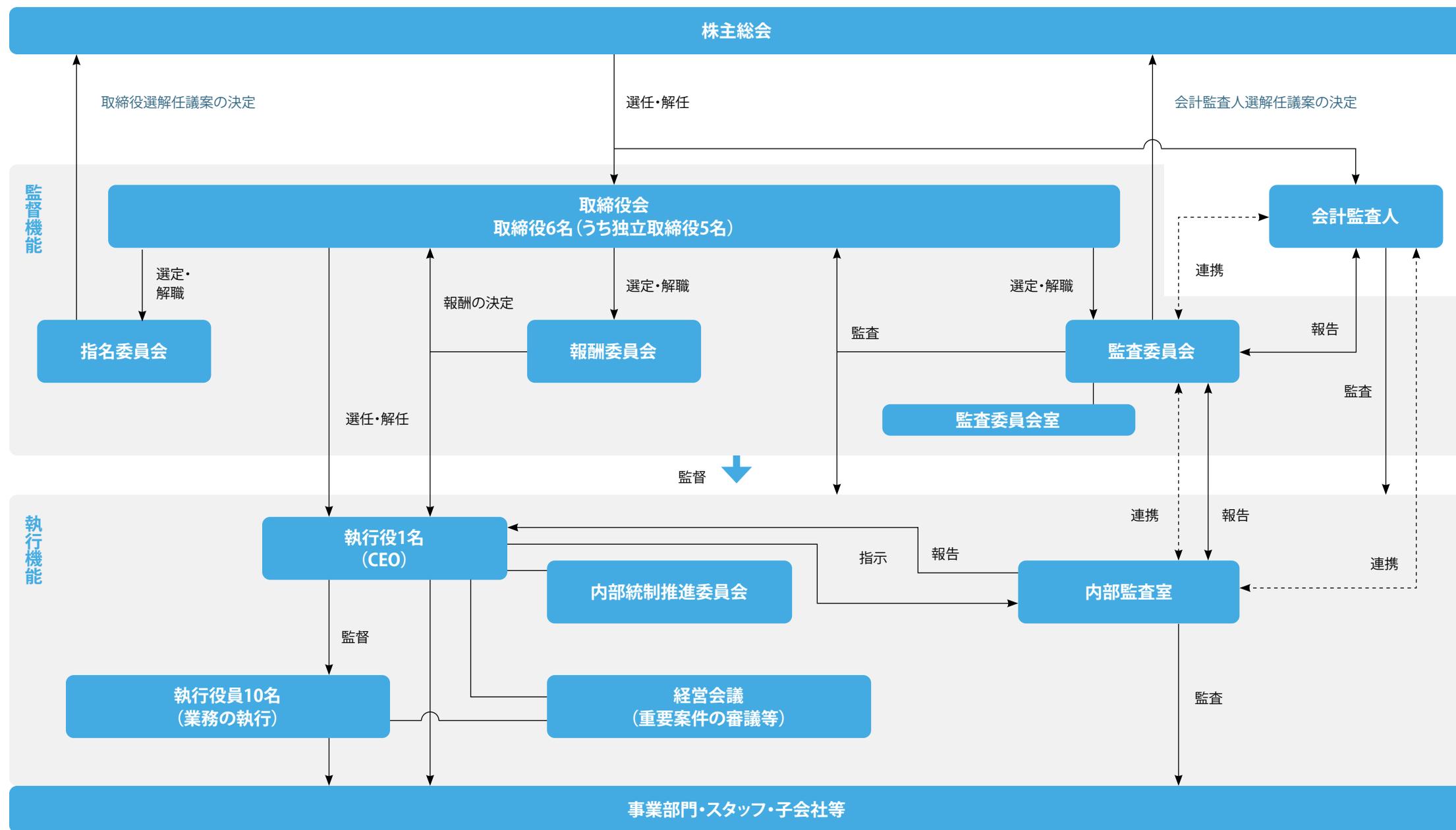


ガバナンス (Governance)



データ集

ガバナンス体制の続き



各取締役のスキルと多様性

当社の取締役会は、日本の会社法に基づき組織されています。2024年4月現在、取締役会は新任の女性取締役を含む6名で構成されており、それぞれ株主総会で選任されています。取締役6名中5名の社外取締役は、多様な見識と経験を活かしてルネサスの取締役会の実効性を高めています。取締役会の職責は、取締役会が承認したRenesas Board Charterに明記されています。



	柴田 英利	岩崎 二郎	Selena Loh Lacroix	山本 昇	平野 拓也	水野 朝子
経営戦略	✓	✓			✓	✓
リーダーシップ経験	✓	✓		✓	✓	✓
リスクマネジメント		✓		✓		✓
法務			✓			
ファイナンス	✓	✓		✓		
サステナビリティ			✓	✓		
国際ビジネス	✓	✓	✓	✓	✓	✓
半導体・テクノロジー・DX	✓		✓		✓	

女性取締役
33%

独立社外取締役
83%

コンプライアンス・企業倫理

ルネサスは界をリードする半導体企業の一つとして、コンプライアンスを最優先するカルチャーをすることで、投資家、顧客、取引先、社会地域をはじめ、ステークホルダーの皆様との信頼を築いています。当社の行動規範とコンプライアンス方針は、私たちがどのようにビジネスを行い、私たちの価値観を日々実践していくかの基礎となるものです。

当社の行動規範で支持されている原則の実践と、グループ全体で一貫したコンプライアンスのベストプラクティスを促進する取り組みの一環として、2023年に「贈収賄防止・腐敗防止規則」、「内部通報規則」、「コンプライアンス調査規則」などの新たな独立したグローバルポリシーを発表しました。



行動規範

ルネサスの行動規範は取締役会によって検討・承認されており、すべての事業活動において、当社の意思決定プロセスに影響を及ぼすべき基準と責任に対する約束を表明しています。従業員がお互いに対する、そして会社に対する倫理的および法的責任を理解できるよう、行動規範で取り上げられている問題に関する研修を従業員向けに行っています。

2023年行動規範研修修了率

2023年	91% (7% 上昇)
2022年	84%



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

コンプライアンス・企業倫理の続き



コンプライアンスの推進

CEOを委員長とする内部統制推進委員会が当社におけるコンプライアンスに関する事項の審議を行い、重要事項を経営会議および取締役会に報告しています。コンプライアンス違反が発生した場合、速やかに調査・是正を行い、当該分野を担当するコンプライアンス担当部門と法務統括部長に速やかに報告する仕組みとなっています。

当社では年間を通じて、Eメールによるグローバル・ニュースレターを従業員向けにリリースし、コンプライアンス関連ポリシーの強化に努めています。2023年度にリリースしたニュースレターには、次のようなものがあります。

- ・「贈収賄防止および腐敗防止」(2023年4月6日および2023年10月23日)
- ・「内部通報規則」(2023年9月27日)
- ・「不正・偽装の防止」(2023年7月31日)
- ・「利益相反」(2023年6月22日)
- ・「ハラスメント・差別の防止」(2023年3月3日)
- ・「従業員のためのプライバシーポリシー」(2023年1月26日)

また、日本国内の全従業員を対象に、毎月定期的にニュースレターを発行しています。このニュースレターでは、日本の法規制のみならず、地域特有のトピックも取り上げています。

2023年度コンプライアンス調査

98.8%

の従業員が、職場のコンプライアンス文化について肯定的な認識を示しました。

6.2%

の従業員が、職場に未報告のコンプライアンス問題がある、または潜在していると認識していました(回答者の93.8%は、職場のコンプライアンスについて懸念を持っていませんでした)。

コンプライアンス・企業倫理の続き



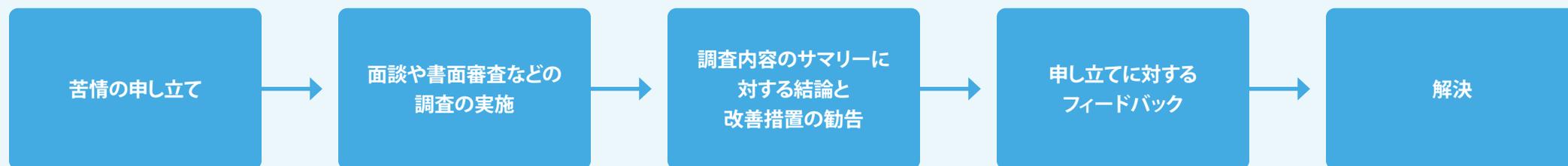
企業倫理と内部通報ホットライン

従業員、顧客、サプライヤ、一般の方々が職場の懸念について通報するためのホットラインサービスを設けています。苦情は匿名で通報することができ、オンラインまたは電話で申し立てを行うことができます。善意で懸念を報告した個人に対して報復を行わず、また報復を容認することはありません。2023年度は、ホットラインに49件の通報があり、調査・是正（必要な場合）、および懲戒処分（正当な場合）が行われました。これらの49件の通報のうち、27件がハラスメント、差別、または労働コンプライアンスの申し立てに関連していました。重大なコンプライアンス違反はありませんでした。引き続きホットラインの認知度向上に努めます。

2023年9月、社内全体に適用される世界共通ルールとして、独立した「内部通報規則」を制定しました。また、コンプライアンスに関する懸念を調査するためのグループ全体の枠組みとなる「グローバルコンプライアンス調査規則」を制定しました。

コンプライアンス上の懸念に対する調査は、当社の内部通報規則およびコンプライアンス調査規則に従い、報告を受けてから5～10営業日以内の開始を目標として、速やかに行われます。2つの規則は、問題を徹底的に調査し、効率的に解決するという当社の取り組みを要約したものです。

コンプライアンス問題の調査プロセス



コンプライアンス・企業倫理の続き



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



贈収賄防止と腐敗防止

ルネサスが事業を行っている各国の贈収賄防止法、および腐敗防止法を遵守します。2023年11月に、全従業員を対象とした腐敗防止に関する研修を実施しました。2023年に腐敗防止規則を遵守しなかったことによる懲戒処分や解雇はありませんでしたが、ルネサスは今後もこれらの規則を遵守し、世界中の役職員を対象とした腐敗防止および贈収賄防止研修をさらに拡大していきます。

2023年に導入された当社のグローバルな贈収賄防止・腐敗防止規則は、当社のグローバル行動規範で強調されている腐敗防止の原則を強化するものです。本規則にて「何が贈収賄や汚職にあたるのか」、「誰が政府関係者に該当するのか」を具体的に定義することで、従業員が規則を理解し、遵守しやすくなることを目指しています。ルネサスの取締役会は、贈収賄防止・腐敗防止規則およびグローバル行動規範に含まれる腐敗防止ポリシーを監督します。

賄賂の申し出、約束、支払いの禁止は、サプライヤ、代理店、請負業者、コンサルタント、販売代理店など、ルネサスに代わってサービスを提供したり行動したりする第三者(新しいビジネスパートナーやサプライヤを含みますが、これらに限定されません)にも適用されます。この原則は、ルネサスが世界のどこで取引をする場合であっても適用されます。賄賂が「ビジネス慣行」として広く認識されている場合も変わりません。

当社の贈収賄防止・腐敗防止規則は、[こちら](#)から閲覧できます。



情報セキュリティポリシー

ルネサスにはプライバシー保護の基盤がありますが、GDPRなどの規制に準拠するため、今後はさらにポリシーや手順を強化する予定です。今後ますます多くの国や地域で導入されると見込まれているため、ルネサスでは、当社およびその子会社の全従業員を対象とした、情報セキュリティ研修を実施しています。詳細については、次のセクション([リスクマネジメント](#))をご参照ください。

SDGsへの貢献

ルネサスグループのガバナンスに向けた取り組みは、以下の持続可能な開発目標に貢献しています。



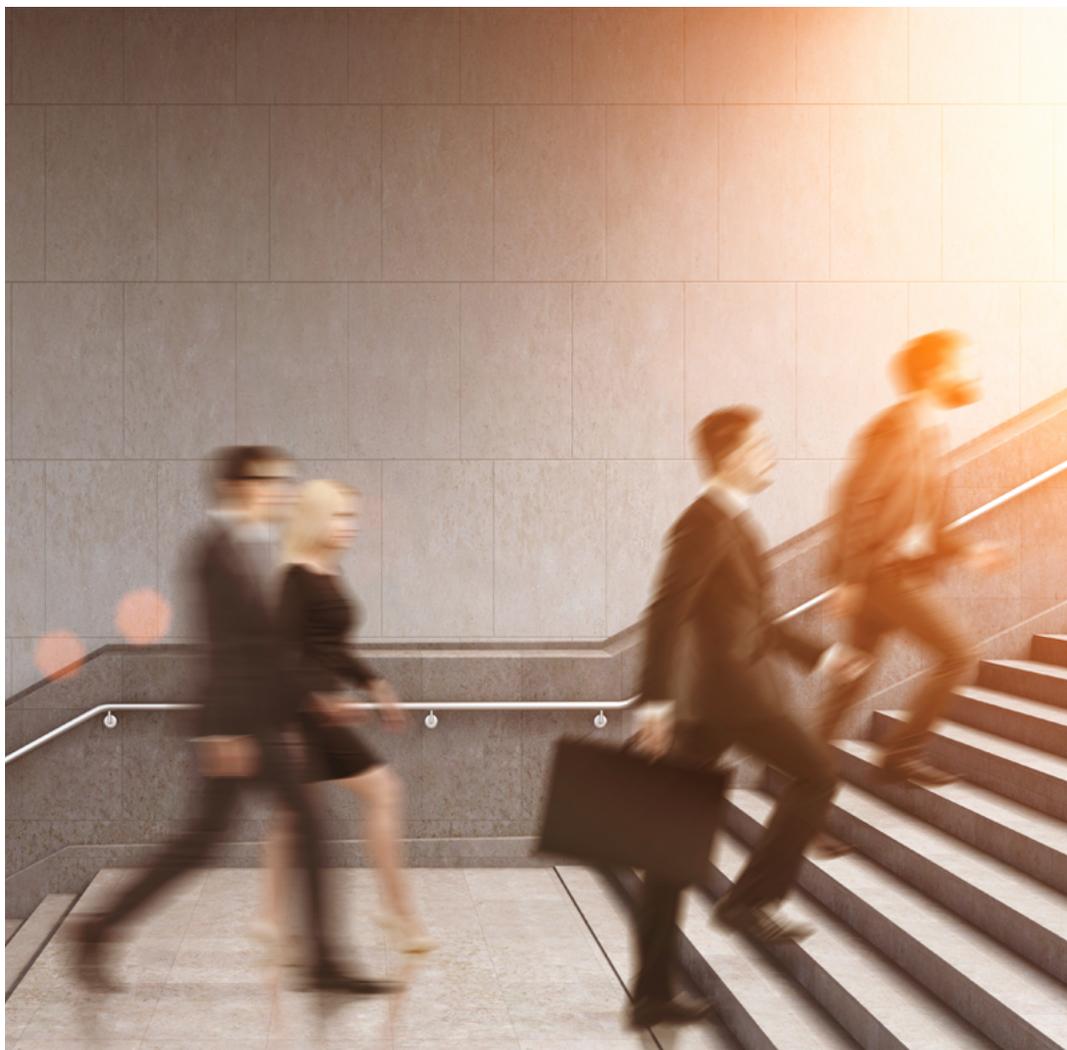
16.5
あらゆる形態の汚職や贈賄を大幅に減少させる。



16.7
あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型および代表的な意思決定を確保する。

リスクマネジメント

事業を継続し社会に貢献していくため、グループ全体のリスクの早期把握・分析と、リスクの解決に向けた早期対処を、経営の重要課題と位置付け、リスクマネジメントの強化に取り組んでいます。



リスクマネジメント体制

ルネサスでは、「ルネサス エレクトロニクスグループ リスクおよび危機管理規則」に基づき、グループ全体でリスクマネジメント体制を構築しています。リスクマネジメント体制を敷くことで、ビジネス上の潜在的リスクを、その種類や特性に応じて危機管理担当部門を決め、日常的にリスク管理を行っています。

また、リスクマップにあるリスクをあらかじめ特定して一元化すると同時に、リスク防止を目的とした危機対策と対応方針を策定しています。さらに、緊急事態においては、CEOを本部長とした緊急対策本部を設置し、情報を一元化、対策を検討し、損失の極小化のための対応に当たります。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

リスクマネジメントの続き

リスク管理マネージャー	リスク管理責任者	リスク管理部門		リスク
CEO	CEO	CEO直轄		政治
		コーポレートコミュニケーション室		広報
		サステナビリティ推進室		持続可能な開発目標
		環境推進部		自然災害
		法務		従業員の不正行為
	Executive Vice President	オペレーション	生産	報告制度
				法令違反
				知的財産
				情報漏洩
				法令違反
				環境
				調達
				技術革新
Executive Vice President	オペレーション	生産	感染症	
			事故	
			自然災害	
			政治	
CEO	Executive Vice President	オペレーション	サイバーセキュリティ	



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

リスクマネジメントの続き

リスク管理マネージャー	リスク管理責任者	リスク管理部門		リスク
CEO	Executive Vice President	オペレーション	サプライチェーンマネジメント	資産運用管理
				従業員の不正行為
				自然災害
				政治
		調達	人権	
			法令違反	
			調達	
			感染症	
	CFO	コーポレートストラテジー	ファイナンシャル プランニング & アナリシス	自然災害
				政治
				M&A
		ファイナンシャル プランニング & アナリシス	資産運用管理	
			売上高	
			資本支出	
アカウンティング & タックス	税務			
	信用			
	従業員の不正行為			
トレード & コンプライアンス	法令違反			
	資金調達			
			資産運用管理	

目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

リスクマネジメントの続き

リスク管理マネージャー	リスク管理責任者	リスク管理部門	リスク
CEO	CHRO	人事・総務	人権
			労務方針
			持続可能な開発目標
			人事戦略
			感染症
	Senior Vice President	品質保証	品質
			エンジニアリング
	各製品グループ担当 Senior Vice President	アナログ&コネクティビティ エンベデッドプロセッシング ハイパフォーマンスコンピューティング パワー	システム
			調達
			法令違反
			技術革新
	Senior Vice President	セールス & マーケティング	事業拡大
			情報漏洩
従業員の不正行為			
Vice President	インフォメーションシステム	販売	
		自然災害	
		システム	
			自然災害
			サイバーセキュリティ



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

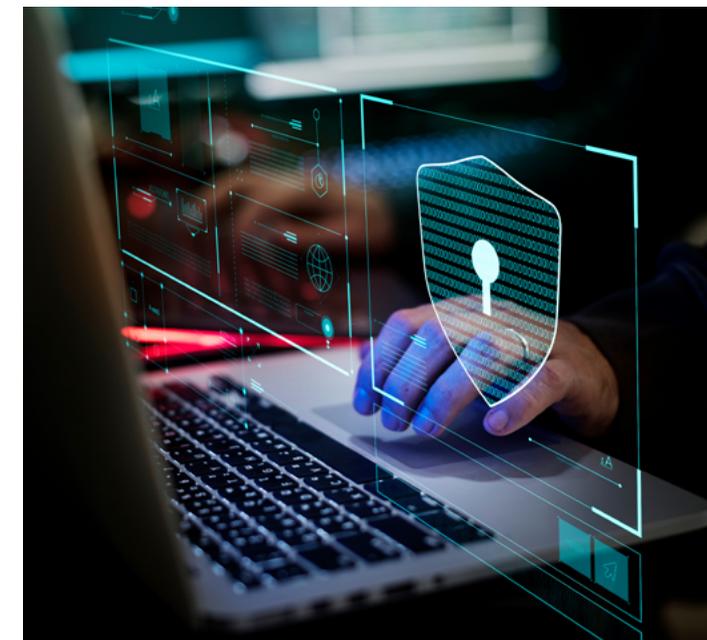
リスクマネジメントの続き

サイバーセキュリティ・ データプライバシー

グローバル企業としてサイバーセキュリティを深刻に受け止め、脆弱性を特定し、潜在的な脅威に即座に対応するよう努めています。事業の継続性を確保するために、潜在的な脅威の監視と報告、従業員向けの研修、最新のサイバーセキュリティ対策基準および認証の維持など、コーポレートガバナンス・ポリシーとプロセスを通じてサイバー攻撃の防止に常に取り組んでいます。さらに、販売、マーケティング、設計、エンジニアリング、生産拠点を含む全世界の拠点で働くすべての従業員は、サイバーセキュリティとデータプライバシーに関するガイドラインを遵守する必要があります。

2023年度の成果物の例:

- システムのセキュリティ機能と可視性を高めることで、当社の事業に対する何十万もの潜在的な攻撃を検知し、防ぐことに成功しました。
- 現在、24時間365日体制のセキュリティオペレーションセンターを通じて、毎日10億件を超えるセキュリティデータを処理しています。
- お客様やパートナーと積極的に協力し、サイバーセキュリティ戦略が当社の脅威や問題のみならず、お客様特有のセキュリティニーズや懸念事項も踏まえたものになるようにしています。また、サイバーセキュリティへの投資を適切に行うため、サードパーティとも協働しています。



情報セキュリティのガバナンスとテスト



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

ルネサスは、ネットワーク、データ、またはコンピュータへの不正アクセスの試みを監視、評価、報告し、それらに対応するための組織体制を整備しています。

- 訓練を受けたITセキュリティ専門家を擁する当社のチームは、IT担当 Vice Presidentの監督の下、潜在的な脅威とリスクを24時間365日体制で監視し、あらゆるセキュリティ問題の検知・対応にあたるための戦略的対策を講じています。
- インシデントが検知された場合、ITチームが直ちにセキュリティ評議会 (CEO、CFO、法務顧問、人事部門とIT部門の部門長) に報告し、緊急時対応計画を策定します。さらに、ITチームは、必要に応じて、人事、法務、品質保証、調達、会計の各チームと連携します。
- ルネサスではセキュリティ体制を見直し、第三者機関を通じてベンチマークし、適切な投資目標を確実に達成できるようにします。
- ITチームは四半期ごとにセキュリティ評議会、経営陣、取締役会に報告を行い、サイバーセキュリティのリスクと取り組みに関する最新情報を提供しています。
- また、定期的にインシデント対応訓練を実施し、手続きが正確、かつタイムリーに行われているかを確認しています。2023年5月に、年次外部インフラストラクチャおよびWebアプリケーション侵入テストを実施しました。

研修

ルネサスでは、世界中のすべての従業員と取引先を対象として、少なくとも年に1回、サイバーセキュリティとフィッシングに関する必須の研修を行っています。研修の一環として、IT部門は定期的に模擬フィッシング・メールを送り、従業員のサイバーセキュリティ・プロトコルに対する理解度をチェックしています。追加の研修、動画、その他リソースも、ITイントラネット上でオンデマンドで利用できます。

2023年は、従業員向けサイバーセキュリティ研修を定期的実施し、同研修の年次サイクルを完了しました。これは今後も継続するプロセスの一部であり、フィッシングに焦点を当てるだけでなく、グローバルな組織として直面する重大な脅威について、従業員が最新状況を確実に把握できるようにしています。新入社員は全員、詳細なセキュリティおよびコンプライアンス研修を受講し、年一回、再研修を受けることになっています。昨年は、80%以上の従業員が予定通り研修を修了しました。

今後も、マルウェア、フィッシング、なりすましなど、ユーザーが直面する脅威への対応に注力していきます。ルネサスは、引き続きコンプライアンス、法務、および人事の各部門と足並みを揃えて連携し、定期的、効果的かつタイムリーな最新情報や研修を確実に提供しながら、直面する現代の脅威に対応していきます。

当社は、盤石な情報セキュリティによって事業運営が可能となり、信頼できるサプライヤ、顧客、パートナーとなることでビジネスにプラスの成長をもたらすと確信しています。

認証

ルネサスは、セキュリティ侵害から身を守る取り組みと能力を示すために、世界的なセキュリティ基準に準拠するよう努めています。私たちの計画は、より包括的な認証 (ISO/SOC) を取得できるようにセキュリティ体制を継続的に改善し、現在および将来の買収が当社のグローバルスタンダードに従って行われることを積極的に保証し、結果としてすべてのユーザーが均質なエクスペリエンスを得られるようにすることです。

直近の取り組みと優先課題には以下があります。

- IATF16949やISO9001と連携する自動車セキュリティ規格「TISAX」認証を2023年に取得。
- 継続的な改善を実施するための基盤としてCIS20フレームワークを活用し、包括的な外部評価によって脆弱性を特定する。
- 2024年までにSOC2認証の取得を目標とする。

データプライバシー

ルネサスでは、従業員、顧客、パートナー、その他のステークホルダーのプライバシーおよびセキュリティの確実な保護に努めており、その目的で当社が講じる手段を情報セキュリティポリシーに記載しています。当社は、GDPR、APPI、CCPA、BDSG などのデータプライバシーに関連するすべての法令、国内ガイドライン、規制を厳格に遵守しています。

タックス・ポリシー

ルネサス エレクトロニクスグループは、行動規範に基づき、税務の透明性確保に努めるとともに、各国の法令および規則を遵守します。当社のタックス・ポリシーは、取締役会において承認され、当社の事業を長期にわたって持続可能なものとするための基本理念としての役割を果たしています。

タックス・ポリシーを通じ、以下を補償します。

透明性

社内の各部門、株主およびその他関係者が、当社の税務ポジション、リスク、戦略を共有できるよう、透明性の確保に努めます。また、常に適切な分析やエビデンスに基づき、適切な意思決定をすることに努めます。

税法順守

各国の法令の遵守に努めます。常に税制改正を把握し、当社の施策が法令に照らして不明瞭な場合は、利害関係者への確認に努めます。さらに、従業員教育により、従業員の税務知識の向上に努めます。

適正な税負担

株主価値の最大化を実現するため、事業目的および法令の範囲内で税控除および優遇税制を適用することで、適切な税負担実現に努めます。明瞭な事業目的および事業実態は当社にとって重要事項です。したがって、税負担軽減のみを目的とした取引や、タックス・ヘイブンを利用した租税回避および利益移転を目的としたスキームは採用しません。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

タックス・ポリシーの続き

二重課税の回避

同一の経済的利益に対する二重課税を回避するため、租税条約による軽減税や各国税務当局間の相互協議の積極的な利用に努めます。

移転価格

ルネサスおよび海外子会社間のグループ内取引に関して、OECDの移転価格ガイドラインが規定する独立企業間原則に基づき、適正な利益配分の実現に努めます。さらに、税務当局との事前確認制度を利用し、移転価格税制に係る租税リスクの最小化に努めます。

不確実な税務ポジション

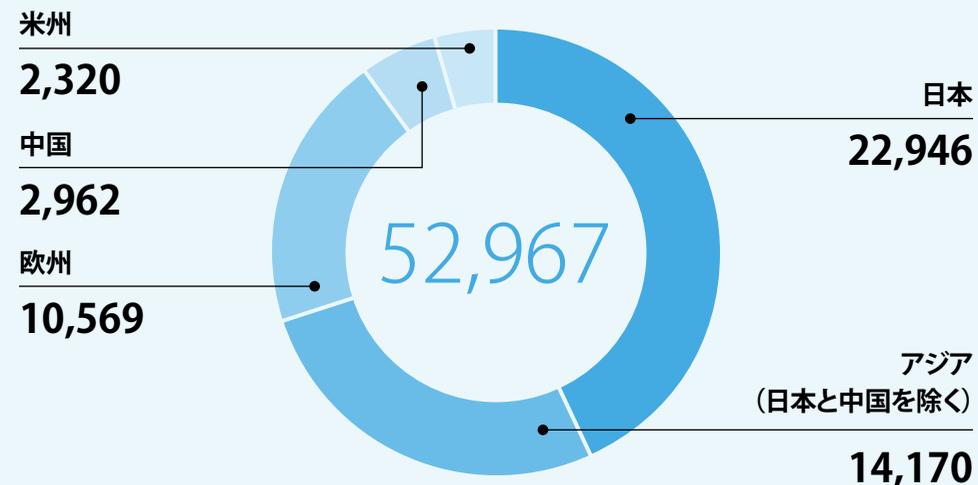
税法の表面的な解釈だけでなく、その趣旨に沿った適用に努めます。これは、税法の公式および非公式の最新情報を常に理解しておくことを意味します。税務ポジションの精査とサポートの準備、また税務ポジションが不確実な場合は情報開示に努めます。

税務当局との関係

税務当局に対して適切な情報提供を行い真摯な対応に努め、税務当局との信頼関係を維持してまいります。税務当局との間に見解の相違が発生した場合には、税務当局と建設的なコミュニケーションを行い、問題解決に努めます。

2022年度 地域別支払法人税額

(百万円)





目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集



データ集

気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 対照表	113
サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) 対照表	115
グローバル・レポーティング・イニシアチブ (GRI) 対照表	118
環境データ	123
第三者検証: 環境データ	130
第三者検証: 人材データ	131
本報告書について	132
将来の見通しに関する記述	133



気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 対照表

TCFD 推奨開示項目	掲載箇所
ガバナンス	
気候関連のリスクおよび機会についての、取締役会による監視体制	ガバナンス
気候関連のリスクおよび機会を評価・管理する上での経営者の役割	リスクマネジメント TCFD 提言への対応／ガバナンス
戦略	
組織が識別した、短期・中期・長期の気候関連のリスクおよび機会	TCFD 提言への対応／戦略 気候変動への取り組み
気候関連のリスクおよび機会が組織のビジネス・戦略・財務計画に及ぼす影響	イノベーション
2°C以下シナリオを含む、さまざまな気候関連シナリオに基づく検討を踏まえた、組織の戦略のレジリエンス	
リスクマネジメント	
組織が気候関連リスクを識別・評価するプロセス	TCFD 提言への対応／リスク管理 リスクマネジメント
組織が気候関連リスクを管理するプロセス	環境に対する取り組み
組織が気候関連リスクを識別・評価・管理するプロセスが組織の総合的リスク管理にどのように統合されているか	



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 対照表の続き

指標と目標	
組織が、自らの戦略とリスク管理プロセスに即して、気候関連のリスクおよび機会を評価する際に用いる指標	TCFD 提言への対応／指標と目標 環境保全の目標
スコープ1、スコープ2および当てはまる場合はスコープ3の温室効果ガス (GHG) 排出量と、その関連リスク	環境データ・第三者検証 気候変動への取り組み
組織が気候関連リスクおよび機会を管理するために用いる目標、および目標に対する実績	TCFD 提言への対応／指標と目標 環境保全の目標 環境に対する取り組み



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) 対照表

半導体スタンダード

トピック	コード	指標	対応
温室効果ガスの排出	TC-SC110a.1	(1) グローバルでのスコープ1総排出量 (2) ペルフルオロ化合物からの総排出量	(1) 156,403 t-CO ₂ (2) 120,537 t-CO ₂
	TC-SC-110a.2	スコープ1排出を管理するための長期的および短期的な戦略または計画、排出削減の目標並びにそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての説明	カーボンニュートラル実現に向けてご参照ください。
製造におけるエネルギー管理	TC-SC-130a.1	(1) エネルギー総消費量 (2) 電力系統からの電力の割合 (3) 再生可能エネルギーの割合	(1) 1,735,649 MWh (2) 85% (3) 4%
水管理	TC-SC-140a.1	(1) 総取水量 (2) 総消費水量、およびそれらのベースライン水ストレスが「高い」または「極めて高い」地域の割合	(1) 15,742 km ³ (2) 総消費水量: 23,751 km ³ 。ルネサスの総消費水量のうち約2%を、水ストレスの高い地域にある中国の2拠点が消費しました。 水資源を守るをご参照ください。
廃棄物に対する取り組み	TC-SC-150a.1	(1) 製造時に排出される廃棄物の総量 (2) リサイクル率	(1) 17,246 t (2) 90% 廃棄物に対する取り組みをご参照ください。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) 対照表の続き

トピック	コード	指標	対応
従業員の健康と安全	TC-SC-320a.1	健康リスクに対する従業員の曝露を評価・監視し、削減する取り組みについての説明	従業員の健康と安全 をご参照ください。
	TC-SC-320a.2	従業員の健康・安全への侵害に関連する法的手続きによって生じた金銭的損失の総額	2023年、ルネサスでは、従業員の健康・安全への侵害に関連する法的手続きによって生じた金銭的損失はありませんでした。
グローバルで多様性に富み、高いスキルを持つ人材の採用・管理	TC-SC-330a.1	(1) 外国人、および (2) 海外勤務の従業員の割合	地域別従業員数 (2023年12月31日時点) : 日本: 9,265名 (44%) 米州: 2,218名 (10%) 中国: 2,192名 (10%) ヨーロッパ、中東およびアフリカ: 2,535名 (12%) その他アジア: 4,994名 (名) 合計: 21,204名 外国人比率は開示していません。
製品ライフサイクル管理	TC-SC-410a.1	IEC 62474申告対象物質を含む製品の収益割合	ルネサスはこれに関する情報を開示していません。製品の有害物質に関する当社の取り組みについては、 化学物質への対応 をご覧ください。
	TC-SC-410a.2	(1) サーバー、(2) デスクトップパソコン、および (3) ノートパソコンのシステムレベルでのプロセッサのエネルギー効率	ルネサスはこれらの情報を捕捉していません。これはルネサスの事業には適用されません。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) 対照表の続き

トピック	コード	指標	対応
マテリアル調達	TC-SC-440a.1	クリティカルマテリアルの使用に関連するリスクの管理に関する説明	サプライチェーンおよびパートナーとの対話の続き
反競争的行為の規制に関連する法的手続き	TC-SC-520a.1	反競争的行為の規制に関連する法的手続きによる金銭的損失の総額	2023年、ルネサスでは、反競争的行為の規制に関連する法的手続きによる金銭的損失はありませんでした。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

グローバル・レポートニング・イニシアチブ (GRI) 対照表

目次

ルネサスについて

2023年度ハイライト

サステナビリティへの取り組み

環境 (Environment)

社会 (Social)

ガバナンス (Governance)

データ集

GRIスタンダード	開示項目	掲載箇所	
GRI 2: 一般開示事項 2021	2-1	組織の詳細	ルネサスウェブサイト: ルネサスについて
	2-2	組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	本報告書について
	2-3	報告期間、報告頻度、連絡先	本報告書について
	2-4	情報の修正・訂正記述	本報告書について
	2-5	外部保証	本報告書について
	2-6	活動、バリューチェーン、その他の取引関係	ルネサスについて
	2-7	従業員	概要、 ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン、 人材データ・第三者検証
	2-9	ガバナンス構造と構成	当社のガバナンス体制、 各取締役のスキルと多様性
	2-10	最高ガバナンス機関における指名と選出	当社のガバナンス体制、 各取締役のスキルと多様性
	2-11	最高ガバナンス機関の議長	取締役 代表執行役社長 兼 CEO 柴田 英利
2-12	インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	当社のガバナンス体制、 各取締役のスキルと多様性	
2-13	インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	CFOインタビュー、 環境活動・リーダーの視点、 社会貢献活動・リーダーの視点、 ガバナンス	

グローバル・レポート・イニシアチブ (GRI) 対照表の続き

GRIスタンダード	開示項目	掲載箇所	
	2-14	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	
	2-15	利益相反	
	2-16	重大な懸念事項の伝達	
	2-17	最高ガバナンス機関の集合的知見	
	2-18	最高ガバナンス機関のパフォーマンスの評価	コーポレートガバナンス報告書
	2-19	報酬方針	役員報酬
	2-20	報酬の決定プロセス	
	2-22	持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	CEOメッセージ
	2-23	方針声明	人権保護に対する取り組み、 人権
	2-24	方針声明の実践	当社のガバナンス体制、 ガバナンス
	2-25	マイナスのインパクトの是正プロセス	コンプライアンスホットライン／匿名内部通報制度
	2-26	助言を求める制度および懸念を提起する制度	
	2-27	法規制遵守	コンプライアンス・企業倫理
	2-28	会員資格を持つ団体	イニシアチブへの参画
	2-29	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	ステークホルダーマネジメント
	2-30	労働協約	2023年は、従業員の52%が労働協約の対象となりました。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

グローバル・レポート・イニシアチブ (GRI) 対照表の続き

GRIスタンダード		開示項目	掲載箇所
GRI 3: マテリアルな項目 2021	3-1	マテリアルな項目の決定プロセス	マテリアリティの評価と結果
	3-2	マテリアルな項目のリスト	
	3-3	マテリアルな項目のマネジメント	
GRI 201: 経済パフォーマンス 2016	201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	TCFD 提言への対応
GRI205: 腐敗防止 2016	205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	コンプライアンス・企業倫理
	205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	コンプライアンス・企業倫理
	205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	2023年に、ルネサスで腐敗事例は確認されませんでした。
GRI206: 反競争的行為 2016	206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	ルネサスは、反競争的行為、独占禁止法、および独占的慣行を理由とする法的措置の対象になりませんでした。
GRI207: 税金 2019	207-1	税務へのアプローチ	タックス・ポリシー
GRI302: エネルギー 2016	302-1	組織内のエネルギー消費量	環境データ
GRI303: 水と廃水 2018	303-1	共有資源としての水との相互作用	水資源を守る
	303-2	排水に関連するインパクトのマネジメント	
	303-3	取水	環境データ
	303-4	排水	
	303-5	水消費	



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

グローバル・レポート・イニシアチブ (GRI) 対照表の続き

GRIスタンダード		開示項目	掲載箇所
GRI305:大気への排出 2016	305-1	直接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ1)	<u>環境データ</u>
	305-2	間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ2)	
	305-3	その他の間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ3)	
	305-5	温室効果ガス (GHG) 排出量の削減	<u>2023年度 ESG ハイライト</u>
GRI306:廃棄物 2020	306-1	廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	<u>廃棄物に対する取り組み</u>
	306-2	廃棄物関連の著しいインパクトの管理	
	306-3	発生した廃棄物	<u>環境データ</u>
	306-5	処分された廃棄物	<u>環境データ</u>
GRI401:雇用 2016	401-1	従業員の新規雇用と離職	<u>人材データ・第三者検証</u>
GRI403:労働安全衛生 2018	403-1	労働安全衛生マネジメントシステム	<u>従業員の健康と安全、安全衛生</u>
	403-6	労働者の健康増進	<u>従業員の健康と安全、安全衛生</u>
	403-9	労働関連の傷害	<u>人材データ・第三者検証、安全衛生</u>
GRI404:研修と教育 2016	404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	<u>人材育成</u>



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

グローバル・レポート・イニシアチブ (GRI) 対照表の続き

GRIスタンダード		開示項目	掲載箇所
GRI405: ダイバーシティと機会均等 2016	405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	<u>各取締役のスキルと多様性、人材データ・第三者検証</u>
	405-2	基本給と報酬総額の男女比	<u>ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン、人材データ・第三者検証</u>
GRI406:非差別 2016	406-1	差別事例と実施した救済措置	<u>人権保護に対する取り組み、人権</u>
GRI407: 結社の自由と団体交渉 2016	407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性がある事業所およびサプライヤ	<u>人権保護に対する取り組み、人権</u>
GRI408:児童労働 2016	408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤ	<u>人権保護に対する取り組み、人権</u>
GRI409:強制労働 2016	409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤ	<u>人権保護に対する取り組み、人権</u>
GRI413: 地域コミュニティ 2016	413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	<u>地域社会との交流と社会貢献活動</u>
	414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	<u>サプライチェーンおよびパートナーとの対話</u>
GRI415:公共政策 2016	415-1	政治献金	ルネサスはいかなる政治献金も行っておりません。



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

環境データ

温室効果ガス排出 (2023年度データ)

2023年度	区分	範囲・算定方法	排出量 (t-CO ₂)	比率
スコープ1	温室効果ガスの直接排出	ルネサスによる温室効果ガスの排出量	156,403	6.26%
	内 PFC ガスの排出		120,537	—
スコープ2	電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出	他社から供給された電気・ガス等の使用に伴う間接排出量	647,660	25.92%
スコープ3	[C1] 購入した製品・サービス	原材料の調達、生産外部委託に伴う排出	1,428,994	57.20%
	[C2] 資本財	生産設備の増設に伴う排出	138,738	5.55%
	[C3] スコープ1、2に含まれない燃料およびエネルギー活動	調達している電力、燃料の上流工程における排出	105,895	4.24%
	[C4] 輸送、配送 (上流)	国内製品物流に伴う排出	404	0.02%
	[C5] 事業から出る廃棄物	廃棄物の自社以外での輸送、処理に伴う排出	5,205	0.21%
	[C6] 出張	従業員の出張に伴う排出	11,899	0.48%
	[C7] 雇用者の通勤	国内従業員の通勤に伴う排出	3,123	0.12%
[C8] リース資産 (上流)	該当なし (Category1に含む)	0	0.00%	
[C9] 輸送、配送 (下流)	対象外	—	—	

出典: [環境データ・第三者検証](#)



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

環境データの続き

2023年度	区分	範囲・算定方法	排出量 (t-CO ₂)	比率
スコープ3	[C10] 販売した製品の加工	対象外	—	—
	[C11] 販売した製品の使用	対象外	—	—
	[C12] 販売した製品の廃棄	対象外	—	—
	[C13] リース資産(下流)	対象外	0	0.00%
	[C14] フランチャイズ	対象外	0	0.00%
	[C15] 投資	対象外	0	0.00%
合計			2,498,320	100%

出典:環境データ・第三者検証



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

環境データの続き

エネルギー消費 (2023年度データ)

項目1	項目2	単位	日本国内実績	日本以外の実績	国内外を合わせた実績
総消費量		MWh	1,460,039	275,611	1,735,649
	電気	MWh	1,225,663	255,942	1,481,605
	(内)再生可能エネルギー	MWh	68,544	3,818	72,362
	蒸気	MWh	62,530	18,004	80,534
	ガス	MWh	133,329	1,654	134,982
	燃料	MWh	38,517	11	38,528
	生産拠点消費量	MWh	1,459,367	275,611	1,734,978
	電気	MWh	1,224,997	255,942	1,480,940
	(内)再生可能エネルギー	MWh	67,957	3,818	71,775
	蒸気	MWh	62,530	18,004	80,534
	ガス	MWh	133,322	1,654	134,976
	その他燃料	MWh	38,517	11	38,528

出典:環境データ・第三者検証



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

環境データの続き

項目1	項目2	単位	日本国内実績	日本以外の実績	国内外を合わせた実績
	オフィス消費量	MWh	672	—	672
	電気	MWh	665	—	665
	(内)再生可能エネルギー	MWh	587	—	587
	蒸気	MWh	0	—	0
	ガス	MWh	0	—	0
	その他燃料	MWh	0	—	0
売上高エネルギー消費原単位	連結売上高	億円	—	—	14,697
	売上高原単位	MWh/億円	—	—	118

出典:環境データ・第三者検証

環境データの続き

水資源 (2023年度データ)

項目1	項目2	単位	日本国内実績	日本以外の実績	国内外を合わせた実績
総使用量 (総取水量+リサイクル水)		Km ³	21,630	1,941	23,571
総取水量		Km ³	13,862	1,880	15,742
	地表水 (河川、湖、池)	Km ³	8,678	385	9,063
	地下水 (井戸、掘削孔)	Km ³	4,644	0	4,644
	水道水 (都市用水)	Km ³	540	1,495	2,035
	海水	Km ³	0	0	0
	他 (雨水、採石場、外部排水)	Km ³	0	0	0
リサイクル水		Km ³	7,769	60	7,829
リサイクル率		%	36	3	33

出典:環境データ・第三者検証



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

環境データの続き

項目1	項目2	単位	日本国内実績	日本以外の実績	国内外を合わせた実績
総排出量		Km ³	10,786	1,213	11,999
* 地表への排水は ありません	公共水域(海洋)	Km ³	10,191	365	10,556
	下水(オフサイトでの水処理)	Km ³	595	494	1,088
	他(地下、井戸)	Km ³	0	354	354
水総使用売上高原単位	連結売上高	億円	—	—	14,697
	売上高原単位	千 m ³ /億円	—	—	1.6

出典:環境データ・第三者検証

環境データの続き

化学物質 (2023年度データ)

項目1	項目2	単位	日本国内実績	日本以外の実績	国内外を合わせた実績
化学物質 (PRTR 法対象)	取扱量	t	1,112	17	1,129
VOC	排出量 (大気)	t	311	—	311

廃棄物 (2023年度データ)

項目1	項目2	単位	日本国内実績	日本以外の実績	国内外を合わせた実績
総廃棄量		t	13,369	3,877	17,246
	有害廃棄量	t	1,307	1,296	2,603
	リサイクル	t	1,307	642	1,949
	埋立	t	0	543	543
	その他 (中間処理等)	t	0	111	111
	非有害廃棄量	t	12,062	2,581	14,643
	リサイクル	t	10,957	1,414	12,371
	埋立	t	19	1,167	1,186
	その他 (中間処理等)	t	1,086	0	1,086

出典:環境データ・第三者検証



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

第三者検証:環境データ



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

2023年度 JQA 環境情報検証報告書

発行日: 2024年4月8日
 第 1811004786号

環境情報検証報告書

ルネサス エレクトロニクス株式会社 御中

1. 検証の対象

一般財団法人日本品質保証機構(以下、「当機構」という。)、ルネサス エレクトロニクス株式会社が作成した「2023年度 Scope1, 2 排出量算定報告書」、「2023年度エネルギー消費量算定報告書」、「2023年度 Scope3 排出量算定報告書」及び「2023年度水資源算定報告書」(以下、「算定報告書」という。))が、同社により作成された「年次環境データ管理マニュアル(2022年10月11日環境(GM)-0039-09)」、「温室効果ガス Scope1(PFCガス除く) 2 排出量、エネルギー消費量 算定マニュアル(2023年11月15日環境(GM)-0039-09)」、「Scope1 PFC 排出量 算定マニュアル(2023年11月8日環境(GM)-0037-04)」、「サプライチェーン排出量 Scope3 排出量算定マニュアル(2023年11月6日環境(GM)-0035-10)」及び「水資源使用量等調査・集計マニュアル(2022年2月9日環境(GM) 0038-03)」(以下、「算定ルール」という。))に準拠し、正確に測定、算出されていることについて第三者検証を行った。2023年度とは2023年1月1日から2023年12月31日までの期間をいう。検証の目的は、算定報告書を客観的に評価し、同社の2023年度の温室効果ガス(以下、「GHG」という。))排出量、エネルギー消費量及び水総使用量の算定の信頼性をより高めることにある。

2. 実施した検証の概要

当機構は、GHG 排出量については「ISO14084-3」、エネルギー消費量及び水総使用量については「ISAE3000」に準拠して検証を実施した。本検証業務の対象活動範囲は、Scope1, 2 排出量(エネルギー起源CO₂排出量及びPFCガス排出量)、Scope3 排出量(カテゴリー1, 2, 3, 4, 5, 6, 7)、エネルギー消費量、水総使用量であり、保証水準は「限定的保証水準」、重要性の量的判断基準はそれぞれの総量の5%とした。尚、ここでいうPFCガスとはHFC(CHF₂)、PFC(CF₄、C₂F₆、C₃F₈、C₄F₁₀)、SF₆、NF₃を総称している。

また、本検証業務の対象組織範囲は、Scope1, 2 排出量、エネルギー消費量及び水総使用量に関してはルネサス エレクトロニクス株式会社本社及びグループ会社19拠点(国内11拠点及び海外8拠点)とし、Scope3 排出量に関しては、別紙に記載する拠点とした。

Scope3 排出量以外の検証手続きにおいては、ルネサス エレクトロニクス株式会社及びグループ会社の武蔵事業所、那珂工場及び米沢工場の3拠点を現地検証の対象とし、各拠点における算定対象範囲の確認、エネルギー消費量監視点・PFCガス排出量監視点・水使用量監視点の確認、算定・集計体制の確認、活動量データについて根拠資料との突き合わせを行った。なお、現地検証の対象とした拠点及び拠点数の決定はルネサス エレクトロニクス株式会社が実施した。算定ルールの確認及びScope3 排出量に関する検証手続きは、ルネサス エレクトロニクス株式会社本社において実施し、算定シナリオ及びアロケーションの確認、算定集計体制の確認及び排出量データについて根拠資料との突き合わせを行った。

3. 検証の結論

検証の対象とした、算定報告書の2023年度のGHG排出量、エネルギー消費量及び水総使用量において、算定ルールに準拠せず、正確に算定されていない事項は発見されなかった。

4. 留意事項

算定報告書の作成責任はルネサス エレクトロニクス株式会社にあり、GHG 排出量、エネルギー消費量及び水総使用量の検証の結論に関する責任は当機構にある。ルネサス エレクトロニクス株式会社と当機構との間には、特定の利害関係はない。

東京都千代田区神田須田町一丁目25番地

一般財団法人日本品質保証機構

理事 浅田 純 男

本証と別紙を合わせてご覧ください。
1 / 2

別紙

温室効果ガス排出量(Scope3)のカテゴリ別の算定対象範囲

区分	算定対象範囲
Category 1 購入した製品・サービス	ルネサスグループ全拠点
Category 2 資本財	ルネサスグループ全拠点
Category 3 Scope1, 2 に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	温室効果ガス排出量(Scope1, 2)と同範囲
Category 4 輸送(上流)	調達資材物流の範囲 横持物流の範囲
Category 5 事業活動から出る廃棄物	REL/米沢工場、大分工場、錦工場 RSMC/那珂工場、高崎工場、西条工場、川尻工場
Category 6 出張	REL, RSMC REA, REE, RESG, REML, REIN, REHK, RECH, RESH, RETW, REKR, RSM, RST, RSK, RSC, RSB, RSKL
Category 7 雇用者の通勤	ルネサスグループ国内全拠点

<上記略称の説明>
 REL: ルネサス エレクトロニクス株式会社
 REA: Renesas Electronics America Inc.
 REE: Renesas Electronics Europe GmbH
 RESG: Renesas Electronics Singapore Pte. Ltd.
 REML: Renesas Electronics Malaysia Sdn.Bhd.
 REIN: Renesas Electronics India Pvt. Ltd.
 REHK: Renesas Electronics Hong Kong Limited
 RECH: Renesas Electronics (China) Co., Ltd.
 RESH: Renesas Electronics (Shanghai) Co., Ltd.
 RETW: Renesas Electronics Taiwan Co., Ltd.
 REKR: Renesas Electronics Korea Co., Ltd.
 RSMC: ルネサス セミコンダクタ マニファクチャリング株式会社
 RSM: Renesas Semiconductor (Malaysia) Sdn. Bhd.
 RST: Renesas Semiconductor Technology (M) Sdn. Bhd.
 RSK: Renesas Semiconductor (Kedah) Sdn. Bhd.
 RSC: Renesas Semiconductor (Suzhou) Co., Ltd.
 RSB: Renesas Semiconductor (Beijing) Co., Ltd.
 RSKL: Renesas Semiconductor KL Sdn. Bhd.

本証と別紙を合わせてご覧ください。
2 / 2

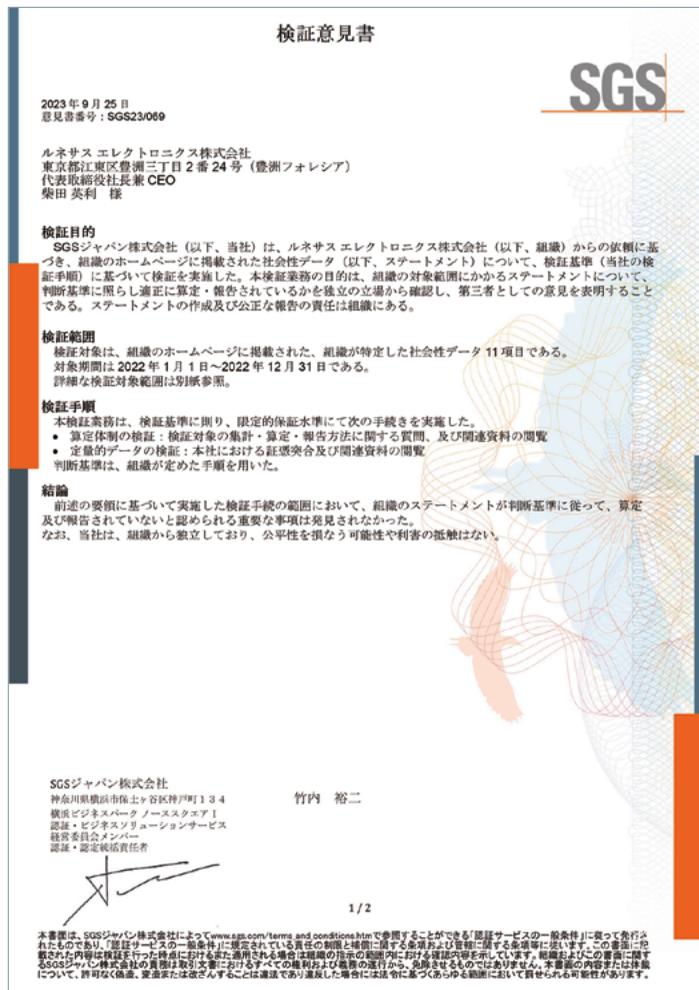
報告書を読む

出典:環境データ・第三者検証

第三者検証：人材データ

2022年度 SGS 検証意見書

(2023年度の人材データは2024年に検証予定です)



報告書を読む

- ☰ 目次
- 🔍 ルネサスについて
- 📊 2023年度ハイライト
- 🔄 サステナビリティへの取り組み
- 🌿 環境 (Environment)
- 🧩 社会 (Social)
- 🏛️ ガバナンス (Governance)
- 📎 データ集

出典: [人材データ・第三者検証](#)



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

本報告書について

当社のアプローチ

本サステナビリティ年次報告書は、2023年度(2023年1月1日から2023年12月31日まで)におけるルネサス エレクトロニクス株式会社(以下、ルネサス)の環境・社会・ガバナンス(ESG)戦略、取り組み、および成果をまとめたものです。本報告書に記載されているデータおよび活動は、ルネサスとその子会社のすべてに加え、Dialog Semiconductor Ltd. (2021年買収)のデータおよび活動も対象としています。本報告書には、過年度のデータの一部と、2024年3月の株主総会で承認された新たな取締役会の構成を含む、最新関連情報も含まれています。

このレポートは、グローバル・レポートング・イニシアチブ(GRI)基準、サステナビリティ会計基準審議会(SASB)半導体業界基準、および気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の勧告に従って作成されています。開示情報の詳細は、付属資料(112-133ページ)をご参照ください。

本報告書では、2021年以降署名している国連グローバル・コンパクトへの当社の取り組みについても述べられています。ルネサスは、17の持続可能な開発目標(SDGs)のうち13の目標を支持し、行動を起こしています。

正確性および検証

当社は、本報告書の作成およびその情報を正確に保つことはルネサスの務めであることをここに認めます。2023年12月31日を決算日とする2023年度の環境データは、第三者によって審査・検証されています(130ページをご参照ください)。2022年12月31日を決算日とする2022年度の人材データは、第三者によって審査・検証されています(131ページをご参照ください)。2023年度のデータは2024年に検証されます)。本報告書に記載されているその他のデータおよび情報は、ルネサスのリーダーシップチームおよび社内の各専門家によって審査されています。

お問い合わせ

本報告書およびESGへの取り組みに関するご質問やご意見がございましたら、ルネサス [サステナビリティ推進室](#)までお問い合わせください。皆様からのご連絡をお待ちしています。

Copyright © 2024 Renesas Electronics Corporation

本報告書は、[OBATA Design, Inc](#)が企画・制作しました。

将来の見通しに関する記述



目次



ルネサスについて



2023年度ハイライト



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



データ集

本報告書に記載されている内容のうち、ルネサス エレクトロニクスおよびその連結子会社（「当社」と総称します）の計画、戦略、および予測に関するものは、リスクや不確定な要素などを伴う将来の見通しです。このような将来の見通しに関する記述は、経営陣による将来の業績の保証を意味するものではありません。必ずではありませんが、多くの場合、将来の見通しに関する記述には、それを識別する語句として、「目指す」、「予想する」、「信じる」、「続ける」、「努める」、「見積もる」、「期待する」、「イニシアティブ」、「意図する」、「場合がある」、「計画する」、「潜在的な」、「可能性」、「予定」、「リスク」、「追求」、「するはずである」、「励む」、「目標」、「つもりである」、および類似の表現を使用しています。他にも、戦略、計画、意図についての説明の仕方でも識別することも可能です。これらの記述は、将来の見込みについて説明し、戦略を明確にするだけでなく、当社の業績または財務状況の予測を含んでいるほか、当社の事業および業界、将来の事業戦略、将来の事業環境について、現時点における期待、想定、見込み、予測に基づく、それ以外の将来の見通しに関する情報を述べたものになります。

当社の実績、業績、成果は、既知および未知のリスク、不確実性、ならびにその他の要因により、将来の見通しに関する記述に含まれるもの、またはそこで示唆されるものと著しく異なってくる可能性があります。こうした要因には、日本、北米、アジア、欧州を中心とした当社参入市場における一般的な経済状況、市場における当社製品およびサービスに対する需要および価格競争圧力、これら競争の激しい市場において当社製品およびサービスが引き続き受け入れられるようにする手腕、さらに為替レートの変動などが含まれますが、これらに限りません。その他の要因には、世界経済の悪化、世界市場の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の悪化もありますが、それにより、実際の業績が業績予想と異なってくることもあります。

本報告書は、本書の日付時点での経済、規制、市場、その他の状況に基づくものです。今後の進展次第では、本報告書に含まれる情報に影響が出る可能性があります。当社および当社のアドバイザー、代理人は、これらの情報を更新、修正、または確約する義務を負わないことをご理解ください。

The Renesas logo is displayed in a dark blue, stylized font. The letter 'R' is significantly larger and more prominent than the other letters, which are in a smaller, uniform font weight. The background of the slide features a blue grid pattern that recedes into the distance, creating a sense of depth and technology, and a close-up of a green leaf with water droplets at the bottom.

[renesas.com](https://www.renesas.com)

